

平成 25 年度
被災地における方言の活性化支援事業報告書

発信！方言の魅力

-体験する青森県の方言-

平成 26（2014）年 2 月

弘前学院大学文学部

今村かほる研究室

はじめに

弘前学院大学では、昨年度に引き続き、東日本大震災の被災地方言に関する調査・研究の仕事をすることになった。

昨年度、同じ青森県内に居住しながら、二大方言である南部弁になじみのない津軽生え抜きの学生たちと南部地域の方言の研究に着手した。これまで津軽対南部のように、対照的な点ばかりが取り上げられ、一方で同じ東北弁としての共通性についてはよく知らないという学生たちが、今年度は、自分たちの津軽弁と南部弁について比較し、被災地の役に立つような研究をしたいと考えられるようになった。

今年度は、方言の調査・研究に続き、文化庁の事業目的として以下のような「方言の保存・継承」という新たなテーマの展開をみた。

方言の「保存・継承」とは、一体いかなるものか、そこに方言研究はどのように関わるべきなのか、答えを模索しながらの取り組みとなった。この報告書は、そうした研究代表者である今村と東奥義塾高校の坂本幸博・渋谷洋両氏、弘前学院大学の学生の模索の記録である。

方言調査でお世話になった六ヶ所村・三沢市・おいらせ町・八戸市の話者のみなさん、紙芝居を上演してくださった田畑ヨシさんとそのご家族、十日市秀悦氏・榎谷伸夫氏をはじめ第一回南部弁の日イベントの関係者のみなさん、津軽昔コの語り部川村勝氏には、大変なご助力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。自分たちの方言を将来、どうしたいのか、どうあってほしいのか、同じように揺れながらも、学生たちを熱心にご指導くださいました。心より御礼申し上げます。

また、津軽と南部という青森県の二つの方言を通して、郷土の文化を体験する機会を提供できたことは、かつて方言矯正・方言撲滅という方言の価値を認めないばかりか、否定すらしてきた東北方言の歴史において、青森県の方言の価値を再発見する機会につなげることができたのではないかと自画自賛しております。

弘前学院大学 文学部

准教授 今村かほる

目 次

はじめに	1
1. 本事業の概要	3
2. つなみ体験紙芝居「つなみ」	6
田畑ヨシさんと「つなみ」	7
紙芝居「つなみ」	8
田畑ヨシさんインタビュー	18
紙芝居参加者アンケート	46
紙芝居「つなみふたたび」	50
3. 南部弁の日	69
はっちがずっぱど南部弁参加者アンケート	71
4. 南部弁と津軽弁でかだる昔コ	77
演者紹介	
昔コ	
1. くじらと坊様（南部弁）	79
2. しっくらけんのけん（津軽弁）	80
3. メドツの宝（南部弁）	82
4. からやぎの話（南部弁）	84
5. おぼさりて（津軽弁）	86
6. 米子と糠子（南部弁）	88
7. 坊様とこぼっこ（南部弁）	90
8. 穴掘り長兵衛	91
南部弁と津軽弁でかだる昔コ 参加者アンケート	94
5. 国語教育に活用できる基礎資料と教材開発のための調査・研究	97
6. ポスター展	112
7. 資料	119
あとがき	153

本事業の概要

今村かほる

0. これまでの経緯

東日本大震災における被災地域の方言の消滅の危機状況については、平成 23 年度文化庁委託事業報告書「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究」において、東北大学が調査し報告をしたことに続き、2012（平成 24）年度は青森県（弘前学院大学）・岩手県（岩手大学）・宮城県（東北大学）・福島県（福島大学）・茨城県（茨城大学）の 5 県 5 大学により、被災地方言の実態把握と記録に着手した。青森県では、特に青森県の被災地域の方言の記録を開始するとともに、被災地域や避難地域で生じている方言を取り巻く現状について把握することを目指した。

2013（平成 25）年度の本事業は、文化庁の計画により、以下のような「方言の保存・継承」という新たな段階へと進んだ。

「平成 25 年度被災地における方言の活性化支援事業の募集」

【事業の目的】本事業は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において、被災や避難に伴い消滅の危機にあると考えられる被災地域の方言について、「東日本大震災からの復興の基本方針」（平成 23 年 7 月 29 日）において『『地域のたから』である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。』と明記されていることを受けて、被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティーの再生に寄与することを目的とします。

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/h25_hogen_boshu.html

1. 業務題目

発信！方言の魅力 体験する青森県の方言

2. 業務の目的

明治以来、進められてきた方言撲滅・矯正、標準語化の教育政策により、当該地域を含む東北各地は、方言に価値が見いだせないばかりか、トラウマやスティグマにさえ感じていた。そのため、東日本大震災が発生するよりも前から東北方言は衰退していたことが、2012（平成 24）年度の危機言語調査（青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県）により明らかになった。

青森県の南部方言の調査においても、「方言を残すと言っても、いつの時代の何を残せばいいのか、わからない」とか、「方言を残すと言っても、通じないんじゃない意味がない」のように、話者が方言の価値を認識できなかったり、津軽弁に比べて機能が低下し、共通語化が

進んでいることが確認された。

そのため、本取り組みは、以下に示す 3 つの柱となる企画によって、津軽と南部の両方言からなる青森方言の魅力や価値を、若年層・高年層のそれぞれの立場で発見し、また、今後に継承していけるようにする。

- ① 津軽弁に比べ、圧倒的に学術研究が少なく、教育現場でも副教材化が進んでいない南部弁に関して、基礎的調査を実施し、国語教育に活用できる教材・素材作りに応用することで、方言教育の道を探る。
- ② 被災地の方言によるラジオ体操や演劇により、被災者を元気づけたり、方言の魅力を感じられる体験支援を実施する。
- ③ 震災の体験に関する談話や紙芝居の読み聞かせを実施して、それを収録し、震災の体験の記録保存や継承を行う。

3. 事業の実施体制

責任者・研究代表者	今村かほる（弘前学院大学文学部日本語・日本文学科准教授）
副責任者	坂本幸博（私立東奥義塾高等学校教諭）
研究協力者	渋谷 洋（私立東奥義塾高等学校講師）
研究協力者	弘前学院大学卒業生・学生

4. 事業内容・実施

- (1) 被災地の方言を調査し、地域文化として位置づけられる教材を開発するための基礎的取組（基礎・教育企画）

青森県太平洋沿岸の津波浸水地域である六ヶ所村・三沢市（塩釜）・おいらせ町（秋堂）・八戸市（市川）において、10 月～12 月に方言調査を実施し、国語教育に活用できる基礎資料・方言教材の開発のためのデータを収集した。

- (2) 被災地の方言によるラジオ体操教室・演劇を実施し、方言により被災者を支援する取組（支援企画）

被災地の方言によるラジオ体操として始められた「おらほのラジオ体操」が、被災者を元気づけている。方言を用いたラジオ体操だからこそ参加しやすいため、不足しがちなコミュニケーション行動を再活性化できるだけでなく、体を動かすことで生活不活発病への対策としての効果も実証されている。

南部弁に関しては、方言タレント・十日市秀悦氏が独自に作成した南部弁のラジオ体操がある。その十日市氏のラジオ体操をはじめ、八戸公民館館長で演劇活動と南部弁語り部でもある柁谷伸夫氏による南部弁の語りかけにより、大人と子供の両方に方言の魅力を伝える、方言によって地域の文化としての価値を実感し元気づける取り組

みとして、12月6日（金）八戸市ポータルミュージアムはっちにおいて、南部弁の魅力体験する「第一回南部弁の日」イベントを共催した。

また、参加者から「南部弁も聞きたいけれど、津軽弁も聞きたい」という要望があり、2月1日（土）に、弘前学院大学礼拝堂において、柗谷氏と津軽弁の語り部川村勝氏による「南部弁と津軽弁でかだる昔コ」を実施した。

（3）被災地の方言による震災の談話や紙芝居の読み聞かせを収録して記録保存や継承に資する取組（保存・継承企画）

自分の経験した辛い体験を、将来への備えとしてほしいと願っている被災者の方たちがいる。例えば、岩手県宮古市から青森県に避難している田畑ヨシさんは、津波の体験を基に紙芝居を作成している。それを南部方言で読み聞かせすることで、津波の記憶を伝承していこうとしている。

また、弘前市に避難しておられる方々へ弘前市役所の協力を得てイベントの案内をするほか、本学在学中の被災地出身の学生に対しても、方言で勇気付け・元気づけることにつなげることを目指した。

11月14日（木）に、弘前学院大学においてつなみ体験紙芝居「つなみ」の実演を行った。さらにそれを記録・保存し、震災体験を収集し記録・継承していくための取り組みを実施した。また、参加者からの質問コーナーを設け、津軽の人々や若い世代に継承していくきっかけづくりをした。

これら取り組みの様子をポスターにし、2月1日（土）弘前学院大学礼拝堂にてポスター展示した。また、本報告書を作成すると共に、各事業の内容を動画で記録し、その一部を公開予定である。

5. 研究体制

今村かほる：研究統括・文献調査・臨地調査・紙芝居・南部弁の日・南部弁と津軽弁でかだる昔コ企画運営担当

坂本幸博：臨地調査担当

渋谷 洋：臨地調査担当

臨地調査（準備含む）：弘前学院大学文学部学生 一戸崇矢・太田理絵・佐藤明徳・高田苑香・中西知美・北谷靖恵（4年）
一戸美佑・一戸尚子・太田真澄・佐々木翠・佐藤友行・田澤真澄・種市麻衣・松江夏穂・松山莉菜（3年）

2. つなみ体験紙芝居「つなみ」

田畑ヨシさんと「つなみ」

プロフィール

1925 年 1 月 6 日生まれ（88 歳）、岩手県下閉伊郡田老村（現・宮古市田老地区）に生まれる。兄と 3 姉妹の二女。

幼少時から、明治三陸地震の大津波を体験した祖父より、津波の恐ろしさを毎晩のように聞きながら育った。身をもって津波の恐ろしさを知っていた祖父は、家族

以外、特に他の土地からの転居者にも津波のことを語り続けてきた。

1933 年、ヨシさんが 8 歳のときに昭和三陸地震が発生し、大津波が押し寄せる中、祖父の教え「命てんでんこ」により、裏山に避難して生き延びる。周囲に同じ様に、祖父の教えにより生き延びたと語る人々が大勢いたことから、言い伝えによる教訓の重要性を認識した。

その後、津波により母を失った体験と、祖父の教え、自身の体験をもとに、孫に伝えることを第一に、紙芝居「つなみ」を制作した。以来 30 年以上にもわたり、活動の幅を広げ、今では地域の園児、児童、修学旅行生、観光客たちに紙芝居を聞かせるボランティア活動を続け、周囲の人々に津波の怖さと対処方法を訴えている。

東日本大震災の折は、偶然、紙芝居「つなみ」は宮古市教育委員会に貸し出されていたために、奇跡的に無事だった。その『つなみ』は 2011 年に産経新聞出版から絵本として出版された。

2006 年には長年の功績を称えられて、社団法人・全国海岸協会により海岸事業の推進・海岸愛護・調査・研究などの功労者へ贈られる「海岸功労者」として表彰されるなど、これまでの防災活動に対して、多くの表彰を得ている。

2011 年の震災以降、青森市に住む息子さん夫婦のところに避難しておられる。2011 年 5 月 21 日から、紙芝居の上演を再開し、つなみ体験を語り継いでいる。また、東日本大震災の体験に基づく「つなみふたたび」を制作している。





つなみ昭和 8 年 3 月 30 午前 2 時

大津波体験のまま



1. よっちゃんの
すんでいる村は
青い青い海と
白いどこまでも
つづく長い砂浜が
ありました

きれいな川がながれ
町のなかはずかで
ときどき
荷馬車がカタコト
カタコト音をたてて通る
しづかな
しづかな村でした



2. よっちゃんのお家には白くて、ながい
おひげを、はやしたおぢいさんが
ありました。おぢいさんは、いつも
よっちゃんに津波のお話しをしてくれました。
明治二十九年の津波に流されて、たった
一人ぼっちで助かったおぢいさんでした。
「いつかきっとまた津波がくるのだからな
大きな地震がゆったなら一人でも裏の
赤沼山に、にげるんだよ。大きな山のような
波が来て、さらわれるんだよ。」
おぢいさんは、津波のとき、にげなかったので
家の下になって流され気がついたときは、
「ざんがいやらごみの、なかに、うもっていて、
ようやくざんがいのなかから、はいだして
みたら、みわたすかぎり家はなく、
中田部落の吉川さんのお家まで、たどりつき
お世話になって助ったものだ。」と、
いろりの前で煙草を吸いながら
話してくれました。



3. よっちゃん、津波のきた
ゆめをみました。
お家にある、あの大きな、かまどの
うえにあがって助かったゆめでした。
「ああそうだ津波がきたら
山ににげなくても、あのかまどの
うえにあがったなら、たすかる
だろうなあー。」といつも
思っていました。



4. 三月三日のおひなまつりの夜でした。
よっちゃんは、お婆さんとねていると
ガタ、ガタと大きな地震がゆりました。
よっちゃんは、とびおきて、お婆さんと
はだしのまま赤沼山の下までかけて行って
ぶるぶる、ふるえているとお母さんが妹をおぶって
「お婆さんよしこ」と大きな声で、よぶ声がして
むかえにきたのでお家にかえったら
いろりには、大きな火がもえて、しんせきの
おぢさんがきて明治二十九年のときの
津波のことを話していました。



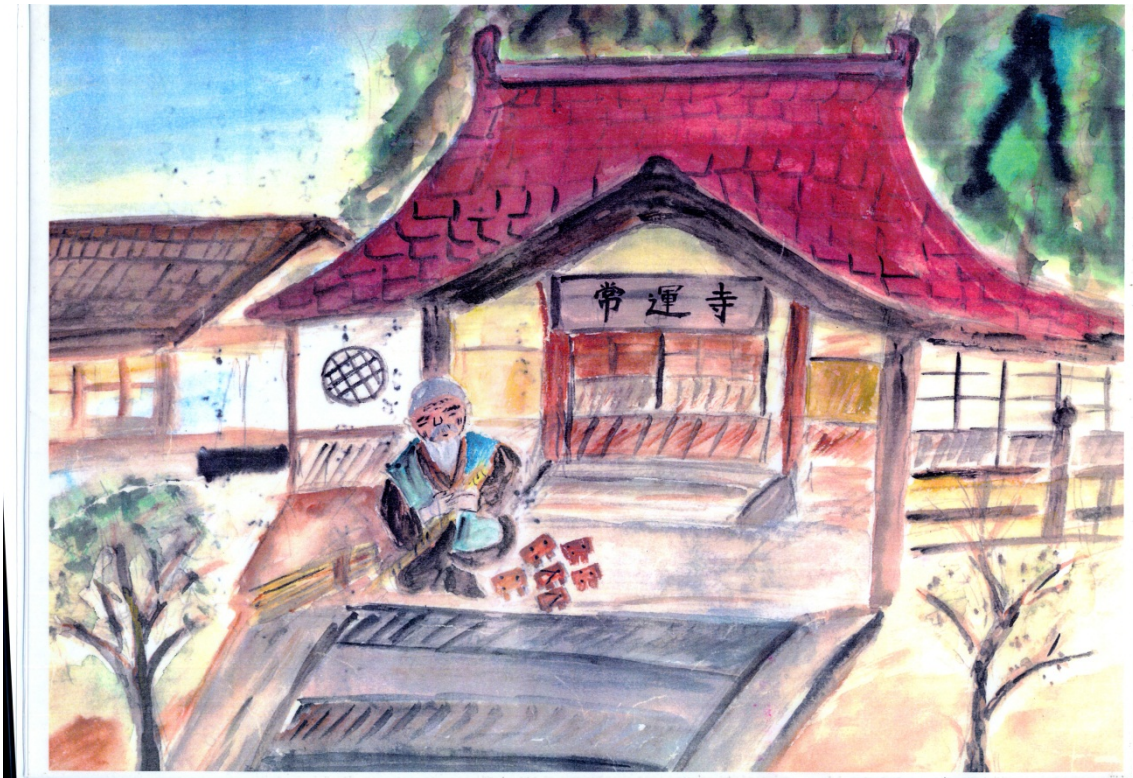
5. よっちゃんがこわくてぶるぶるふるえているとお婆さんが「さむいなら、このそでなしでもきていって。」とながい毛皮のそでなしをきせてくれたおぢいさんは、「津波がくるかも、しれないから、にげるじゅんぴをするように。」と言ってお父さんは、たいたをたばねておき、わらぞうりを、みんなのぶんげんかんに、そろえて大切なものを、カバンに入れてもってにげるばかりにじゅんぴをしておりました。しんせきのおぢいさんは、「井戸水も川の水もひけないから津波はこないだろう」といつてのんきに話していました。するとまもなく、また地震がゆりお父さんが「津波だにげろう。」と大きな声でさけびました。海の方からドンーと大きな音がしました。よっちゃんは、むちうちになってげんかんのぞうりをつかみはだしのまま、はしったが長いそでなしが足にからまりなんかいもなんかいもころびながら赤沼山ににげました



6. よっちゃんは、赤沼山に、むちゅうになって
にげたが、畠(ハタケ)にかきねがあって、とびこえる
こともできないし、下からくぐろうと、いっしょう
けんめいに、もがいていると大人の人たちは、よっちゃん
のうえを、とびこえてゆきました。
よっちゃんは、ここで波にさらわれるかなあと思い
いつも、おばあさんが地震のとき、となえている
マンザラク、マンザラクと、となえて、ようやく、
かきねをくぐって畠にでました。
にげた人達は、みんな、かぞくの名前をよんでいました。
「お母さん、お父さん。」などとさけんでいます
よっちゃんも心ぼそくなり大きな声で「おばあ
さん。」とさけんだら、すぐそばに、お婆さんと兄さん
と姉さんがきて安心したが、おぢいさんが、としより
だからと、しんぱいで、おぢいさんをよんでもみえない
そのまま、うしろ山のでっぺんまで、のぼって、
朝になるのをまっていると、おじさんが、きて
「お母さんが足を、両方けがをしている。」とおしえて
くれました。にいさんは、おじさんについてゆきました。



7. 「早く夜があけるといいなあ。」と
おもっているうちに
だんだん、あかるくなり山から
おりてみると、みんな家はなく
海だけがたかく青くすんで
ざんがいと、いやなにおいがして
いました。
お寺の前にはなににも、けがを
した人たちがうめき流れた人が
そのままごえて死んでいる人もいます
よっちゃんは、「田老はもういやだ
海のない所にゆきたい。」と
おもいました。



8. よっちゃんの、しんばいした
おぢいさんは、いつのまにか
お寺の本堂の前にすわり
げたの、はなをの、ないものを、たくさん
つんで、わらを手でいっしょうけんめい
なっていました。
おぢいさんはなにをするのかなあと
みていると、げたにわらでなった
おをたてて、はだしのまま、にげた人に
あげておりました。
「おぢいさんは、えらいなあー。」と思いました



9. お寺のくりのなかに入っていったら
お母さんは、足をりょうほう白いきれで
まいて、こたつに、よこたわっていました。
「よし、母さんは、こんなになったよ。」と、いって、みせて
くれました。よっちゃんは、たまらなく、かなしく
なりました。お父さんもお母さんを助けようと
して、腰をいため、あるけなくなったとお婆さん
が話してくれました。遠くのしんせきの人
のくるのをまってお母さんを、戸板にのせて
四人でかついて山道を宮古の病院に
はこんでゆきました。
お母さんは、お婆さんに「子供達をたのみ
ます。」といって涙をながしていました。
よっちゃんは、お寺のかいだんの、うえから
お母さんのゆくのを、じっとみながら、なきた
いのを、がまんしてみおくりしましたが
なみだをこらえたらとてものがいたくなりました。
心のなかで、よっちゃんは、「海のバカヤロー」と
なんかいいも、なんかいいもさげびました。

田畑ヨシさんインタビュー

調査日：2013年11月11日

A（調査者）：今村かほる

B：田畑ヨシさん

A：紙芝居「つなみ」をつくったきっかけは？

B：キッカケハデスネ、ワタシノ ムスメノ オットガ アノー タネイチ トイウ、
きかけはですね、私の 娘の 夫が あの一 種市 という、

トイウトゴノ キョウシ、 コウコウノ キョウシ シテタンデスヨ。 ソレガ
というこの 教師、 高校の 教師 してたんですよ。 それが

アノー、 テンキンニナッテ タロウノ コウコウニ フニン シテキタンデス。
あの一、 転勤になって 田老の 高校に 赴任 してきたんです。

サンニンノ マゴツレテ。 ソレデ コノ タロウニ スムニワ マタ イツカ
三人の 孫連れて。 それで この 田老に 住むには また いつか

ツナミガ クルカモワカラナイ ガナー ト オモッテ。 ソノ マゴニ
津波が くるかもわからない かなー と 思っテ。 その 孫に

オシエヨウトオモッテ、 ソノ ヘタナ カミシバイヲ ツクッテ、 ソウシテ
教えようと思っテ、 その 下手な 紙芝居を 作ッテ、 そうシテ

ヨミキカセヲ シタモノデシタ。 ソレガ イツノマニカ ヒロマリマシテ、
読み聞かせを したものでした、 それが いつのまにか 広まりまして、

コーユーフウニ ナリマシタ。
こういう風に なりました。

A：紙芝居に描かれている津波というのは、三陸大地震ですか？

B：ショウワ ハチネンノ。 ショウワ ハチネンノ、 サンガツ ミッカデシタカラネ。
昭和 八年の。 昭和 八年の、 三月 三日でしたからね。

A：明治の大地震のお話をヨシさんのおじいさまからお聞きになっていましたか？

B：ホウホウ、ホー。　メイジニジュウキュウネンノ　ツナミデ　ナガサレデ　タッタ
ほうほう、ほー。　明治十九年の　津波で　流されて　たった

ヒトリボッチデ　タスカッタ　オジイサン　ダソウデス。　ソレデ　チョウド　ホラ
一人ぼっちで　助かった　おじいさん　だそうです。　それで　ちょうど　ほら

メイジニジュウキュウネン　ノ　ツナミワ　ロクガツノ　ジュウゴニチデシタ。
明治十九年　の　津波は　六月の　十五日でした。

アッタガイドギダカラネ、　マァ　タスカッタド　オモイマスガネー。　ソウデー
暖かい時だからね、　まあ　助かったと　思いますがねー。　そうでー

ソレノ　ザイガイカラ　ハイダシテ　ミダラ、ドコモ　ウヂガ　ナクテ、
その　残骸から　這い出して　みたら、どこも　家が　なくて、

ソレカラ　アノー　タカダイニ　スンデル　キクカワサンノ　オウチワ
それから　あのー　高台に　住んでる　菊川さんの　お家は

ノコッテルンダロウ　トオモッテ、　ソコニ　ヨウヤク　アルイテイッテ、
残ってるんだろう　と思って、　そこに　ようやく　歩いて行って、

オセワニナッテ　タスカッタモンダド、　コノ　イロリノ　ソバデ　イズモ　コノ
お世話になって　助かったんだもんだと、この　囲炉裏の　そばで　いつも　この

ツナミノ　コトヲ　キカサレタンデスネエ。　マータ　オジイサン　ツナミノ
津波の　ことを　聞かされたんですね。　また　おじいさん　津波の

ハナシガ　キキタクナイナァー　ド　オモッテモネー、　キビシイオジイサン
話が　聞きたくないなァー　と　思ってねー、　厳しいおじいさん

ナノデネー。　ソウシテ　オジイサンガラ　イズモ　ソノ　ツナミノ　コワサヲ
なのでねー。　そうして　おじいさんから　いつも　その　津波の　怖さを

キイデ、 マダ イヅカ ツナミガ ジシंगा アレバ ツナミガ クルカモ
聞いて、 また いつか 津波が 地震が あれば 津波が くるかも

ワカンナイガラ ヒトリデモ イイカラ アカヌマヤマニ、 ニゲロヨー ッテ、
わかんないから 一人でも いいから 赤沼山に、 逃げろよー って、

イズモ ソウイウゴドヲ ハナサレテ キカレテ ソダッタンデス。 ソシテ ソノ
いつも そういうことを 話されて 聞かれて 育ったんです。 そして その

オジイサンモ、 ショウワ ハチネンノ ツナミデ ニド アッテルンデスヨ。
おじいさんも、 昭和 八年の 津波で 二度 あってるんですよ。

サンジュウハッサイニアッテ、 サンジュウナナメンメ ニシテ マダ ニド
三十八歳にあって、 三十七年目 にして また 二度

アッテルンデス。 デ、 ワダシモ ジイサンノヨウニ ニドワ アイタクナイナー
あってるんです。 で、 私も じいさんのように 二度は あいたくないなー

ト オモッテダラ、 トウトウ モウ ニド アッテシマイマシタネー。 シガツ
と 思ってたなら、 とうとう もう 二度 あってしまいましたねー。 四月

ニホンノ アノー サイガイデ。 ヒトリデ スンデオリマシタッタケドー、 ウチ
日本の あのー 災害で。 一人で 住んでおりましたが、 家

ナガサレデ スムドゴロガ ナクテ、 サイワイ ココニホラ ムスコガ
流されて 住むところが なくて、 幸い ここにほら 息子が

スンデマシタノデ、 ココニ ムカエラレデ、 ソウシテ イマワ アオモリシミン
住んでましたので、 ここに 迎えられて、 そうして 今は 青森市民

ニナッテ、 ウフフフ {笑} ミナサマノ ゴシエンヲ イタダイテ シアワセニ
になって、 うふふふ {笑} 皆さまの ご支援を いただいて 幸せに

クラシテオリマス。
暮らしております。

A：震災のあった当日は、お一人で病院に行っておられたのですか？

B：アー アノー、 ツナミノヒデスネ。 ハン一 クスリヲ イタダキニイッテ、
あー あのー、 津波の日ですね。 × 薬を いただきに行って、

ソノテマエノ _____ オオキナ ジシंगा ユキマシタガラネー、 ソノ
その手前の _____ 大きな 地震が いきましたからねー、 その

センセイワ ヨソカラ オイデニナッタ センセイナノデ、 ツナミノ オハナシヲ
先生は 他所から おいでになった 先生なので、 津波の お話を

シテキマシタノネ。 エヘヘ {笑} ソウシテ イチジゴロ ウチニカエッテ、
してきましたのね。 えへへ {笑} そうして 一時ごろ 家に帰って、

アノー オヒルゴハン タベテタドキ オオギナ ジシंगा ユレマシタガラネ。
あのー お昼ご飯 [を] 食べてた時 大きな 地震が 揺れましたからね。

ソレカラ サイワイ イモウトガ タカダイニ スンデオリマシタノデ、 ソウシテ
それから 幸い 妹が 高台に 住んでおりましたので、 そうして

イモウトガ シンパイシテ、 アネガ スグキンジョニ スンデオリマスノデネ、
妹が 心配して、 姉が すぐ近所に 住んでおりますのでね、

ソノ アネヲ シンパイシテ キタソウデス。 ソシタラ アネヲ モウ オテラニ
その 姉を 心配して 来たそうです。 そしたら 姉は もう お寺に

ヒナン シタッテタガラ コンドワ ワタシノ トゴロニ キテ、
避難 していたから 今度は 私の ところに 来て、

「ナニヤッテルノ ハヤグ ニゲデー。 ツナミガ クンダガラー。」 ッテ
「何やってるの 早く 逃げてー。 津波が くるんだからー。」 って

サワイデキマシタノ。 ワタシワ ホラ ゲンカンニ イツモ ショウワハチネンノ
騒いできましたの。 私は ほら 玄関に いつも 昭和八年の

ツナミイライ、 アノー タイセツナモノワ カバン、 リュックニ イレデネ、
津波以来、 あのー 大切なものは 鞆、 リュックに 入れてね、

ソシテ ハー ヒナンスル ジュンビヲシテ、 ソシテ ゲンカンサ ソノアレヲ~~~~~
そして × 避難する 準備をして、 そして 玄関に そのあれを~~~~~

デ タナガラ アノー ゴハン、 アゲタモノガ オチテキタンデスヨ。 ソレヲ
で 棚から あのー ご飯、 あげたものが 落ちてきたんですよ。 それを

カタズケナガラ ニゲヨウトオモッデ ソレ カタズケテタンデス。 ソシタラ
片付けながら 逃げようと思って それ 片付けてたんです。 そしたら

イモウトガ ホラ サケンデ キテ ソノ リュックヲ ハオワ ジブンヲ
妹が ほら 叫んで きて その リュックを ~~~~~ 自分は

セオッテ ハシッテクンデ ソノアド ワダシモ ハシッテ、 イモウドノトゴロニ
背負って 走っていくから そのあと[を]私も 走って、 妹のところに

イッテネ、 コンド ソノ ツナミノクルノヲ ウミガ スッカリ ミエルトゴ
行ってね、 今度 その 津波のくるのを 海が すっかり みえるとこ

デスノデネー、ソイウシテモウ コノ コレ サカベジマ ト イイマスガネ、
ですのでねー、そうしてもう この これ 佐賀部島 と いいますがね、

ココノトゴロヲ クモダガ ナミダガ ワカラナイヨウニ マッシロク
ここのところを 雲だか 波だか わからないように 真っ白く

ナッテルンデスヨ。 ソレガ コウ オオイカブサッテキテタラ コノホラ
なってるんですよ。 それが こう 覆いかぶさってきたら このほら

アノー ワンノナカニ ハイッタラ、 マックロイ ケムリ アノー スナケムリヲ
あのー 湾の中に 入ったら、 真っ黒い 煙 あのー 砂煙を

アゲテ ソシテ ソノ テイボウガ ホラ ジューメーターノ タカサノ
あげて そして その 堤防が ほら 十メートルの 高さの

テイボウガ アルンダノ、ソレヲ ノリコエテキタンデスヨ。
堤防が あるんだけど、それを 乗り越えてきたんですよ。

ソシタラ ホラ テイボウノタメニ ザンガイガ ミンナ テイボウガ
そしたら ほら 堤防の為に 残骸が みんな 堤防が

コワレナカッタタメニネ、 ザンガイガ イーッパイ アレデ ソイサホラ、
壊れなかった為にね、 残骸が いっぱい あれて それにほら、

カクカテイニ クルマガ アルカラネ、 クルマカラナニカラ
各家庭に 車が あるからね、 車から何から

イッカゲツハングライネ、 ジブンノ ヤシキ ミタクテモ イカレナイヨウナ
一ヶ月半くらいね、 自分の 屋敷 見たくても 行かれないような

ジョウタイデシタノ_____。 ソシテ ジエイタイノ カタガタノ オカゲデ マァ
状態でしたの_____。 そして 自衛隊の 方々の おかげで まぁ

アノー ナントカ ドウロモ カタガツイテネ、 ウーン ソシテ サンガツノ
あのー なんとか 道路も 方がついてね、 うーん そして 三月の

ニジュウロククニチニ ココノ ムスコタチガ ムカエニキテ、 ソレデ ココニ
二十六日に ここの 息子たちが 迎えにきて、 それで ここに

スンデルワケデス。 デモ コドモタチヲ ホラー ミンナ タホウメンニ オイダ
住んでるわけです。 でも 子どもたちを ほらー みんな 多方面に 置いた

モンダガラネ、 イガッタ_____ タロウニ イッタラ サンギョウモナイトコロ
もんだからね、 よかった_____ 田老に 行ったら 産業もないところ

デスネー。 ハマヨリ ホカニ ナニモ シゴトガ ナイトコデスカラ。
ですねー。 浜より 他に 何も 仕事が ないところですから。

ソイデ ヨソニ オイテ イガッタナー、 トオモッテ ヘヘ。 コウシテ
それで 他所に 置いて よかったなー、 と思って ヘヘ。 こうして

イマココニ オセワニナッテルヨウナ ワケデス。
今ここに お世話になってるような わけです。

A：では、津波のときは妹さんの家に避難していたのですね？

B：イモウトガ タカダイニ スンデル ソコニイッテ、 ソシテ ゴゴノ サンジ
妹が 高台に 住んでる そこに行って、 そして 午後の 三時

ニジュップンノ ツナミ ダッタモンダガラネ、 _____ノアタリニ ミルコトガ
二十分の 津波 だったもんだからね、 _____のあたりに 見ることが

デマシタノ。 ソウデナケレバネー ツナミヲ ミル アレモ
でしたの。 そうでなければねー 津波を 見る あれも

ナカッタンデスケドネー。 ソーユー ジョウタイデス。 ソシタラホラー、
なかったんですけどねー。 そういう 状態です。 そしたらほらー、

イモウトノ ドゴロニ タークサン ヒナンミンガ ドンキテネー、 シバラクノ
妹の ところに たくさん 避難民が _____来てねー、 しばらくの

アイダ、 イモウトガ ソコデ マァ ミナサンサ ショクジヲ シタリ
間、 妹が そこで まあ みなさんに 食事を したり

オアゲタリシ ナンダリ シテマシタケドネ。 ウーン マァ サイワイナコトニ
おあげしたり なんだり してましたけどね。 うーん まあ 幸いなことに

ホラ タカダイニ スンデルガラネ、 ナンデモ ホラー アノー マイニチ
ほら 高台に 住んでるからね、 なんでも ほらー あの一 毎日

イツモアレスル ヨウニ モノヲ ハコンデ イタダグノモ ワルイド
いつもあれする ように 物を 運んで いただくのも 悪いと

オモッデ、 イッカイニ ヒトリコ スンデルンデスケドネ、 タクサンノモノヲ
思って、 一階に ひとりこ 住んでるんですけどね、 たくさんの物を

コウ トウユカラ ナニカラ アノー タクサン アリシタガラネ。 ソレデ
こう 灯油から 何から あのー たくさん ありましたからね。 それで

ヨウヤク タスカリマシタ。 ソイトホラ デンキモ ミズモ キマセンカラネ、
ようやく 助かりました。 それとほら 電気も 水も きませんからね、

ロウソクヲ タテデ ソウシテ ヨルヲ スゴシタモンデス。 ソシタラ サイワイ
ろうそくを 立てて そうして 夜を 過ごしたもんです。 そしたら 幸い

オテラニ オショウサンガ キテネ、 オオキナ ロウソクヲ モッテキテ
お寺に 和尚さんが 来てね、 大きな ろうそくを 持ってきて

クダサッテ、 ソレデ マァ ヨルヲ ナントカ スゴシタヨウナワケデス。
くださって、 それで まあ 夜は なんとか 過ごしたようなわけです。

デ、 ミズヲ アノー ソコニ タノサワカラ トイウ ダムガ アリマスカラネ、
で、 水は あのー そこに 田沢川 という ダムが ありますからね、

ソコガラ キンジョノ オトウサンガ、 カツギボウデ アレシテ、
そこから 近所の お父さんが、 担ぎ棒で あれして、

ハコンデ クダサッテ、 ミンナ ソンナ ジョウタイデシタ。
運んで くださって みんな そんな 状態でした。

ミナサンノオカゲデ マァネー、 ナントカ スゴシタヨウナ モンデスガ。
みなさんのおかげで まあねー、 なんとか 過ごしたような もんですが。

オジイサンモ ホラー メイジ ニジュウキューネンド、ショウワ ハチネンノ
おじいさんも ほらー 明治 二十九年と、 昭和 八年の

ツナミデ ニド アッテル オリマスカラネー。 ワタシモ オジイサンノ ヨウニ
津波で 二度 あってる おりますからねー。 私も おじいさんの ように

ニドワ アイタクナイナー ド オモッダラ、 トウトウ ニド
二度は あいたくないなー と 思ったら、 とうとう 二度

アッテシマイマシタガラネ。
あってしまいましたからね。

A：紙芝居が残っていたのは、たまたま教育委員会に貸していたからだそうですね？

B：ソウソウ。 ミヤコノ キョウイクイインカイデネ、 ミッカマエニ
そうそう。 宮古の 教育委員会でね、 三日前に

「カシテクダサイ。」 トイウンデ、 『ナニニ オツカイシマスカ？』 ッタラ、
「貸して下さい。」 と言うので、 『何に お使いですか？』 と言ったら、

「コレ インサツジョニ タノンデ、 ショウチュウガッコウニ ハイフ シタイト
「これ 印刷所に 頼んで、 小中学校に 配布 したいと

オモッテイマスカラ。」 ッツンデネ、 『ホンジャ オモチニナッテクダサイ。』 ッテ
思っています。」 と言うのでね、『それじゃ お持ちになって下さい。』 って

ソシテ オカシシタノデ、 ワタシノ テモトニ モドッテキマシタガ、
そして お貸ししたので、 私の 手元に 戻ってきましたが、

ソウデナケレバ モウ ミンナ ナガサレテ シマウンデスヨ。 ソウシテ ホラー、
そうでなければ もう みんな 流されて しまうんですよ。 そうして ほら一、

カクガッコウトカ ホイクエンノヨウナ トコロデ、 アノー イツノマニカ
各学校とか 保育園のような ところで、 あのー いつのまにか

ヒロマリマシテネ。 「カミシバイ シテクダサイ。」 ッテ マア、 ヨミキカセ
広まりましてね。 「紙芝居 して下さい。」 って まあ、 読み聞かせ

シテクルンデスヨ。 ソーセバ セイトサンタチガネ、 カンソウブンヲ
してくるんですよ。 そーせば 生徒さんたちがね、 感想文を

カイデクレテ、 ソーセバ センセイガタガ ワタシノトコロニ オクッテ
書いてくれた、 そうすれば 先生方は 私のところに 送って

クダサルンデス。　アー　コレ　ワタシノ　タカラモノニ　シヨウナアー　ト
下さるんです。　あー　これ　私の　宝物に　しょうなあー　と

オモッテネー、　ホンバコニ　タクサン　ツメドイタンデス。　ソレミンナ
思ってねー、　本箱に　たくさん　つめておいたんです。　それみんな

ソレモミンナ　ナガサレテ　シマッタンデスネ。　ダドオモッテ　ドウ
それもみんな　流されて　しまったんですね。　だと思って　どう

ウケドメデ　クレタカナァ　ツテバ、　ヤッパリ　ツナミッテ　コワイモンダ
受けとめて　くれたかなあ　って思えば　やっぱり　津波って　怖いもんだ

タカダイサ　ニゲル　トカッテユーフウニネ、　ソノ　セイトサンタチガ　ミナ
高台に　逃げる　とかっていう風にね、　その　生徒さんたちが　みんな

カイデクダサッテネ、　ウーン　ソレモ　ミンナ　ナガレテシマイマシタモンデ。
書いて下さってね、　うーん　それも　みんな　流されてしまいましたもんで。

A：「いのちてんでんこ」とは、どういう意味ですか？

B：アノー、　コノ　イロリノ　ソバデネ　オジイサンガネ　ツネニ　ワタシニ
あの一、　この　囲炉裏の　そばでね　おじいさんがね　常に　私に

イイキカセタネ。　「イノチハ　テンデンコ　ダカラナ。　ヒトリデモ　ジブンノ
言い聞かせてね。　「命は　てんでんこ　だからな。　一人でも　自分の

イノチワ　ジブンデ　マモルヨウニ。　モシ　オオキナジシンガユレテ　ツナミガ
命は　自分で　守るように。　もし　大きな地震が[来て]揺れて　津波が

キタラ、　（アカヌマヤマッテ　スグ　ウラガワニ　アリマシタガラネ。）　アソコニ
きたら、　（赤沼山って　すぐ　裏側に　ありましたからね。）　あそこに

ニゲルンダ。」　ツテ　イツモ　キビシク　イワレテマシタ。　ソノ　オジイサンガ、
逃げるんだ。」　って　いつも　厳しく　言われてました。　その　おじいさんが、

「イノチワ テンデンコダカラナ。」 トイウヨウナコトヲ。 ジブンデ マモレ
「命は てんでんこだからな。」 というようなことを。 自分で[命を]守れ

ッテ イウイミデスネ。 ツナミノ トキヲ ホラー、 モウ ウチデワ
って いう意味ですね。 津波の 時は ほらー、 もう うちでは

コノヨウニ ジュンビシテタンデスヨ。 カバンサ タイセツナモノヲ イレダリ、
このように 準備してたんですよ。 鞆に 大切なものを 入れたり、

ココニ アノー ホラ ヤマニイケバ サムイガラネー、 アノー マツノネツテ
ここに あのー ほら 山に行けば 寒いからねー、 あのー 松の根を

ホツデ イツモ ソレサセバ ヒガツクンデスヨ。 ソーユーノヲ チャント
掘ってて いつも それにすれば 火がつくんですよ。 そういうのを ちゃんと

ニゲル ジュンビヲ シテタンデスヨー。 ソシテホラ ゲンカンサ ワラゾウリヲ
逃げる 準備を してたんですよ。 そしてほた 玄関に 藁草履を

ミンナ カゾクブンヲ ソロエテ。 ソウシテ ジュンビ シテタンデス。
みんな 家族分を 揃えて。 そうして 準備 してたんです。

ソシテ ワタシワ ハダシノママ ホラ ツナミダー ッテニゲルンデ、
そして 私は 裸足のまま ほら 津波だー って逃げるんで、

ハダシノママ ニゲデ、 ゾウリヲ ツカンデ ハシッタンデスヨ。
裸足のまま 逃げて、 草履を 掴んで 走ったんですよ。

ソーデネ、 ワタシガ コワクテ ブルブル フルエテタラ、 「サムイカッタラ
それでね、 私が 怖くて ぶるぶる 震えてたら、 「寒かったら

コレヲ キル。」 ソデナシヲ キセラレタンズ。 「コレデモ キロ。」
これを 着る。」 袖なしを 着せられたんです。「これでも 着ろ。」

ッテ。 コレヲ キセラレタンズ オトナノキル コレヲネ。ソイデ ソレヲ
って。 これを 着せられたんです 大人の着る これをね。それで それを

キタママ ニゲタガラ ソレガ アシニ カラマッテ ナカナカネー、 アシガ
着たまま 逃げたから それが 足に 絡まって なかなかねー、 足が

ハコバレナカッタドモ マァ、ナントカ アカヌマヤママデ ニゲタンデス。
運ばれなかったけれども まあ、なんとか 赤沼山まで 逃げたんです。

ハダシノママ コノ ゾウリヲ ツカンデ。 ソーシテ オジイサンガ
裸足のまま この 草履を 掴んで。 そうして おじいさんが

トシヨリダガナー オジイサンヲ シンパイデ、 オジイサーン ッテモ ミエネー
年寄りだからなー おじいさんを 心配で、 おじいさーん って[言っても]見えない

ンデ、 ソシタラ コンドワ ホラ カキネヲ ヨウヤク クグッタ ワケデスネー。
そして、そしたら 今度は ほら 垣根を ようやく くぐった わけですねー。

ソーユーノヲ カイテマスガ。 ソシテ オーバーサーン ッタツケ スグソバニ
そういうのを 書いてますが。 そして おばーさーん って言うと すぐそばに

オバアサント ニイサント オネエサンガ イテネ、 アー イガッダナァー ド
おばあさんと 兄さんと お姉さんが 居てね、 あー 良かったなァー と

オモッテ ソウシテ、 「ココマデモ ナミガ クンダガラ ウラヤマサ ニゲロ。」
思っテ そうして、 「ここまでも 波が くるんだから 裏山に 逃げろ。」

ッテ アノー ガッコウノ ウラノガワノ タカイヤマガ アルンデ、 ソコマデ
って あのー 学校の 裏側の 高い山が あるんで、 そこまで

アルイテイッタンデスヨ。 ウーン。 ソーユーコトガ アリマシタネエ。
歩いて行ったんですよ。 うーん。 そういうことが ありましたねえ。

ソーシタラネ、 ワタシガ イクトチュウニ コドモガ オチテキタンデ ウエノ
そうしたらね、 私が 行く途中に 子どもが 落ちてきたんで 上の

ドウロノ ホウガラネ。 ソーシタツケ コノコドモナ ドースッペナー ド
道路の 方からね。 そうしたら この子ども どうしよう と

オモッテネー、　ダッコスノモ　アレダシ　トオモッテッキヤ　ソノ
思ってねー、　抱っこするのも　あれだし　と思ってたら　その

オカアサンガ　ソノコドモヲ　トリニキタッタノネー。　デ、　ソーシテ　ソノ
お母さんが　その子どもを　とりに来たのねー。　それで、　そうして　その

オカアサンガ　~~~~~　オカアサンタチノハウガ　ワカッタワゲネー。
お母さんが　~~~~~　お母さんたちの方が　わかったわけねー。

ソーシテ　ソノ　コドモヲ　ダッコシテ　オカアサンガ　イッタンデ、　アー
そうして　その　子どもを　抱っこして　お母さんが　行ったから、　あー

イガッダナァー　ト　オモッタラホラ、　コドモノ　オチタトコロニ　チョウド
良かったなァー　と　思ったらほら、　子どもの　落ちたところに　ちょうど

アノ　ホラ　アノー　サカミチノ　タメニネー、　モウ　ソコガ　クウドウニ
あの　ほら　あの一　坂道の　為にねー、　もう　そこが　空洞に

ナッテルンデスヨ。　ソーシテ　ヨウヤク　アシヲ　コウ　ヒトツツ
なってるんですよ。　そして　ようやく　足を　こう　ひとつ

ササエルクライノ　アノー　アレ　タダ　クウドウニ　ナッテルガラ、
支えるくらいの　あの一　あれ　ただ　空洞に　なってるから、

オカアサンガ　ホラー　コドモ　イッシュウカンメニナル　コドモ　ナンダッテネ。
お母さんが　ほら一　子ども　一週間目になる　子ども　なんだってね。

ソーシテ　ソコニ　ホラー　コノ　アレサ　ツマズイテ　コロンダラ　コドモヲ
そして　そこに　ほら一　この　あれに　躓いて　転んだら　子どもを

シタサ　オトシタンダ。　ソノ　コドモガ　ホラ　~~~~~のオカアサンダジ
下に　落としたんだ。　その　子どもが　ほら　~~~~~のお母さんたち

ナワカッタノネ。　ソーシテ、　ツレデイッタンダー　イガッダー　ド　オモッテ
わかったのね。　そうして、　連れていったんだー　良かったー　と　思っ

ダノネ。 ソーシテ アノー ナンネンカゴニ ホラ ツナミノ アレガアッタノ。
たのね。 そうして あのー 何年か後に ほら 津波の あれがあったの。

ソーバ ソノ カダガネー、 ソノ ダッコサレダ カタガ カキザキセンセイ
 その 方がねー、 その 抱っこされた 方が かきざき先生

ッテ カンチョウノ アノー カンチョウサン シテラッタノ、コウミンカンノネ。
って 館長の あのー 館長さん してたの、 公民館のね。

デ ソコデ ホラ ツナミノ ナンネンゴ ミンナ アノー
そしてそこで ほら 津波の 何年後 みんな あのー

タイケンシタ ノ ザダンカイガ アッタノネ。 ソシタラホラ ソノ
体験した の 座談会が あったのね。 そしたらほら その

カンチョウサンガネ、 「オレノ オフグロワ オレ イッシュウカンメニ
館長さんがね、 「俺の お袋は 俺 一週間目に

アレシテ アノー サカガラ オドシテ ソーシテ ニゲダフウダバ 。」ッテ
あれして あのー 坂から 落として そうして 逃げた風だ 」って

イワレタンデネ、 アー ホンテ カンチョウサンダッタノー ワタシノ
言われたんでね、 あー 館長さんだったのー 私の

アシモトサ オチテキタノー ッテ。 ソレガ キグウダッタノネ。{笑}
足元に 落ちてきたのー って。 それが 奇遇だったのね。{笑}

ソーダッキャ ホー 「オメーサンワ イノジノ オンジンダナ。」 ッデ
そうしたら ほー 「お前さんは 命の 恩人だな。」 って

シャベッデ、 イヤー イノジノ オンジンッテ オカアサンガ スグー
しゃべって、 いやー 命の 恩人って お母さんは すぐー

モドッテキテ ンデ ダッコシテイッタンデ アンシン シタッタガ、 モー
戻ってきて そして 抱っこして行ったから 安心 したけれど、 もー

ドースベ ドオモッテ ワタシワ カンガエテタトコサ オカアサンガ
どうしよう と思って 私は 考えてたところに お母さんが

キタンデ イガッタノ ッテ。 ソンナコトモ アルノネ。 ウーン、 デモホラ
来たから 良かったの っ。 そんなことも あるのね。 うーん、 でもほら

ケガモ シナイデネ、 ナシテ イッシュウカン ダッタソウデスガネ。
怪我も しないでね、 / / / 一週間 だったそうですがね。

ミンナ ソーユーヨウナ ジョウタイダッタノネ。 ソノ ジョウタイモ マア
みんな そういうような 状態だったのね。 その 状態も まあ

コウヤッテ カイタモンデスガネ。
こうやって 書いたもんですがね。

A：「津波のときはてんでんこ」という言い方も？

B：ソレモ オジイサンカラ 「イノチワ テンデンコ ダカラナー。 ヒトリデモ
それも おじいさんから 「命は てんでんこ だからなー。 一人でも

イイカラ ニゲロー。」 ッテ イワレテ ソダッタワケデス。 ダガラ、 ハッサイ
いいから 逃げろー。」 っ。 言われて 育ったわけです。 だから、 八歳

ダッタドモ ホラ ゾウリ ツカンデ ハダシノママ アカヌマヤマ ダッテ。
だったけど ほら 草履 掴んで 裸足のまま 赤沼山 だっ。

ソノ アカヌマヤマ ッツートゴノ ソノ シタニネ、 アノー チョウエイノ
その 赤沼山 っ。 っていうところの その 下にね、 あのー 町営の

ジュウタクガ ニケン アッタノ。 ソレガ トタンヤネデネ ムカシワ ミンナ
住宅が 二件 あったの。 それが トタン屋根でね 昔は みんな

スギカワノ ヤネサ イシ ノセテルウチガ タクサン アッタドモ、 ソコワホラ
杉皮の 屋根に 石[を] 乗せる家が たくさん あったけども、そこはほら

ムラデ タデダ ジュウタクデ、 アノー ジョヤクサン ド カタッポニワ
村で 建てた 住宅で、 あのー 助役さん と 片方には

アオモリカラ オイデニナッタ イーリンキョク ノカタガ オイデニナッタノネ。
青森から おいでになった 営林局 の方が おいでになったのね。

コクジュウジン ツツーノガ ホラ アッチコッチニ アッタガラ、 ソレ
国有林 っていうのが ほら あったこっちに あったから、 それ

カンリスルタメニ アオモリケンカラー ホラ スンデル ゴフウフガ
管理する為に 青森県から ほら 住んでる ご夫婦が

イダッタノ。 ソイデ ソコガ ニケントモ トタンヤネ ダッタノネ。
いたの。 それで そこが 二軒とも トタン屋根 だったのね。

デ ワダシノウチワ ソノトナリノ ホウニアッテ ソコノ ウチノ
そして 私の家は その隣の 方にあって そこに うちの

マエヲトオッテ、 ソノ ジュウタクヲ カコウヨウニ オモデノホウマデ
前を通って、 その 住宅を 囲うように おもての方まで

アノー タカイ ホラ ヘイ、 ヘイガ アッタワケネ。 デ ヨウヤグ
あのー 高い ほら × 、 塀が あったわけね。それで ようやく

ワタシダチガ クグルクライノ クグリド シカ ナガッタノ。 ソーシテ ムカシ
私たちが くぐるくらいの くぐり戸 しか なかったの。 そうして 昔

ホラ ワタシウチワ ノウカダカラ、 ロクダングライノ アレニシテ、
ほら 私の家は 農家だから、 六段くらいの あれにして、

タカイトコロニ ヤスリガ アッタノネ。 マチカラ ハシツテクルニ ウチノ
高い所に やすりが あったのね。 町から 走ってくるのに 家の

ロクダングライノ イシダンヲ ワタツテカラ、 ソコノ ジュウタクノマエヲ
六段くらいの 石段を 渡ってから、 その 住宅の前を

トオラネバネーノ。 ソーセバ ソノ ナントシテモ ソノ クグリドヲ
通らなければいけないの。そうすれば その 何としても その くぐり戸を

クグラネーバナイノ。 ダカラ ホラ クグリドヲ クグロウト シタトコサ、
くぐらなければいけないの。だから ほら くぐり戸を くぐろうと したとこに、

ナミガキテ ソコデ タイシタ ヒトモ ナクナッタワケネ。 ダカラ ウチノ
波がきて そこで たいした 人も 亡くなったわけね。 だから 家の

ハハオヤモ イモウトヲ オブツテダガラ ソレガ クグレナクテ ソコノ ホラ
母親も 妹も おぶってたから それが くぐれなくて そのの ほら

ジュウタグノ ガケツブジノ ササヤブサ シガミツイテダノ。 ソコサ ホレ
住宅の 崖っぷちの 笹やぶに しがみついていたの。 そこに ほれ

ツナミガキテ モウ アシヲ リョウハウ ハア セツダンスルヨウナ ケガヲ
津波がきて もう 足を 両方 × 切断するような 怪我を

シタワケ。 ソウシテ チチオヤガ ナンガ ニゲデイッタラ、 オカアサンノ
したわけ。 そうして 父親が なんか 逃げて行ったら、 お母さんの

ヨウナオトガ タスケテ タスケテ ツツウ オトガ スルド オモツテ
ような音が 助けて たすけて っていう 音が すると 思っ

チチオヤモ タスケイッタミタラバ、 アルゲ アルゲ ッテイッテモ
父親も 助けに行ってみたら、 歩け 歩け って言っても

アルゲネー、 ット。 「オマエ コス コスヌカシテ アルゲネンダベ。 ホンデ
歩けないー、 って。 「お前 × 腰ぬかして 歩けないんだろ。だったら

オレサ オブサレ。」 ッテ。 ソウシテ ジブンモ タズシュンカンニ コス
俺に おぶされ。」 って。 そうして 自分も 立つ瞬間に 腰

イダメデネ。 コーシデ サラワレルカラ ホンダラ ハッテ アベツテ。
痛めてね。 こうして さらわれるから そしたら 這って 〃〃〃〃

ソーシテ ホレ ハタケガ アッタドゴニ マア サキニ ニゲタヒトダチ~~~~
そうして ほれ 畑が あったところに まあ 先に 逃げた人たち~~~~

タキギ モヤシテ ラッタト。 ソコマデ ハッテ イッタソウデスカラ。
薪[を] 燃やして たんだって。そこまで 這って 行ったそうですから。

ナニシタラ ミダラ、 ハハオヤノ アシワ ハア リョウホウ プラプラ
そうしたら 見たら、 母親の 足は もう 両方 プラプラ

シテラッタソウデス。 ソウ シュッケツタリョウ ダッタド オモイマスガネ、
してたそうです。 そう 出血多量 だったと 思いますがね、

ソノトウジワ ホラ コクドウモナイ ケンドウモナイ ジダイデスカラ、
その当時は ほら 国道もない 県道もない 時代ですから、

ミヤコニ イグダッテ ニジュウロックキロノ ヤマミチヲ アノー ヤマノ
宮古に 行くのも 二十六kmの 山道を あのー 山の

ソレコソ ドウロノナイ ドゴロヲ、 イク ジダイ ダッタガラネ。
それこそ 道路のない ところを、 行く 時代 だったからね。

ソウシテ ハハオヤワ トウトウ ケガシテ、 ソイデホラ タカダイニ
そうして 母親は とうとう 怪我して、 それでほら 高台に

スンデル シンセキノヒトダジ カラ オネガイシテ、 アノ トイタ ニ
住んでる 親戚の人たち から お願いして、 あの 戸板 に

ノセテネー、 シーシテ ヨニンデ カツイデ ヤマミチヲ ミヤコノ
乗せてねー、 そうして 四人で 担いで 山道を 宮古の

ビョウインマデ ハコンデイッタワケ。 ビョウイン タッテ イマノヨウナ
病院まで 運んでいったわけ。 病院 といっても 今のような

ビョウインデ ナインデスモンネ。 ソーシタラ ホラー サンリクイッタイノ
病院で[は] ないんですもんね。 そうしたら ほらー 三陸一帯の

ツナミダガラ タークッサンノ ケガニンガ アノー ナランデラッタソウデ。
津波だから たくさんの ケガ人が あのー 並んでいたそうで。

ヨルニナッテカラ シンサツ シテイタダイタドモ マァ ミッカメニワ
夜になってから 診察[を] していただいたけども まあ 三日目には

オコツニナッテ カエッテキタッタン。 ソーユー ジョウタイダッタンデス。
お骨になって 帰ってきた。 そういう 状態だったんです。

ホント ゲンザイダッタラ タスカル イノチモ タスカラナカタノ、 ソノ
ほんと 現代だったら 助かる 命も 助からなかったの、 その

トウジワネ。 ウーン ソーユー ジョウタイデシタ トニカク。
当時はね。 うーん そういう 状態でした とにかく。

ソレデモ ツナミゴ ホレ エライ ソンチョウサンガ キテネ セキグチ
それも 津波後 ほれ えらい 村長さんが 来てね 関口

ソンチョウサン トイウカタガキテ、 テイボウモ ジューメータノ タカサニシテ
村長さん という方が来て、 堤防も 十mの 高さに

ニーテンヨンキロノ ソノ テイボウヲ ブーット ツクッテ クダサッテネ。
二、四kmの その 堤防を ずっと 作って 下さってね。

ソレカラ カク コウツウセイリ クミアイ トイウノガ デキデ。 カク
それから 各 交通整理 組合 というのが できて。 各

カテイノ トチヲ ニワリズツ テイキョウシテ、 ソウシテ ゴバンノメニ
家庭の 土地を 二割ずつ 提供して、 そうして 基盤の目に

ワラレタ マチダッタノネ。 ナニチクワココ ナニチクワココ。 ソウシテ
割られた 町だったのね。 何地区はここ 何地区はここ。 そうして

タカダイニ コンドアノ ヒナンドウロモ ミンナ セイリサレテ、 イシダンガ
高台に 今度あの 避難道路も みんな 整理されて、 石段が

ツイデ イシダンガ ツイデネ。 ココサ ヒナンスルヨウニ。 ワァー コンナ
ついて 石段が ついてね。 ここに 避難するように。 わぁー こんな

スバラシイマチワ ドコニモナインダナー ド オモッテネー。 ヒトリデ
すばらしい町は どこにもないんだなー と 思ってねー。 一人で

クラシテラッタデス。 ミンナ ホラ サンギョウモナイ ドゴデ、 ハマヨリ
暮らしてたんです。 みんな ほら 産業もない とこで、 浜より

ホカ ナニモナイカラ コドモタチワ ハァ ミンナ タハウメンサ サンニンノ
他 何も無いから 子どもたちは × みんな 多方面に 三人の

コドモ ヨコシテラッタデネ。 ソレガ マァ イガッタデス。 タロウニ
子ども よこしてたんでね。 それが まぁ 良かったです。 田老に

スンデテ リョウシヨリ ホカ ナニモナインデスカラネー。 トニカク
住んでて 漁師より 他 何も無いんですからねー。 とにかく

ソーシテ ワタシワ ホラー、 ソコニ ヒトリデ スンデマシタッタカラネ、
そうして 私は ほらー、 そこに 一人で 住んでましたからね、

ヒガシニホンノ ダイシンサイデ マダ ウチ ナガサレデ スムドコロガ ナクテ
東日本の 大震災で また 家 流されて 住むところが なくて

イマ ココニキテ スンデオリマス。
今 ここにきて 住んでおります。

A：田畑さんご自身は、二度も津波に合われていますが、それでもやはり田老はいいところだと思いますか？

B：ウーン ソウデスネ。 コレワ ホラ マゴタチガ キタタメニネ、 アー マゴニ
うーん そうですね。 これは ほら 孫たちが 来たためにね、 あー 孫に

オシエナケレバ ナラナイナァ ドオモッテ マサカ ニドモ アウト
教えなければ ならないなあ と思って まさか 二度も あうと

オモワナクテ マズ コレヲ ツグッテ ヨミキカセ シタワケデスガネ。
思わなくて まず これを 作って 読み聞かせ したわけですがね。

タロウワネー、 ホントニ イイトゴロダト オモッテ ジマン シタイヨウナ
田老はねー、 本当に いいところだと 思って 自慢 したいような

キモチデネー。 ソーシテ センジンノ チェ ダド オモイマシタガ、
気持ちでねー。 そうして 先人の 知恵 だと 思いましたが、

ショウガッコウ チュウガッコウ ナガレナイシ ソレカラホラ、 コウキョウノ
小学校 中学校は 流れないし それからほら、 公共の

タテモノガ ミンナ ノコッタノネ。 オテラ ヤクバ コウミンカント
建物が みんな 残ったのね。 お寺 役場 公民館と

イウヨウナネ。 アーコレ センジンノ チェダッタナダナー、 コンナ マア
いうようなね。 あーこれ 先人の 知恵だったんだなあー、 こんな まあ

ヤマギシトカ タカダイニアッタカラ ナガレナイデスンダガ、 イガッタナア
山岸とか 高台にあったから 流れないで済んだが、 よかったなあ

ドオモッテネエ。 ソレダケワ モウ センジンノ チェ ダナア ド オモッテ
と思ってねえ。 それだけは もう 先人の 知恵 だなあ と 思って

カンシンシテマシタネエ。 アド ソレカラ ホラ ツナミノゴ ジブンタジデ
関心してましたねえ。 あと それから ほら 津波の後 自分たちで

ソノ アカヌヤマヲ カイタクシテ、 ソノ タカダイニ ウチヲ タテタトカ。
その 赤沼山を 開拓して、 その 高台に 家を 建てたとか。

アドワ サワザワニ ウチヲ タテダノネ、 ツナミノゴネ。 ソノウチヲ
あとは、さわざわに 家を 建てたのね、 津波の後ね。 その家は

ミンナ ノコッタノ。 タノサワトカ コバヤシサワトカ アリヤノサワトカ
みんな 残ったの。 田沢とか 小林沢とか ありやの沢とか

ッズー トコニネ。ズラーットコウ ウチガ タッテルンデ ソレワ
っていう ところにね。ずらっところ 家が 建ってるんで それは

コンドノ ツナミデ ミンナ ノゴリマシタカラネ。 ヤハリ タカダイトカ
今度の 津波で いんな 残りましたからね。やはり 高台とか

ソウイウトコサ タツノガ アレダッタンダナー ド オモッテネエー。
そういうところに 建つのが あれだったんだなあー と 思ってねえー。

A : 「つなみふたび」 というのもあるのですか？

B : ウーン。 ツナミフタタビワネ、 イモウトノ ウジガラ ミデ ~~~~~ フタリデネ
うーん。 津波ふたびはね、 妹の 家から 見て ~~~~~ 二人でね

ツクッタノネー。
作ったのねー。

イツモホレ、 ヤクバカラ ホウソウガ サレンデスヨ。 ツナミガ クルガラ
いつもほれ、 役場から 放送が されるんですよ。津波が くるから

ヒナンシナサイ、 トガ コナイ ドガ ッチューネ、 コンドウホラ ミンナ
避難しなさい、 とか こない とか っていうね、 今度はほら みんな

デンセンガ ~~~~~ ゼンゼン ホウソウガ ナイノ。 ダガラ ソレ タヨリニ
電線が ~~~~~ 全然 放送が 無いの。だから それ 頼りに

シテタヒトモ アッタンデナイカナー ド オモッタノネ。 ウーン ホウソウモ
してた人も いたんじゃないかなー と 思ったのね。 うーん 放送も

サレナカッタンダモンネー。 アノー オオキナジシン ダッタタメニ ミンナ
されなかったんだもんねー。 あの一 大きな地震 だったために みんな

キレダノネ。 ソイデ イチバンノ アレノドキワ アノ ハシラマデ
切れたのね。それで 一番の あれのときは あの 柱まで

タオレダノネ。　ダカラホレ　ハウソウモ　ナニモ　ナガッダワゲネ。
倒れたのね。　だからほれ　放送も　何も　なかったわけね。

（津波が来るところを）ミデマシタ。　ベランダサ　アガッテネ。　ハヤク
見ました。　ベランダに　上がってね。　早く

ニゲテー　ニゲテー　ッタッテネ、　キコエルワケドモナイドモ。　ホンダッケ
逃げてー　にげてー　って言ってもね、聞こえるわけではないけども。そしたら

ホラ　アラー、　コウイウドキ　イナムラノヒ　ッテホラネ、　イネサアレシテ
ほら　あらー、　こういうとき　稲村の日　　ってほら、　稲にあれして

ヒモヤシテ　ヒナンサセタノガ　アッタガラ、　イヤー　ナンカ　ハンショウカ
燃やして　避難させたのが　あったから、　いやー　なんか　半鐘か

ナニカ　タカダイサ　オケバネー、　ソレ　ジャンジャン　ブデバ　ミンナ
何か　高台に　　置けばねー、　それ　ジャンジャン　鳴らせば　みんな

ニゲルンダヨナァー　ド　オモッタドモネ。　マァ　ホラ　テイボウガ　アルカラ
逃げるんだよなァー　と　思ってたけどもね。まァ　ほら　堤防が　　あるから

ダイジョウブダベアー　ツツー　キモアッタ　ド　オモイマスガネー。　ソレサ
大丈夫だろう　　っていう　気もあったと　思いますがねー。　それに

ハウソウモ　ナイガラネー。　ハウソウガ　アルモンダド　オモッテタヒトモ
放送も　　無いからねー。　放送が　　あるもんだと　思ってた人も

アル_____。　キャクハチジュウメイ　グライノカタガ　ナクナリマシタカラネ。
いる_____。　百八十名　　くらいの方が　　亡くなりましたからね。

デ、　コンドノバアイワ　ホラ　ショウワハチネンノトキ　ミンナ　ウミサ
それで、　今度の場合は　ほら　昭和八年のとき　　みんな　海に

ナガレテ　イッタンデスヨ。　ナンニチモ　シタイガ　ウミカラ　アガッタノ。
流されて　行ったんですよ。　何日も　　死体が　　海から　　あがったの。

ソーセバ コドモノトギワ トモダチド イッテ、 ミタサガ ハンブン、
そうすれば 子どものときは 友達と 行って、 見たさが 半分、

コワサガ ハンブンデ イグノネ。 ソーセバ ホラ シタイノ アガナイドゴノ
怖さが 半分で 行くのね。 そうすれば ほら 死体の あがらないとこの

ゴカゾクガ イグワケ。 ソースルド ホラー、 トクチョウヲ ツカンデネ
ご家族が 行くわけ。 そうすると ほらー、 特徴を つかんでね

アーダレソレタカー ッテ イウトネ、 ナクナッタヒトノ クチカラ アワッコガ
あー誰それ って 言うとな、 亡くなった人の 口から 泡が

プツプツーット デルンダッケノ。 アレ コドモ ゴゴロニ フシギダナー
プツプツーっと 出たの。 あれ 子ども 心に 不思議だなー

ッド オモッダノネ。 ソーシ ワーダレソレカー トリスガッテナクノヲネ
と 思ったのね。 そうしてわー誰それか とりすがって泣くのをね

ミタワケネー。 ダカラー アー コーユーモンダガナー ッド オモッテネ、
見たわけねー。 だからー あー こういうもんだかなー と 思ってね、

カンドウシタッタデスヨ アレ ミデネー。 ソーユーノガ ナンニチモ
感動したんですよ あれ 見てねー。 そうというのが 何日も

ツヅキマシタネー。 ウミカラ アガッタ、 ウミカラ アガッタ ッテ。 ウーン。
続きましたねー。 海から あがった 海から あがった って。 うーん。

コンドノ バアイワ ホラ ガレキノナカガラ ミンナ デテキマシタカラネー。
今度の 場合は ほら 瓦礫の中から みんな 出てきましたからねー。

【紙芝居を見ながら】 コドモタチガ アズマッテ、 アズマッテ ホラ
子どもたちが 集まってー、 集まって ほら

イモウトノウチサ アズマッテネー、 ソシテ ロウソグヲ ツケデ ミンナシテ
妹の家に 集まってねー、 そして ろうそくを つけて みんなで

ハナシッコ シテラワケダ。 ソーユートコヲ カイタ。
話を してるわけだ。 そういうところを 書いた。

[紙芝居を見ながら] コレ ジエイタイノ ヘイキガ _____ アノー ガッコウノ
これ 自衛隊の 兵器が _____ あのー 学校の

コウテイサ ミンナ コドモダジガ ハシッテイッテネ。 ソーセバ ホラ ナンカ
校庭に みんな 子どもたちが 走って行ってね。 そうすれば ほら なんか

コウ オトスンデショウ、 ソーセバ ホラ シエンブッシ ダガ ナンダガ。
こう 落とすんでしょう、そうすれば ほら 支援物資 だか なんだか。

ソーセバ ヨロコンデ ハシッテイグノネ。 ソーセバ アズマグンダン ッテ
そうすれば 喜んで 走って行くのね。 そうすれば 東軍団 って

ナマエ ツケラレテネ {笑} アズマニ ホラ イモウトノ ドゴ アズマ ッテ
名前 つけられてね {笑} 東に ほら 妹の ところ 東 って

イイマスカラネ、 ソーセバ ホラ ソノ コドモダジガ タクサン
いいますからね、そうすれば ほら その 子どもたちが たくさん

アズマッテルガラ、 ソイダンデ アズマグンダン ドナツケラレテ。 アハハハ {笑}
集まってるから、 それだから 東軍団 と名前つけられて。アハハハ {笑}

コドモダジワ ホレ ミンナアズマッテルガラ ヨロコンデネー。 ナーニ
子どもたちは ほれ みんな集まってるから 喜んでねー。 なーに

ツナミノ コワサモ オソロシサモ ワカンナイ ホラ タノシミラシクテネー。
津波の 怖さも 恐ろしさも わからない ほら 楽しみらしくてねー。

イツモ ガヤガヤシテ、 タノシンデ アソンデラノ。 ツナミデ ホラ
いつも ガヤガヤして、 楽しんで 遊んでたの。 津波で ほら

カルタトカ ヒロツクレバ カルタトガ ホラ ソーユーノヲ コンド
かるたとか 拾ってくれば かるたとか ほら そういうのを 今度

ドロダラケノノヲ、 モッテキテ コサ ヒロゲテ アソンデルノ。
泥だらけのを、 持ってきて ここに 広げて 遊んでるの。

マァ ドロダラケニナルワケ ハー ウチワネー。
まあ 泥だらけになるわけ × 家はねー。

A：田老に行くことはありますか？

B：オー。 コンド ハツカニネー、 ムカエニ クルッテ イイマスカラ。
おー。 今度 二十日にねー、 迎えに 来るって 言いますから。

タロウノハウニ シバラク。 イモウトガ タカダイニ スンデイマスカラ。
田老の方に しばらく。 妹が 高台に 住んでいますから。

A：「まんざらく まんざらく」というのは？

B：アー、 ムカシワネー トシヨリワホレ、 アノー ジシング キタトギワネ、
あー、 昔はねー 年寄りはおれ、 あのー 地震が 来たときはね、

ナンダカ トナエガダガ アルワケダヨ。 マンザラク マンザラク マンザラク
なんだか 覚え方が あるわけだよ。 まんざらく まんざらく まんざらく

ッテネ。 ソーユーコドヲ アノ イツモ シャベッテルノ。 ジシング アレバネ。
ってね。 そういうことを あの いつも シャベってるの。 地震が あればね。

ジシノ トキダゲ。 マンザラク マンザラク ッテ オイノリ
地震の 時だけ。 まんざらく まんざらく って お祈り

ミデーナンデナイカナ。 ウーン。 ソレ キイデルンデ オレモ ソノ アレ
みたいなものじゃないかな。 うーん。 それ 聞いているんで おれも その あれ

クグッドギ ジュッカイ~~メー~~ マンザラク マンザラク ッテ。 ソコノ ホラ
くぐるとき 十回~~ぐらい~~ まんざらく まんざらく って。 そのの ほら

アノ ハタケサ イクドギネ。 クグレネンダモンネ。 ソコ イッショウケンメイ
あの 畑に 行くとさね。 くぐれないんだもんね。 そこ 一生懸命

モガイテ クグッタノネ。 ソーセバ ワタシノ アダマノウエ、 ミンナ
もがいて くぐったのね。 そうすれば 私の 頭の上、 みんな

ポンポン ポンポン ト オトナノヒトタジワ ノリコエテ イグノネ。 ウーン。
ポンポン ポンポン と 大人の人たちは 乗り越えて 行くのね。 うーん。

アー ココデ ナミニ サラワレルンダガナー ド オモッテネー。
あー ここで 波に さらわれるのかなー と 思っでねー。

マンザラク マンザラク ッテ ヨウヤク ソノ カキネ ヌケダシテ、 ウーン。
まんざらく まんざらく って ようやく その 垣根[を]抜け出して、 うーん。

ソーシテ オジイサンヨンデモネ _____ オバアサーン ッタキャ、 オバアサンド
そうして おじいさん呼んでもね _____おばあさん って言ったら、おばあさんと

ニイサンド ネーサンガ イタンデネー、 アー イガッダナー ド オモッテネー。
兄さんと 姉さんが いたんでねー、 あー 良かったなー と 思っでねー。

ソーシテ テッペンノ ヤマノ ウラヤマノ テッペンマデ イッテ、 アサノ
そうして てっぺんの 山の 裏山の てっぺんまで 行って、 朝が

クルノヲ マッテラノネ。 ウーン。 ゴゼン ニジノ ツナミ デシタカラネ。
くるのを 待ってたのね。 うーん。 午前 二時の 津波 でしたからね。

ホラ サンガツノ ミッカ ダガラ トテモ サムクテネー。 ダカラモー、アノ
ほら 三月の 三日 だから とても 寒くてねー。 だからもー、あの

ツナミデ ナガレタヒトワ オテラノ サンドウノトコニ ホラ ショウボウダンノ
津波で 流された人は お寺の 参道のところに ほら 消防団の

ヒトニ、 ハコバレデ ソーデ タキビヲ モヤシタケダトコサ タダ
人に、 運ばれて そうして 焚火を 燃やしたところに ただ

オイタヨウナネー、 ソーシタッキャ ハー ソコデ コウナッテ ナクナッテルノ。
置いたようなねー、 そうしたら × そこで こうなっで 亡くなっでるの。

ナンニンモ ソンナヒトガ アッテネー。 ヤー イマデバ タスカルヒト
何人も そんな人が いてね。 やー 今では 助かる人
ダッタベナー ド オモウノネー。 トニカク タイヘン デシタネ。
だったろうなー と 思うのねー。 とにかく 大変 でしたね。

ショウワノ ツナミ。
昭和の 津波。

文字化：北谷靖恵

紙芝居参加者アンケート

1. 紙芝居「つなみ」に関するご感想は？

<学生>

- ・ 津波の恐ろしさを実感。身内を亡くされた悲しみは大きなものだったと思う。
- ・ わかりやすい紙芝居だった。その時の情景が目浮かぶようだった。
- ・ 紙芝居から津波の怖さや命の大切さを感じることができた。田畑さんの口調（方言）に聞き入ってしまった。貴重な話を聞けてよかった。
- ・ 当時の津波の様子が詳しく描かれていると思った。
- ・ 紙芝居が昭和8年津波のことだと思っていなかった。昔は設備が整備されていなかったから、助かる命も助からず、今よりもはるかに大変な思いをしてきたのだと思った。
- ・ 悲しい結末で終わる紙芝居は初めて見た。津波の恐ろしさを感じることができた。
- ・ 実際の話聞いてみて、津波の怖さが本当にわかった。とてもわかりやすかった。
- ・ 東日本大震災以前にも大きな津波があったということを知らなかった。このように伝えていくことは大切だと思った。
- ・ 紙芝居のあとの家の話（お母さんの足がブラブラになっていた）を聞いてすごくすごく苦しかった。それでも、話している田畑さんは笑顔で私たちに語ってくれたので、心に刻みたいと思う。
- ・ 大震災があってから「つなみ」という言葉をよく耳にするようになり、テレビで見るなどして、恐ろしいと思ってはいたが、実際に田畑さんの紙芝居で体験談を聞いて、さらに「つなみ」の恐怖を知った。
- ・ 貴重な話を聞けてよかった。なかなか経験することがないので、改めて津波の恐ろしさを感じた。
- ・ 臨場感があふれていて、ひしひしと津波の怖さが伝わってきた。
- ・ 津波を経験し被災した人にしか味わえないつらさ、悲しさをこれからも「紙芝居」という形で後世に語り継いで言ってほしいと強く思った。

<学生以外>

- ・ 大変な天災！その言葉につきると思った。
- ・ 大変よかった。田畑さんの年齢を感じさせない若々しさに感動。今後「つなみ」の紙芝居を継続して各地で上演してほしい。
- ・ 「命てんでんこ」は何度かマスコミで聞いたことがある。「つなみ」を見せてもらいながら、今回の津波がオーバーラップし、そして切実に「命てんでんこ」の教え身にしみて感じさせられた。
- ・ 今日見せた紙芝居（原画）をもとに紙芝居を作り直すことを考えてもよいのではな

いかと思う。(長く紙芝居を残してほしい)

- ・ 東日本大震災の3日前に孫が産まれた。1000年に一度と言われる大震災をこの子は体験した。未来の子どもたちのためにも、貴重な紙芝居だと思った。
- ・ 貴重な話をありがとうございます。

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある	学生：6	学生以外：8	合計：14名
ある程度ある	学生：3	学生以外：2	合計：5名
あまりない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
全くない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
無回答	学生：1	学生以外：1	合計：2名

<大いにある>

- ・ 方言が共通語化によって若い世代に浸透されなくなっているため、地域の文化の継承は重要だと思う。(学生)
- ・ 方言は共通語では表現できない微妙な意味や言葉を表現することができる。方言によって親しみを感じたりすることも地元の人には多くあるので、そういった方言をこれからも継承してほしい。(学生)
- ・ せっかく今まである言葉をなくしたくない。(学生)
- ・ 今まであったものがなくなってしまうのは残念。ほんの少しでも私たちのような若い世代が受け継いでいけるのなら、受け継いでいくべき。(学生)
- ・ いざというとき(災害時など)に、コミュニケーションをとるひとつの手段のひとつとして、非常に必要だと感じるから(学生)
- ・ 自分の出生地を忘れず大切にしたいから(学生以外)
- ・ 日本伝統文化の方言が風化する可能性があるので継承してほしい。(学生以外)
- ・ 地域の文化・歴史を学ぶためには、方言は必要だと思う。方言はその土地で生活をした人たちの文化そのものだと思っている。(学生以外)
- ・ 方言でないと確実に表現できないことがあるから。(学生以外)
- ・ 共通語は地方の文化が伝わらない。地方それぞれの言葉は保存していくべき。(学生以外)
- ・ 緊急時など医療現場などではコミュニケーション手段として効果的なものだから(学生以外)
- ・ ニュアンスの正確な伝承のため。アイデンティティだから。(学生以外)
- ・ 津軽弁が好きだから。(学生以外)

<ある程度ある>

- ・ 方言もその地域の文化のひとつだと思うから。(学生)
- ・ 昔の人の暮らしを今の人は知らなければならないと思うから。(学生)
- ・ 方言を使う人が減少しても、過去にこのような方言が存在したという記録として保存すべきだと感じるから。(学生)
- ・ その地方の文化やあたたかさを感じるから。(学生以外)
- ・ 若者に方言のよさを知らせ、地域活性化につなげられればと思うから。(学生以外)

<わからない>

- ・ 地域の違う同世代の人と話すときは方言でない方がいいと思うから。(学生)
- ・ 付き合っていた人に方言を使わない方がいいと言われたことがあるから。(学生)

2. 被災地域の文化・方言を保存・継承しようとする文化庁の取り組みをご存知でしたか？

知っていた	学生：6	学生以外：2	合計：8名
聞いたことがある程度	学生：3	学生以外：3	合計：6名
知らなかった	学生：4	学生以外：6	合計：10名

3. 文化庁のこうした取り組みについて、どうお考えになりますか？

大いに必要	学生：4	学生以外：8	合計：12名
ある程度必要	学生：6	学生以外：3	合計：9名
わからない	学生：2	学生以外：0	合計：2名
あまり必要でない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
全く必要でない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
無回答	学生：1	学生以外：0	合計：1名

4. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

- ・ 方言劇 (学生)
- ・ 方言を使って実際に会話をする (学生)
- ・ 語り部会 (学生以外)
- ・ 方言を使用した絵本、映画 (動画) (学生以外)
- ・ なくなりつつある方言の一覧表 (学生以外)
- ・ 方言会話の動画資料 (学生以外)
- ・ 特に要望はないが方言に関する企画を希望する (学生以外)

5. 今日の催し物のことを、何で知りましたか？

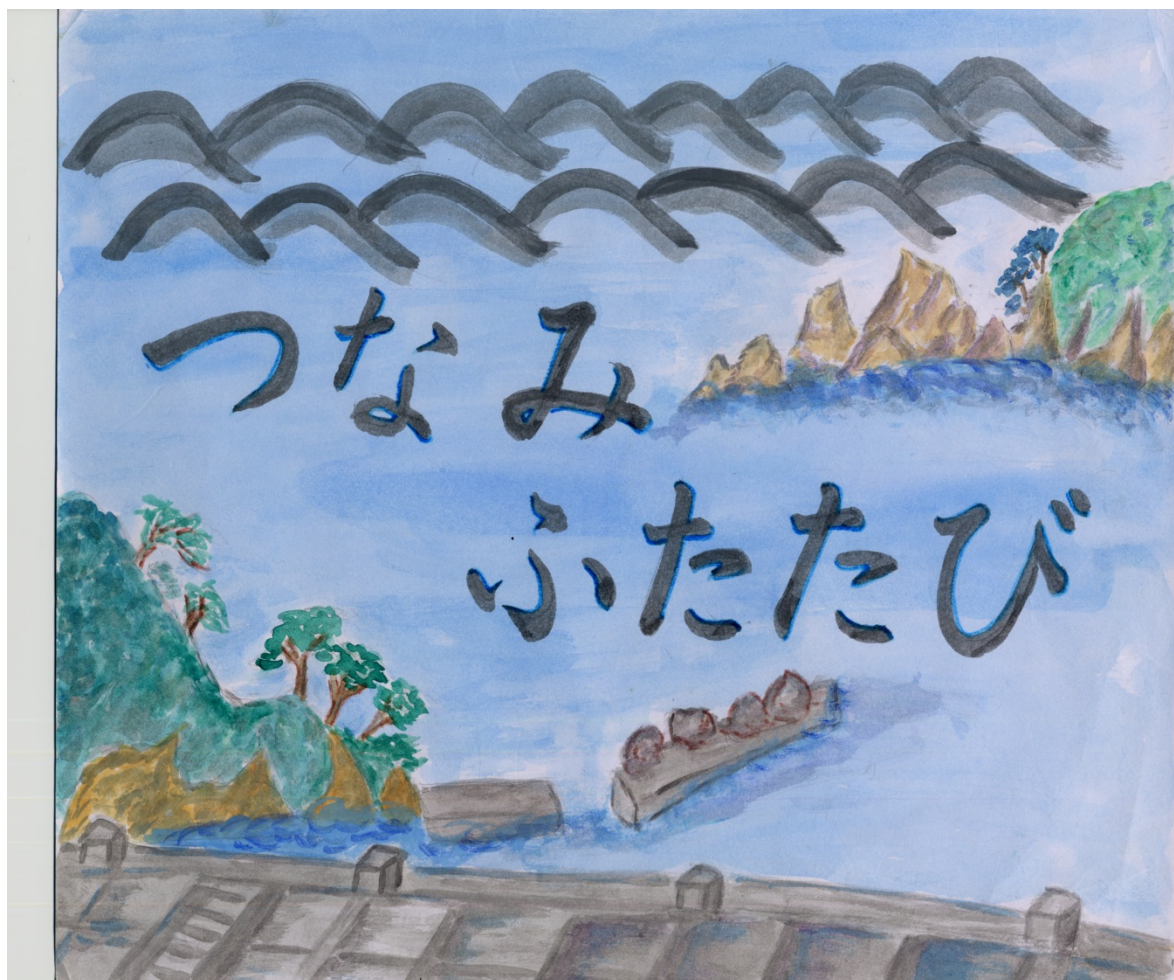
新聞	学生：0	学生以外：1	合計：1名
ラジオ	学生：0	学生以外：0	合計：0名
ポスター	学生：6	学生以外：2	合計：8名
はがき	学生：0	学生以外：3	合計：3名
本学HP	学生：0	学生以外：1	合計：1名
その他	授業（学生：5） 友人・知人（学生：1 学生以外：5） 今村先生（学生：1 学生以外：1）		
無回答	学生：0	学生以外：1	合計：1

※ 複数回答あり

6. 今後も今日のような催しがあれば参加したいですか？

ぜひ参加したい	学生：3	学生以外：6	合計：9名
まあ参加したい	学生：6	学生以外：2	合計：8名
わからない	学生：4	学生以外：0	合計：4名
あまり参加したくない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
参加しない	学生：0	学生以外：0	合計：0名
無回答	学生：0	学生以外：3	合計：3名

つなみふたたび



平成 24 年 6 月 日作
田畑ヨシ作

- このたび、田畑ヨシさんのご助力により、東日本大震災のつなみの体験を紙芝居にした「つなみふたたび」も、併せて採録させていただけることになりました。



1. 昭和の津波の時 八才だった
よっちゃんは 八十七才の
おばあさんに なりました。

三人の子供たちは 青森
盛岡 新潟と散ばり 津波
当日は よっちゃんは ひとり
ぐらし でした。



2. 平成二十三年三月十一日の午後の日は
西に傾き いつものような穏やかな一日
が暮れようとしていました。

よっちゃんは洗濯物を取り入れよう
と立上ったその時です。

「ドシン」という音がしたと思ったら
「ガタガタッガタ」と家が揺れ始め
ました。

「あっ！また地震」
といって よっちゃんは そこにしゃがんで
しまいました。

二日前にも強い地震がありました。
津波注意報も出ました。



3. 「ガタガタガタガタ」「ガクガクガク」
いつもより強い地震です。

佛壇の供え物がバラバラッと よっちゃん
の目の前に落ちてきます。

少しすると揺が小さくなりました
よっちゃんは外に出ようと立ち上った
時、床下から「ドシン」と突き上げ
るような衝撃を感じました。

その時 よっちゃんは
「あゝ、いつもの地震と違う揺り返しだ
今日は津波が来るかも知れない。」
と思いました。

小さい頃 聞いていた
「揺れ返しには油断をするな」
という話を思い出しました。



4. 地震がやんだので準備してあるリック

を背負って外に出ました。

近所の人達もみんな外に出ています

「わあーびっくりした、大きい地震だった
ね」

と口々に話しています。切れた電線があちらこちらにたれさがっています

あわてて逃げる気配も見られません

みんなの様子を見て安心した、よっちゃん

は家に入り寒かったので 上衣を持っ

て逃げようと用意していました。

すると高台に住んでいる妹のあわて
たような声がしました。

「ちょっと一何しているの 津波が来
るよ。」



5. 玄関に出して置いたリックを妹が
背負いよっちゃんも後に続きました
広い道は私たち姉妹と防波堤の
外に住んでいる二組のご夫婦だけが
歩いています

「みんな逃げたんだろうか？まだ
なんだろうか？」
と妹と話しながら高台の妹の家に
急ぎました

妹は避難する人達に家を開放
したいと大急ぎです



6. 妹との家は高台の中腹にあります
海が正面に広がって見えます
いつもと変らない海の様子です
妹の家に着いて
「やれやれ疲れた」と思って窓辺の
ソファに腰かけて海をながめ
その時です
海に突き出した佐賀部の大きな岩に
山のような飛沫^{しぶき}がパァーと上りました
よっちゃんは避難して来た人達に
「津波だ」と叫びました
妹も「津波だ一二階へ」
みんな二階へ駆け上りました



7. 二階のテラスから海を見ました。

水平線の彼方から見たことのない
小山のような黒い波が一直線に連
なってグングンと岸に向かって押し寄
せてくるのです。

連った波は一糸乱れず手を繋いだ
ように岸をめがけて進んできます。

そのまた後からも波の帯が――



8. 高さ十米以上の大津波は二重
の防波堤を乗り越えて平坦の
町をみんな、のみ込み、破かい
してしまいました。
流れた家は一六〇〇戸、亡くなった人は
一四〇名、行へ不明の人は五十名
と聞いています。
全長二四〇〇米、高さ十米の防波堤
は津波にも負けず、そのままの姿を
とどめ、田老の復興を見守っています。



9. 二階のテラスから体をのり出して下の方を
見たら我が家の前の道路を水色の波が
瓦礫を運んで勢いよく「サッー」と流れ
ていきました。

小山のような波は連なったまま燈台に
あたったら簡単に燈台が倒れて見
えなくなりました。

第一の堤防を越えた波は五、六軒の
家を流し始めました。

目の前に中学校の方から大きな緑色
の屋根の家が流れてゆきました

波が最後の堤防を越えないように
祈り手に力が入ります。

願いも空しく堤防を越えた波は
すべてを破壊し流し去りました。



10. 百年に一度といわれる程の大津波
でした。

妹の家はその夜は十七名の避難所
となりました。

電気や水道も止まり暗闇の生
活が始まりました。

みんなでローソクの灯を囲み命のある
ことを確かめ合ったのです

ガス釜でご飯を炊き冷凍庫の物
を食べ トイレも使えず 夜はポー
タブルで畑に穴を掘り 朝はし尿
処理です。

水は近くのダムまで汲みに行き
川へ洗濯に……



11. 田老は全滅です

よっちゃんの家も流されてしまいました
高台にある総合事務所お寺小学校
北校などが避難所になりました
曇り空からは時々小雪がちらつき
寒さが身にしみます
翌日の夕方荒谷方面の火事が鎮火せず
北高への避難命令が出ました
みんな急いで夕食を取り準備をしていると
「北高は満員だから小学校へ」
と変更になりました
間もなく解除になりみんなほっとしました

津波には火災がつきものだと言ふ
先人の教訓を思い出しました。



12. 小学校の校庭にときどき外国や日本の
ヘリコプターが支援物資を運んできます
ヘリコプターの音を聞くと妹の家に避難
している五人の男の子たちは一せいに飛
び出して校庭に見に行きます。

いつからか「東^{あづま}群^{なづけ}団」と名付られ
おやつを頂いて来る時もありました。

ヘリコプターの着地の様子 風力の
強さを目のあたりに見る威力は きっと
よい体^{けん}験になったことでしょう。



13. 道路には押し流された家々が重なり
合い、瓦礫の山が出来歩くことが出来ま
せん 三鉄の線路が 唯一の歩く道と
なりました。

そんな不便のなか親類の人々は食
糧を持って見舞に来てくれました。

また 各地からたくさんの支援物資
が届きました

津波当日から自衛隊の方々の活
躍も知らされました。

みなさんのあたたかい援助に感謝
の毎日でした。



14. ある日海岸に行って見ました。

家から眺める海は穏やかで何事も
なかったように静かな表情をして
いますが近づいて見て驚きました。

大きなコンクリートの^{かたまり}塊が海の中
やあたりに散乱し船は^{そう}一隻もなく
岩壁は跡形もなく崩れ落ちています

漁港の復興は容易でないことを
感じました。



15. 二十三年三月二十六日、ふる里を離れる
日が来ました
息子夫婦が青森から迎えに来た
のです
思い出の海ともしばしの別れのため
防波堤に上がり あの 佐賀部島を
眺めました。
若布やこんぶの養殖で生活を支え
てくれた海です。
何時また ふる里にこれるものやら想い
は尽きません。
“海のバカヤロウ”と
“海よ、ありがとう”
が胸の中で交差しました。
「さようなら」



16. あの災害から一年がたちました
高台から見える海原は何事も
なかったように霞すみに包まれ湖の
ように鎮まりかえっています。

港にはオレンジや黄色のクレーンが
のろのろ動き作業の難しさを物語って
います。

瓦礫を撤去するクレーンの音は絶え
間なく聞こえてきます。

さあ 明日からは 災害に負け
ない 田老の誕生 の始まりです。



17. よっちゃんは三月三日の津波記念日

七十周年に⑨を創りました。

それをアレンジして 津嘯鎮魂^{つなみちんこん}の詩^{うた}になりました。

サスライメーカーのメンバーが
心を込めて歌います。



18. よっちゃんばあさんがつぶやきました。

「二度も津波に遭^あったもんだ。
父親も火事や津波に遭^あって災
害との戦いの人生だったといっていたが
父の気持ちがよく分かった。

何もかも流され、みんななくなっ
てしまったけどたくさんの人たちから
支援物資を頂いたり励ましの言葉
をかけてもらったり 津波は人間の
真心を恵^{めぐ}んでくれた。
大事な大事な命だけは守って
よかった。」

「みなさん、ほんとうに ありがとう。」

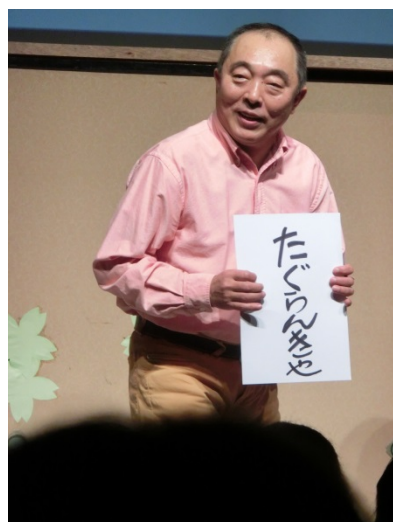
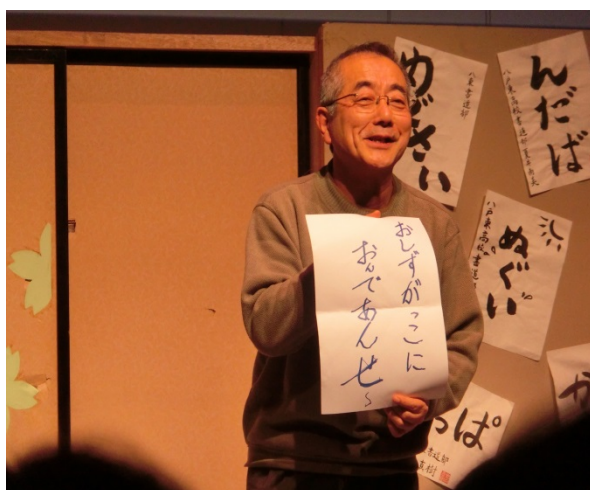
3. 南部弁の日

第一回南部弁の日 はっちがずっぱど南部弁

第一回南部弁の日「はっちがずっぱど南部弁 ―うんこれあ よごあんすな―」は、2012年に亡くなった南部弁の郷土研究家である正部家種康氏の命日にちなみ、12月6日（金）に八戸市のはちのへポータルミュージアムはっちで行われた。参加者は150名程度であった。

八戸出身の方言タレント十日市秀悦氏と八戸公民館館長で演劇や南部弁ラジオ番組でも有名な柗谷伸夫氏のお二人を中心に、南部弁による昔コや南部弁の歌、文集八戸の方言朗読、十日市氏の作った南部弁ラジオ体操など、盛りだくさんのプログラムのバラエティイベントで、被災地の方々を方言で元気づけた。

会場は笑いの渦と熱気に包まれ、イベントの最後には、来年も南部弁の日イベントを継続することを望む声が聴かれた。



はっちがずっぱど南部弁 参加者アンケート

1. 本日の催し物に関するご感想は？

満足 55 人
まあ満足 8 人
普通 0 人
少し不満 0 人
不満 0 人
無回答 10 人

<満足>と答えた方の感想

- ・とにかく楽しかった、面白かった！八戸をますます好きになった。(20代女性)
- ・おもしろすぎます。(20代女性)
- ・笑って聞けることが大事。(30代女性)
- ・難しい話がなく、楽しく話題を展開できる出演者が揃っていて、こうした入口は大切であり、継続して欲しい。盛りだくさんで贅沢だった。(40代男性)
- ・大都市八戸だからこそ、これだけの役者が揃うのだと思うが、ぜひほかの地域でもやってほしい。帰りに出演者が使った方言の訳が入ったグッズ(用紙)がもらえたらいいと思った。広報が不十分。小さい会場であったが、もっと告知してほしい。(40代女性)
- ・ありがとなし。(50代女性)
- ・とってもおもしろかったです(50代女性)
- ・なんもいえね。(50代男性)
- ・「あぶらつめる」ってどういう意味か気になる。(50代女性)
- ・たいへん楽しかった。南部弁の日、ぜひ続けてください。(50代女性)
- ・とても楽しく、時間を忘れる程だった。来年(?)も見たい。南部弁の日楽しみにしています。(50代女性)
- ・楽しかったなあ。(50代男性)
- ・とっても楽しかったです。(50代女性)
- ・はちのへうみねこ合唱団は涙を流して笑い転げてました。最高！(60代女性)
- ・非常に楽しかった。(60代男性)
- ・もっと大きいホールで再演を！(60代女性)
- ・せっかく有意義な催しなので、広い会場で人をいっぱい集めて欲しかった。(60代男性)
- ・八戸に住んで30年くらいになります。こんなに南部弁を聞いたのは初めてです。ソフトな語り口でとてもよかったです。(60代女性)

- ・十日市さん、さすがですね。(60代女性)
- ・方言を使うようにする。2回、3回と続けて欲しい。(60代女性)
- ・よかったです。南部弁の日、期待しています。十日市さんラジオもがんばって、応援しています！(60代男性)
- ・最高！！(60代女性)
- ・楽しかったです。ありがとう。(60代女性)
- ・楽しかったです。いっぱい笑った。(60代女性)
- ・あ～あ、なつかしがったなす～。(60代女性)
- ・地元の人間だったら、もっと楽しいんだろうなあー！(60代女性)
- ・おもしろかった。(70代女性)
- ・生まれ育った地元の言葉や風習をもっともっと復元して市民が元気になればいい。(70代男性)
- ・時間がないので「笑顔」でごめん。またの機会に感想述べます。ご苦労様でした。(70代男性)
- ・語り部さんがどんどん増えておられるようで、将来が頼もしいです。新しい昔っこともあってはどうかと思います。(80代女性)
- ・とっても面白い。(70代女性)

＜まあ満足＞と答えた方の感想

- ・内容盛りだくさんでよかった。(30代女性)
- ・興味を持って参加できた。(40代)
- ・程度がわからないので「まあ満足」にしましたが、おもしろかったです。説明されてもわからない言葉がありました。(60代女性)

＜無回答＞の方の感想

- ・時間通りに始まらなかった。説明もない。公会堂でもやってほしい。すごくよかった。心があたたかくなった。(60代女性)

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあると思いますか？

大いにある 55 人
 ある程度ある 17 人
 わからない 1 人
 あまりない 0 人
 まったくない 0 人

＜大いにある＞と答えた方の感想

- ・忘れかけてきている南部弁、本当にいいと改めて実感した。(20代女性)
- ・八戸を知ってもらいたいから。(20代女性)
- ・このままだとなくなってしまうから。(30代女性)
- ・老人ホーム等で仕事をしていると、方言の方が通じる時があるから。(30代女性)
- ・単なる情報伝達のための言葉ではなく、心や情と結びついているから。(40代男性)
- ・心が優しくなるから(50代女性)
- ・廃れさせてほしくない(50代女性)
- ・ここの方言はほかにはないから。(50代女性)
- ・地方の特色を出すことは大事だと思うから。(50代女性)
- ・地方の歴史として大切にしていきたい。(50代女性)
- ・語り継がれてきた方言を使い、地元との交流が必要だと思う。(50代女性)
- ・自分の子ども(20～24歳)は南部弁をしゃべれない。聞き取れるが、やはり南部弁が必要。(50代男性)
- ・方言は温かみのある言葉だから。(50代女性)
- ・普段の生活で使わなくなったり、耳にする機会が少なくなったり、忘れてたりしていることがあり、聞いたときにはあったかくほっこり幸せになる感じがするから。(50代女性)
- ・その土地の人々が生きてきた証・文化です。(60代女性)
- ・その地方の標準語だから。(60代男性)
- ・方言を大事にすることで、郷里の文化をもっと大事にしたい。(60代男性)
- ・方言にはあたたかいぬくもりがあるから。(60代女性)
- ・方言は必要であり文化そのものである。(60代男性)
- ・方言の温かみを継承して行ってほしい。(60代女性)
- ・方言はその土地柄を表しているから。(60代女性)
- ・地域の文化だから。年配の人がいなくなれば言葉(南部弁)もなくなる。(60代男性)
- ・忘れられたくない。忘れたくない。(60代女性)
- ・方言は温かみがあり、土地柄をあらわすので大いに伝承させたい。津軽弁にも負けないように広めたい。(60代女性)
- ・日本から方言が消えてしまうのではないかと危惧しております。話し、聞くという機会を増やしていきたい。(60代女性)
- ・気持ちが伝わると思えるから。(60代女性)
- ・文化遺産として継承していくべき。(60代女性)
- ・方言がなくなるのはさみしい。(70代女性)
- ・代々伝わる親からの言葉を、地元の言葉を大事にしていきたいから。(70代男性)
- ・共通語の社会で生活している者とは、日頃気張って肩が凝ってくる。その余暇に地元の方言を耳にすると、地元の存在感というか、何かホットな気持ちになってくる。へばア

ナァ〜。(70代男性)

- ・地域を知ってもらえるから。(70代女性)
- ・地方それぞれの特長を残すことは、ぬくもりを残すことだと思う。(80代女性)

＜ある程度ある＞と答えた方の感想

- ・40年八戸に住んでいても、知らない言葉や使わない言葉があるから。(40代)
- ・我々は自分たちの先祖が培ってきた地元の文化を伝承し、残していく必要がある。外国の文化や中央（都会、東京）の文化だけが優れている、あるいは価値があるというわけではない。我々が生きていたことを表すものだと思うから。(40代女性)
- ・文化の根底にあるものだから。(50代女性)
- ・長い歴史のあるその土地の言葉は大切にしたいと思うから。(50代女性)
- ・継承していかないとなくなってしまうから。(50代男性)
- ・子供たちにも聞かせたいから。(60代男性)
- ・私は小さい時に使っていた言葉なのでごく懐かしいし、今でも使います。「ほにほに」「こ」「いぐが」「こっちやこ」(60代女性)
- ・地域の方言も大事だと思う。(60代女性)
- ・方言にもいいところがある。(60代女性)
- ・広げてください。(60代女性)

3. 被災地域の文化・方言を保存継承しようとする文化庁の取り組みをご存じでしたか？

知っていた6人

聞いたことがある程度9人

知らなかった57人

4. 文化庁のこうした取り組みについて、どうお考えになりますか？

大いに必要48人

ある程度必要23人

わからない0人

あまり必要でない0人

全く必要でない0人

5. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

ぜひ参加したい54名

まあ参加したい0人

わからない16人

あまり参加したくない2人

参加しない0人

- ・インターネットでも参加できるようなもの（10代男性）
- ・南部弁で大運動会（20代女性）
- ・良い子、悪い子、普通の子（20代女性）
- ・学校現場で取り組めるプログラムの展開。方言継承取り組みの地域を越えたつながりの構築。（40代男性）
- ・「南部弁の日」を「津軽弁の日」と同じくらい有名でみんなが盛り上がるようなイベントにして欲しい。岩手でもやってみるのはどうか。（40代女性）
- ・小中学校などで話をして、子どもたちに教えて欲しい。（50代女性）
- ・急には思いつかない。（50代男性）
- ・今回のような催し物。（訳がもらえればよかった。県外出身者なので）（50代女性）
- ・他地域の交流から、いろいろな話を聞きたい。（50代女性）
- ・県内外でお互いの方言で交流を持ち、語り合えるような企画。方言サミット？（50代女性）
- ・方言は大切にしなければならない。（50代男性）
- ・企画を希望する。（60代男性）
- ・方言で歌うカラオケ大会、方言によるミュージカル、方言カルタ大会、方言お笑い演説、方言川柳コンクール（60代女性）
- ・寸劇で方言を広める。（60代女性）
- ・「南部弁の日」を設けた催しなどがあれば…！（60代女性）
- ・方言カルタ会、今日のようなトークショー（60代女性）
- ・トークショー（60代女性）
- ・どんどんこのような企画をすべき。（60代男性）
- ・県内外の昔語り（60代女性）
- ・南部弁の日を設定し、年に一度開催してほしい。（60代男性）
- ・お年寄りの会話など、生の話が聞けたらいいと思う。（60代女性）
- ・地元にいることに誇りと自信を持たせるために、中高教育に年に何回か取り入れたほうが良いと思う。（70代男性）
- ・異なる2、3方言で比較ドラマ（70代男性）
- ・希望してます。（70代女性）

※その他欄外に書かれていたもの

- ・本当に楽しく勉強になった。白銀なので聞く機会はあっても発言してない…。ありがと

うございました。(20代女性)

- もっと南部弁と触れ合いたい(20代女性)
- こちらこそありがとうございます、楽しかったよ。(40代)
- 十日市秀悦さんによろしく。(50代男性)
- 他県出身者です。(60代女性)
- 南部弁よ、津軽弁に追いつけ追い越せ！(60代男性)
- 文化庁のこうした取り組み自体あまり知られていないと思う。(自分自身が知らない)
(70代男性)

4. 南部弁と津軽弁でかたる昔コ



南部弁と津軽弁でかたる昔コ

八戸市公民館館長の榎谷伸夫氏による南部弁と川村勝氏による津軽弁の昔コの語りにより、青森県の二大方言を楽しむ事業として実施した。その際、弘前市役所の協力を得て弘前市に避難しておられる避難者の方々へイベントの案内をすることができた。方言で勇気付け・元気づけることにつなげることを目指した。

<演者紹介>

まさやのぶお

榎谷伸夫氏 昭和23年 八戸市鮫町生まれ 65歳

現 (株)アート&コミュニティ 八戸市公民館々々長兼企画事業アドバイザー

元八戸聖ウルスラ学院高等学校地歴公民担当教員 (41年勤務)

演劇集団ごめ企画代表 鮫神楽保存会会長 H21年度八戸市文化賞受賞

八戸童話会会長 (長者山「森のおとぎ会」は今年90周年目)

主な作品 方言を使っの、この地域を題材にした作品が主

一人芝居『海村(かいそん)～老漁師吉田正吉が語る鮫村異聞～』

平成2年 戯曲集『海村』を門土社より出版 「海村」「赤い海～明治43年11月1日クジラ騒動異聞」

「霧笛哭く街にて～墓獅子幻想」「美濃屋乙因～我が命 露のごとき……」収録

『我が内なるラピュータ～前原寅吉の夢』

『弓人は翔んだ～アメリカに夢を馳せた男』

一人芝居『高橋大和守出奔す～出立つ日～昌益 八戸を出て比内二井田へ向かう』

『約定の城～九戸政実』

『海を越えたかった男～私説三峰館寛兆～』 その他多数 高校演劇

BeFM「おもしろ南部弁講座」開局以来15年目 1月で3900回を超える

FM あおもり「腹いっぱい笑うびや南部の昔コ」放送中

かわむら しょう
川村 勝氏

昭和4年 黒石市生まれ 84歳 聾学校・小学校の教員を歴任 退職後は公民館の仕事

現在 弘前市医師会看護専門学校 非常勤講師

津軽弁の語り 「スキップわくわく」 「おはなしるんるん」

F Mアップルウェーブ 津軽のむかしっこ放送中



1. くじらと坊様

語り：梶谷伸夫氏

僕のお話は、燕島、サメにまつわるお話です。

僕は知りませんが、江戸時代、明治、大正、昭和の初めまで、江戸湾がイワシだらけで銀色に光っていたそうです。砂浜は地引き網、引き網、サメは砂浜がないもので、籠持ってって、籠でイワシをすくいに行った。それくらいイワシをたくさんとってた。極端に言うと、江戸藩は、大豆とイワシで江戸時代、保ったところがあるんですけども、イワシを餌にしてクジラがたくさん、江戸湾にやってきた。1817年の江戸藩の記録に、1日に、ヨリクジラといって、病気になったり、方向がわからなくてなつて丘に上がったクジラが118頭、それくらいクジラがいっぱい来たということで、僕の住んでる鯨に、クジラにかかわる昔話、これがあります。

「くじらと坊様」。

むがし、むがし、鯨の村さ、マナグの見えね坊様おりやあんしたんだ。いや、この坊様なす、三味線と唄っこが好ぎで好ぎで、朝のお勤めが終われば、朝マから晩ゲまでお寺の本堂で、「デンドコデンドコ、デンドコデンドコデン、ハア〜、鯨の港はア、よいと〜こ〜ろ〜、一度はおいでよ、燕島へえ〜……。」デンドコデンドコデンドコって一生懸命稽古しておりやんした。上手だばよがんすよ。下手くそで、下手くそで、耳ィふたぎたくなるんたあんべだった。

したどこで、お寺のげえぐりの方々が、津軽弁に「げえぐり」づのありやんすか。「げえぐり」、ないが？ お御堂のげえぐり、学校のげえぐり、「周囲」。

お寺のげえぐりの方々が、「和尚様、和尚様ア、あの坊様の三味線の唄っこ止めさせて下さりあんせじゃ。赤ん坊ア虫、起こすし、オラんどアゆっくり昼寝もしておられあんせん。何とかお願いいたしあんす」。

したところで、和尚さん、「ちょっと、こつちや来い。イがな、いっすぎ三味線の唄っこ稽古するのァいいいんども、げえぐりの方々ァ迷惑だつてへつてら。人の迷惑のかがらないどころで稽古しなさい」「和尚様、どごァよがんすべ」「うん、浜、浜、いいね。浜さおりで稽古しなさい」

づごとになって、マナグの見えね坊様、三味線片手に抱えて、杖っこつきながら浜さ降りて行きあんした。ちょうど海さ突き出た平たい岩っこあつて、そこさちょこんとねまつて、「うん、ここだば誰ァさも迷惑かがねえな」づどころで、さあ、そこでいっすぎ稽古始めた。「デンドコデンドコデンドコデン、ハア〜、鯨の港はよいと〜こ〜ろ〜、デンドコデンドコデンドコデン」。

それを海の中で聞いてるのがクジラだ。「いやあ、おもしろい音っこァ立てるごとあるもんだなあ。こりや、少し見てやるが」。

ず〜っと、クジラ、海の中から坊様の三味線と唄っこ聞きながら見おりやんしたども、クジラの腹の虫ァ、グ〜と鳴ったつきや、いや、腹減ったな、何か喰うものないかとあだ

りほどりを見渡した。ない。「いやいやいやいや、あの音っこ出してるのァうまそったな」とクジラ、思ったごった。なんと海の中からビョーンと飛び上がって、その坊様ばパクーンと喰ってしまった。さあ、大変だ。

ところがェ、マナグは見えね。いっすぎ、三味線と唄っこの稽古してるもんだもの、自分がクジラにかれた（喰われた）ども、な〜んもラジアねえ。そのまんまクジラの腹の中さ行って、今度ァ、クジラの胃の中で、「はっ、デンデコデンデコデンデコデン、ハア〜」ってやったもんだから、クジラ、どってんした。いや、自分の腹の中に、唄っこの三味線コ聞こえるもんだもの、何とかして止めさせねばなァ。いやいや、体、ひねってみだり、飛び上がってみだどこ、おさまりそうがない。それさ、さきたもへったとおりの、下手くそだべ。ほら、あの三角のとがったバチで、バーン、バーン、バーンってやるたんびに、そのとがったバチがィ、クジラの胃の壁のあっちゃこっちゃさ、チクチクチクチク当たるもんだから、クジラ、痛くて、痛くて、とうとう叫び声コ上げやんしたんだ。この叫び声コなす、下手くそな三味線とちょうど合いやしたんだ。

「デンデコデンデコデンデコデン、ハア〜、オラァこっただ音っこ出すもの、喰ったごどァねェ。ハッ、デンデコデンデコデンデコデン、ハア〜、オラァこっただ痛ェもの、喰ったごどァねえ。はっ、デンデコデンデコデンデコデン……。」

もう、はァ、クジラ、どうもできなくなつて、さきたの岩のどこさ行って、坊様ばウツと吐いて沖さ逃げていってしまいやしたんだ。

坊様ァ、それもなんもラジアねえ。何事もなかったように、岩さちょこんとねまって、「デンデコデンデコデンデコデン、ハア〜、鯨の港はよいと〜こ〜ろ〜……。」っていっすぎ稽古しておりやんしたずー。

「クジラと坊様」の話っこはァ、これでどつとはらい。

2. しっくらけんのけん

語り：川村 勝氏

今度あ、わの番コですじゃ。何やったらいがべなァってあつたけども、「しっくらけんのけん」ってす昔コ、やりすじゃ。

むが一し、むがし、あるどころさ、爺さまと婆さまといで、婆様、い（家）にいで留守番コして、爺様、裏の畑さ、鍬コー丁たないで、そして、でいごんコ（大根）だのねじっコ（人参）だの植えに行つてらど。ほれ、したばって、爺様、「あーあ、ベゴコでもいれバナァ。へば、ねぎだのごぼうコだの、いっぺえ植えで、婆様さへば新しい着物コ買ってけるにいいんだばってな」って、畑さ行つてらど。

その畑のすぐそばささ、でっただお宮あつて、そのお宮の周りさ、でっただ木、ジャグジャグどおがって、そして、今度、風吹いてくれば、ジョボジョボジョボジョボって薄気

味悪いくらいの音コ立てるんだ。して、そのお宮コのドギコの下さ、キヅネ、んにゃ、このまたキヅネ、ずるすけだキヅネで、爺様植えたでいごんコだのニンジンだのおがってくれば、折ってまったりすんだずえの。あ〜ああ、困ったもんだなって爺様そう思って、そして、また毎日、それでもまだ畑コさ行つての、そしてらど。

したっきや、ある日、爺様、畑さ行つたっきや、なんとキヅネんど、畑の上、今度、はつけであるいたりしちやすけな。で、爺様、行つても、そのキヅネ逃げねんだ。

「あら、キヅネんど、こりや、いぐでねキヅネだ」。

だっきや、そのキヅネ、「じい〜っこ、じっこ、臭せじっこ」って馬鹿にすんだずえの。「ニンジンポッコラと抜けば、デイゴンポッキラと折れてまる」

ってすんだつきやな。さあ、爺様、今度、鍬持って、「ああ、このいぐでねもんだこのキヅネ、こりや」って、ぼって（追いかけて）行つたど。

したっきやまだ、「お〜、こっちや来い、こっちや来い」

ってする。そっちさ、ぼって行けば、「お〜、そっちや行け、そっちや行け」

って、キヅネ、あつつあ行ったり、こつつあ行ったりして逃げであるくところ、爺様、グッとおったってまって（疲れてしまつて）、「ああ〜、このいぐでねキヅネこりやあ、どすだば〜」ってしたっきや、キヅネ、「屁えふりじっこ、臭せじっこ、馬鹿くせんだらこつちや来〜い」って、まだ馬鹿にすんだ。はあああつて、爺さまグッとおったってまって、そこさ座ってまったつけな。

今度ア、どすもなんね、やつと立ち上がつて、そして、い（家）さ戻つて、「婆様、あのキヅネんど、何とかなねべがな」つたっきや、婆様も、前からの、その話コ聞いたりしちゅもんだどこで、「うん、んだつきやの。何がさねばまねねさ」。

たっきや、でつただ袋つくつたど。爺様さ、「爺様、これごとき、フクシコにして」、フクシコって毘にして、「そして、その中さす、豆腐屋さ行つて、油揚げコずっぱど買つてきてさ、そして、へで（入れて）、その袋の口開けて、そのキヅネごとそれさへればいいんでねが」。さあ、爺様も、「うん、そんだねな」って、それこそ豆腐屋さ行つて油揚げコ買つてきて、そして、今度、中コさいっぺえ入れてやつて。だっきや、婆様、「爺様、爺様、ちよつとまが待でへ」。

どしたど思う？ 小屋さ行つて、糠漬けにしてらでいごん（大根）ごと持ってきて刻んで、「爺様、さあ、これごど腹いっぺえ食つて」「この糠漬け、でいごんの、いっぺえかねばまねのな？」「そうですでば」。こちよらこちよらとしゃべつてあつた。

したっきや、爺様、にござつと笑つて、「あら、んだのな」。

そして今度ア、そのでいごんごといっぺえ食つて、そして今度、袋担いで行つて、お宮の脇のどころさ大口開けて、そして、置いだつての。

さあ、晩げになってきたっきや、キヅネんど、ジョロジョロとみんなそろつて戻つて来たど。そして、袋の中コさみんな、「ん？ ろお、何がいいかまりコ（匂い）するな」つたっきや、その来たキヅネんど、袋さ入つて、ああ、しまつたつてな。

それ見た爺様、向かい側のやぶの中さ、むしろコかぶって隠れでらもんだどこで、ウツとむしろ取って、袋の前まではつけできたつきや、ももしきごとウツと下さ引っ張って、なんと、梅干しだけんた、しかも、汚ね梅干しコだけんだケツ、ベロツと出したと思ったつきや、その袋の口さこうやって、「こら～、おめだち、よくもわごと屁ふり爺っこって馬鹿にしてらな。よおし、したら、わの屁、かんでみろ」って、ブツと屁ふったずの。したつきや、れえ～、入り口の袋の口のところにいだキヅネ、なんと「しっくらけんのけ～ん」って、ぶっ倒れてまったつきやな。

したつきや、今度、中にいた、ちょんど中ごろにいだキヅネ、「おわ？ 何の音だば」と思ったがさ、入り口のほうさバツと出てきたずおん。したつきや、爺様、まだ「さあ、わの屁、まだかんでみろ」ってブツと屁ふったずおんの。したつきや、まんだそのキヅネんども、ブランとぶっ倒れて、「しっくらけんのけ～ん」ったずおんの。

したつきや、今度ア、奥にいだキヅネんども、何起こったんだべなと思って出できたどころで、「おらあ、さあ、わの屁、したらかんでみろ。おめだち、わごと屁ふり爺っこってしたべさ」って、屁、まだブーッ、ブツってやって、「さあ、これで終わりだア」って、みんなキヅネんど、はあ、ぶっ倒れてまったっての。

だどこで、今度ア、爺様、婆様ごと呼ばってきて、みんな数珠つなぎさして、町さ売りに行っただ。だつきや、まんだ、町の人だちも、「あ、わさもけえ、おらさもけえ」って。そのまだキヅネコだちごとみんな買ってまったつけな。

したつきや、爺様、「ああ、さあ、婆様、おめさほら、新しい着物コ買ってけるってわ、しゃべってらいな」って、新しいいい着物コ、婆様さまず先に買ってけで、そして今度ア、「あ、そんだ。べごコも買ねばまいんだじゃ。べごコ買って、そして、もっと畑さ何だかんだ植えでや」って。そして、今度ア、べごコも買って、爺様と婆様、めえもの腹いっぺえ食って、いさ戻って行っただっての。

それがらずもの、ほら、キヅネもいねぐなまってまったし、爺様、今度ア、べご使って、畑、でったにして、そして今度ア、何だかんだ植えで、二人ともあずましぐ、楽しく暮らしていったず話コだ。

とっちばれコ。

3.メドツの宝

語り：柗谷伸夫氏

メドツの話もいっぱいあります。人さ悪さするんだけど、最後はいいことするっていう話があるんです。

「メドツの宝物」。

むがしむが～し、鮫の北の方さ、八太郎沼ずで～ったらず沼ありやしたんだア。この沼

さ、メドツア住んでおりました。

あるどぎなす、八太郎村の若エ者の長治が八太郎沼のげぐりば歩いてらった。したつきや、沼の中からピョコッと出てきやしんたんだ。「おい、長治、長治、ちょっと待で！」。長治は何だかと思って足コ止めた。したつきや、沼の中からピョ〜ンとメドツ出はってきて、「おい、長治、長治。これを勘太郎堤のメドツさ届けでけろ。頼むィ」って手紙渡して、ブクブクって沈んでいった。「い、いや、いや……、メドツさ……、いやあ、困ったなあ」

長治は字が読めなかった。何て書いてるんだべがなァ。村のけん道を歩いてらつきや、向こうから庄屋様、来た。「おい、長治。どやしたんだ」「庄屋様、かくかくしかじかで、この手紙っこ頼まれやしたんだ」「どれどれ、なに？ 『この若エ者のケツツァうまそだすけ、イが喰え。』長治、イがこの手紙持っていけば、勘太郎堤のメドツに取って喰れてしまる。よし、わ、書き直してやる。『この若エ者は親孝行でよく稼ぐ若エ者だどこで、何か宝物をイチダイけでやれ』。よし、これ持っていげ」。

さあ、書き直してもらった手紙コ持って、長治は勘太郎堤さ行った。「メドツ様〜、メドツ様、八太郎沼のメドツ様から手紙コ頼まれできあんした〜」。

したつきや、勘太郎堤のメドツ様、ベロ〜ンと出はってきて、「お〜、んだが、んだが。なに？ お？ おおお、ホ〜、大したもんだ、大したもんだ。して、この宝物イチダイ、イがどったらだ宝物欲しいんでエ？」「どったらだのってへば、困りやんすけど、何かイチダイあればよがんす」「おお、そうが。したら、ちょこっと待ってろ〜」。

ブクブクブクブク〜って沈んでいって、さァ、この勘太郎堤のメドツ、「ほら、これ持ってげ〜」って投げでよごしたのは石臼だ。「いやいやいや、メドツ様、こっただ重でエ物…」、いなぐなってしまった。こったら重でエ物ァ困りあんすなあ。

よっころしよ、よっころしよと八太郎村まで運んで行っただ。

「ま、石臼だすけ、ちょこっと回してみるが」、ちょっと試しに一回、回してみだ。したつきやなす、あのすき間っこから、米がチョロチョロチョロって出はってきた。おっ？ 何だァ、この石臼ァ。長治は回した、回した。回せば回すほど米、ジャラジャラジャラジャラ出はってきたんだァ。米はなんぼも出る。まさにメドツの宝物であつた。

この石臼のおかげで、長治ァ、八戸一番の金持ち、長者様になったんでエ。ちょんど町中さ小高い丘コあつた。そこさ屋敷、建てだ。そこは、長治の山、長者山と呼ばれるようになりましたずえ。

さァ、長治はまだ一人であつた。したどこで、嫁っこばもらうにことになった。何しろ八戸一番の大金持ちだもの、おらも嫁っこになりてえ、おらも嫁っこになりてえ、いやいや、のろっと来た。その中で一番のめんごい、めんごい、メラシっこ嫁にした。

ところが、面ァめんこがったどもなす、こご、欲たがりのメラシっこだったんだァ。メラシっこ考えだ。もっと金持ちになりたい。そのためには、あの石臼から、もっとジャンラジャラ、米っこ出はるように工夫せばいいんだ。裏の小屋さ行ってなす、ノミと金槌持ってきて、あの石臼のすき間、「もっと広くなれ」、ガン、ガーンって力いっぺえぶっ叩い

たごった、これにはア石臼も参って、「痛い、痛い、いたたたたた〜」。叫び声っこ上げだがどんだがわがんねども、自分でグルグルグルグル、目にもとまらぬ速さで回り始めた。あんまり速く回ったところでなす、その石臼ア、ヒュ〜ンと上がって西の彼方さ飛んでいってしまいあんしたんずア。

どこさ飛んで行ったと思ふ？ 秋田さ飛んで行った。残念だったなすな。 したすけ、今でも秋田では土の中でその石臼がガラガラ回ってるもんだから、米がとれること、とれること。反対に、石臼がいなくなった八戸で、米ア、なんもとれなくなってしまったア。欲たがりせば、なんもいいごとアねえよ、ず、「メドツの宝物」の話っこは、これでどっとはらい。

4.からやぎの話

語り：柗谷伸夫氏

からやぎの話。

むがし、むがし、あるところに、からやぎおりやんした。いやいや、このからやぎのあんこ、あんこ、あんこ、津軽弁で「あんこ」ってありますか。「若者」のことを「あんこ」っていいます。食うほうはあんこ、人間はあんこ。アンコウ鍋……、まあ、いや、その話。

からやぎのあんこア、おりやんしたんだア。いやいやいやいや、稼がね。なァんも稼がね。朝マから晩ゲまで、ただア家にゴロゴロゴロゴロ、父っちやと母っちや、「おう、畑さあべ。田んぼさあべ」ってへっても、「面倒くさすねえ」。とにかく体を動かすのが、はア、面倒くさくて、面倒くさくて、どうにもなんね、からやぎのあんこだった。

このあんこ、秋、村のケンド歩いてらっきや、ケンド端さ、でえ〜ったらだ柿の木があった。いや、うまっそった柿の実アずっぱりどなってあった。

手コ伸ばせば届くんでえ。からやぎだもの、それも面倒くせえ。柿、落ちでくるのを待つべえって、柿の木の下さ行って、でえ〜ったらだ口ば開けて、ア〜ンって待つてあったんだ。

ながなが落ちでこね。してもなす、夕方になって、ようやくと一つ落ちできた。ポト〜ン。いや、口さ落ちれば、なァんも問題ねがった。なづきさ落ちだんだ。いやア、それだつてほれ、手コこうやって、こさ持つてけばなんも問題ねんでえ。からやぎだもの、手コここまで上げるのが面倒くせえんだ。そのまんま、なづきさ柿の実を上げだまんま、え(家)さ戻って寝てしまった。

三日たったっきや、柿の実ア腐ってきてなす、種から根っこア出はつてきて、わんつかずつ柿の木おがり始めやんしたんだ。三年たったっきやなす、でえ〜ったらだ柿の木になりやんしたんだア。秋になって、いやア、うまそった柿の実はそれなりにずっぱりになった。

それを見た長者様、「いやいやいやいや、人のなづきになった柿の実。いや、これは珍し

い。よし、じえんこ何ぼでも出すすけ、わさ売れ」。

からやぎア、何もやねんで大儲けしたんだずえ。

面白ぐねえのは、他の村のわけものんど。いやア、おらだア、朝マから晩ゲまで一年中、泥コになって稼いでるのになんもじえんこ貯まんねえ。なしてからやぎだけ、じえんこ貯まるんだっけ、面白ぐね。よし、あの柿の木ば切ってしまうべや。」づごとになって、からやぎア寝てるどこさ行って、鋸でゴッキゴッキゴッキと切ってしまった。

なづきさ残ったのはア柿の切り株だ。その年ア、雨ア多がんした。秋になったきや、この切り株さなす、キノゴアおがってきやんしたんでえ。柿かっくいキノゴずキノゴなつた。これもまだ長者さま見て、「いやいや、いやいや、人のなづきさなつたキノゴコ、これ、珍しい。よし、じえんこ何ぼでも出すすけ、わさ売れ」って、まんだまだア、からやぎア何もやねで大儲けしたずえ。

したすけ、まんだ他のわけものんど、「なんも面白ぐねえ。いやア、きまやげるじゃ、からやぎの野郎、よし、あの切り株ば引っこ抜け」づごとになって、からやぎア寝てるどころさ行って、ヨイコラショつと切り株ば引っこ抜いた。したつきや、なづきさポコッと切り株の穴コ開いたんだア。

雨ア降ったきや、水ア溜まって池になりやしたんずえ。いやいや、笑いどころでねえんだでば。近ぐさ沼コあつて、一羽、鴨ア飛んできた。「あいやア、面白い池コあるじゃ」と思ったんだべな、パタパタつと降りてきて、からやぎのなづきの池でパチャパチャ遊び始めた。面白い。何しろ高いところにあるべし、動く池だものや。いや、これ、わ、一羽で遊んでるのはもったいなしねえと思ったんだ。沼さ行って、仲間の鴨、何百、何千ず鴨ばア呼ばってきて、からやぎのなづきの中で遊び始めた。

真剣に考えねば、わがねえよ。話、進まねえんだ。

これにア、からやぎは参った。朝マから晩ゲまで、いやア、寝てる間もパチャパチャパチャバチャ、ギャーギャーギャーギャー。ここで、このからやぎア、生まれて初めて稼ぐごと考えだんだア。「はア、このままだば死んでしまる。何とかしねばな」って、いや、何とかするよりも、「この鴨んどば、とっ捕まえて喰ってやる」って、生まれて初めて稼ぐごと考えだんだ。

裏の小屋さ行って、頭さすっぽりかぶる、でえ〜つたらだ網、見つけできて、両端ばギタツと握って、「こんのオ、鴨んど、このおオ」、バサッとかけた。鴨んどは、どんでんした。いや、このままだばア、鴨汁にしてかれでしまる。ほら、逃げろお〜、パタパタパタパタバタバタ〜って、何百、何千づ鴨が一斉に羽ばたいた。

そこで、手っこ、パツと離せばな〜んも問題ねえんでえ。からやぎだもの、一回ギダツと握ったの離すの面倒くさがったんだべえ、こうやってらつきや、鴨と一緒にダーツと空さ上がって、これもまだ西の彼方さ飛んで行った。これ、津軽さ来たかな。どこさ行ったがわがね。

からやぎせば、たまにはいいごとアあるがもしれねんども、最後はこつたらごとになる

よず。

「からやぎの話」っこは、これでどっとはらい。

5.おぼさりて

語り：川村 勝氏

今度ア、へば、弘前の話コさ移りすじゃ。

むが〜し、むがし、ほれえ、弘前の八幡様、その奥の院のわぎさ、でっただ杉の木あって、その杉コさ、今度ア、なんたってはア、その杉コさ、「お〜んぼさりてえ」「お〜んぼさりてえ」ってす、化げ物いであつたつての。だどこで、その化げ物、今度ア、晩げになれば、そして「お〜んぼさりてえ」「お〜んぼりさりてえ」ってすどころで、町の人だち、晩げ、外さ出ることもあまりさねんで、い（家）にいであつたつての。

今度ア、爺様と婆様といで、大した優しい爺様で、そして今度ア、ところがさ、じぐなしだんだど。意気地がねんだつての。してまんだ、そう優しいばつて、婆様は大したのオ、だいさでも（誰にでも）声コかけて、優し〜ぐしてけるんだつての。で、まだ、二人とも貧乏だんだばつてさ、自分よりも貧乏だ人だちいれば、自分だちかねくてでも（食べなくても）、ほれえ、かせだりすんだつての。そして、まあ、何とかかんとか、二人仲いぐ、そして、人さ優しぐ暮らしてらんだど。

ところが、爺様、ふとっつだけ（一つだけ）さ、これまんだ、困ったことあるんだつての。碁、好きだんだど。碁、好きだどころで、碁、始めればやめること知らねんだつての。そして、はア、それこそやめさへられるまで碁やってるんだつきやな。だどこで、今度ア、したけんども、碁、強えんだど。強えどころで、仲間コだち、一回、爺様ごと何とか困らへでけねばまねんでねべが。「そんだ、そんだ」って、今度ア、いろいろと相談コして、「爺様、どんだつけ。さア、このままだばあれだしせ、賭けジョコやんねべが。おめが勝てばよ、おめさ一両やるし、一両でえ。したけんども、おめ負ければよ、夜中に八幡様ごとお祈りしに行ってみろじゃ」ずごとになったど。

爺様、その仲間コだちごとだば、しょっちゅうやってして勝ってるもんだどごで、ああ、一両もらえればこりゃいいなア、うん、へばまだ、婆様とまだ二人していいし、何かまだ脇コさ分げでやったりもできるべな。「よし、へば、やるが」って、今度ア、やるごとにしたずおんな。

ところが、その仲間コだち、どう相談コしてらんだがさ、「いいが。爺様、一両やって、そして、おめ、八幡様だべ。わがってらいな」。さア、始めだど。

爺様、今度ア、最初は勝ってらずけども、今度ア、負けだつきやな。負けだところで、「おわア、へば、わ、八幡様さ晩げに行つて来ねばまいんだな。あらア、へば、今度ア、かが（奥さん）の面コもわらはんど（子供たち）の面コも見らいねぐなるんだべがなつて、そ

う思ったばって、約束したもんだどごで出掛けて行っただおんな。

一の鳥居のどこさ来たっきや、「おおおお、お～ぼさりてえ」「お～ぼさりてえ」って声コ聞こえてきた。なんと、じぐなしだ爺様だどこで、ブルブルど震えで、うううううう、わい、したばって、おぼねばまねんだべがアって。

そして、今度ア、二の鳥居さ行っただっきや、今度ア少しおっきい声コで、「お～んぼさりてえ」「お～ぼさりてえ」って聞こえてきたど。うわああああああ、どすべなあって。

まんだ奥さ行がねば、あの大っきい杉のどころさ行がいねしって、まんだブルブルどして、そして、今度ア、三の鳥居さ行っただっきや、「おんぼさりてえ」ったっきや、爺様、まんだ、じぐなしの、ごんじよわだ、グワアってやったんだがさ、「そうおぼさりてんだら、おんぼされ～」ってしたんだど。へながのべだ（背中を出した）んだど。

したっきや、ズシズシズシズシ、ズシズシズシって音コ、何だか木の皮コだか何だか、ババババって、ウッっておぼさったっきや、ウワ～と今度ア、それごとおぼって、いさはっけだ（家に走った）ど。

入り口のどころさ来たっきや、「おお、ここさ降りろ」ったっきや、なんと降りねずおん。今度ア、庭コのほうさ行って、「ここさ降りろ」っても降りねずおんな。仕方ね、今度ア、いの中さ入って、茶の間さ行って、「降りろ」っても降りねど。今度ア、座敷さ行って、「降りろ～」って。

今度ア、神棚コあるどこさ行って、「降りろ～」ったっきや、ふわあって急に今度ア軽くなって、なんとじぐなしの爺様だどこで、はア、自分の寝床さ行って、布団かぶって、まなぐギリッとつぶって、そうして今度ア、いづの間にが寝ったんだがさ。

朝マになったところで、婆様、掃除コしに座敷さ行って、ウッて見だっきや、掛け軸コ置いたどこの床の間さ、キラキラキラキラと光るものあったんだど。何だっけな。「爺様、爺様ア～、あの床の間さ光るものある。うわあ～」ったっきや、爺様もびつくらして、ウワッと起きて、おっかなおっかな見だっきや、なんと、大判小判であつたつのオ。

したところで、今度ア、婆様、今度、障子コ開けたりしたっきや、光コ、バツとじえんこさおっかかったがさ、ピカピカピカって。今度ア、爺様と婆様と二人して、手コさ上げて、チャラチャラチャラチャラ、カチン、カチンって、こうのオ、落ちてきたりする音コ聞いて、「あらあ、いいなあ」ってしたってな。

したっきや、神棚のこつちがら、「お～んぼさりてえ」って、まんだ声コ聞こえてきたんだど。だどこで、今度ア、爺様、婆様だち、自分で食うものもかねんで、自分だちよりも困ってる人だちさかへだりしたはんで、神様、まんだの、大判小判だのけで、そして、おめだちも優しく暮らへって、そしてまんだよこしたんだべなど。いいごとしてるどごでまんだ、世話コしてけだんでねべがって、そした話コだ。

とっちばれコ。

6.米子と糠子

語り：梶谷伸夫氏

「米子と糠子」という話っこあります。これは、大野とか一戸とか、山のほうに行くと少〜し話は変わってくるんですけどね、八戸に残ってる「米子と糠子」。

むがし、むがし、あるところに米子と糠子ずメラシっこおりやんしたア。よく聞いてくれ。糠子アさきっぱらのワラシで、米子は新しく来た母っちやのワラシだった。

「さきっぱら」ずのは「先の腹」、きつと亡くなったと思うんですけどもね、前のお母さん。米子は新しく来たお母さん。

新しく来た母っちや、意地くされで、意地くされで、米子ばりめごがってやア、糠子ばり朝マから晩ゲまでかへがへるんだ。「ほら、川さ行って水、くんでこお」。たんだ水くんでくるんでねえんでえ。穴のあいた桶、持たせで、そったらごどまでするんだおんえ。

ある年の秋だ。「おう、米子と糠子。これから山さア行って栗っこ拾ってこ」って、米子さば新しいこだし、「こだし」ってわがるかな？ こっちはどこの人すか。

「津軽です」。

こっちはどこの人ですか。

「津軽です」

ちがる。(笑)「袋っこ」のこと。「こだし」。

糠子さば、穴のあいた古いこだし持だせた。「よし、これ持っててへえ」。

さあ、米子と糠子は栗っこ拾いに山さ入ってったア。米子アへったもえ。「おら、米子だすけ、後ろば歩く。ウ、糠子だすけ、前、歩け」。意味アわがんねえもなす、さア、糠子は一生懸命栗っこ拾る。ところが、糠子のこだし、穴っこあいてるもんだから、ポタポタ落ちる。その後歩いてる米子は、ハハハッって、なんも楽しんで栗っこア拾っていった。

そのまんま山を降りていったっきや、向こう側さ行ったっきや、かげむしろの家っこ、今にも倒れそうな家っこあって、縁側で白髪の婆様、シラミ取りしてあった。「あら、ちょんどいいどころさ来た。メラシっこんどアい、シラミ取ってすけでけろ」。「おら、米子だすけ、そったらのやらね。糠子、ウ、やれ」。糠子は仕方ね、婆様のシラミ取ってやった。

そのうち、ずう〜と遠くのほうから、ズシン、ズシンと足音してきた。「婆様、婆様、あの足元、なんでえ?」「ああア、わがね、わがね。あれア、おらほの息子の鬼の三郎だア。なんどア見つかれば取ってかれでしまるすけ、ほら、チャッチャと逃げろ。ああ、ちょつと待てちょつと待て。シラミ取ってけだお札に、これ持ってげ」って、おきだしに重たいつづらと、ちゃっこい軽いつづらっこ出した。したっきや、米子、へった。「おら、米子だすけ、重たいつづら。糠子はへば、このちゃっこいつづら持で」。

さア、つづら持って、米子と糠子は婆様の家ば逃げた。

ちょんど二人が逃げたところさ、鬼の三郎ア来た。「ああ、いいかまりコだ。それも若い

メラシっこのうまそったかまりだ。婆様、メラシっこんどア、どこさ行っただい？」「うーん、はア、村さ着いだんでなが」「いやいやいや、このかまりコはまださっきまでいだ。よおオし」。

さあ、鬼の三郎ア、米子と糠子をぼっかけだ、ぼっかけだ。「こらア、待じろ〜い、待じろ〜い」、ドシン、ドシン、ドシン、ドシン。

いや、糠子はなんもいいべ。あの米子、重たいつづら持って、いやいやア、ヨッチャ、ヨッチャ、ヨッチャ、なかなか前ア進まねえんだ。鬼の三郎の足音、ガーン、ガーン、ガーン。「こらア、待じろオ〜」、すぐ後ろまで聞こえたんだ。

「はあ〜、わがねわがね。このままだば取ってかれてしまる。命の方アおいしい」。米子はつづらば投げて、ようやくで鬼の三郎から逃れることができた。もちろん、糠子は軽いつづらだすけ、なんも問題ねえ。えさ戻って、押し入れの奥さ隠しておいた。

さて、それから一週間ぐらいしてからな、村の祭りっこが来た。したつきやほれ、あっぱア、母っちゃと米子はもよって、「おお、糠子。これからおらだ二人、祭りさ行ってくるすけ、そのうち、このアワばしらげでおげ」。「しらげる」、精白する、皮をむくということだな。

「うう、こったに？」「いいが。戻ってくるまで終わるんでえ」って、母っちゃと米子は出掛けて行っただ。うううう、おらも祭りっこさ行きてエのになって泣きながらしらげでらつきや、裏の林から、森から鳥っこんどア来た。何しろ糠子は心やさしくて、余った食い物、鳥っこんどアさ、いつもけでらったんだべな。そのお礼に鳥っこんどア来て、「おい、糠子、糠子、どうやして」「おらも祭りっこさ行きてども、米子と母っちゃ、わさこのしらげろって」「あ、そうか。したら、おらんどアすけでやすけ。」

何百何千という鳥コが来て、あのクチバシでピョン、ピョン、ピョンってやるものえ、あの山のようになったアワ、あっという間にしらげ終わったんだア。

「糠子、ほら、終わった。なもしたら、チャッチャと祭りっこさ行ってこ」「したって、おら、着ていぐ着物っこねえもの」「なんもなんも、ほら、いつだが婆様からもらったつづらあべ、あれ、持ってこ」。

押し入れからそのつづらっこ持ってきて開けたつきや、いやいやいやいや、見だごとね、きれいだ着物っこ入ってあった。「ほら、それ着てけ」「うん、ありがと」。

さア、祭りさ行っただ。したつきや、「いやいやいやいや、あら、どこのメラシっこ、見たごとねえ」「ん？ あれはもしかせば……」。いやあ、大騒ぎになったところで、しょしぐなった糠子ア、そのままコチョっと戻ってきた。

母っちゃと米子はなんも知らねえ。

次の日の朝マ、なんと長者様の若旦那様、直接に来たんだ、直に来て、「あんだほの娘の糠子ば嫁にもらりて」。

そこで母っちゃ、「いやいやいやいや、あの小汚い糠子より米子のほうがよがんすじゃ」「いや、おら、あの糠子、いい。糠子の髪あげエ」って。

そこで、母っちゃんす、米子さば、椿油をつけて、糠子さば、ただの油っこつけて、して、櫛ですいでやったんだ。ところが、米子の髪はぱんぱらびんだった。なんぼ櫛かけてでも、ぱんぱらび〜ん、ぱんぱらび〜ん。ところが、糠子は長くて、黒くて、すう〜すう〜。それを見た若旦那様、「いやア、やっぱし糠子でねばわがんねえ」。

糠子は立派だ籠さ乗へられで、長者の若旦那様のところさ嫁っこに行ったんだ。

いやあ、米子はねだくてねだくて、足ばだぎした。「おらも嫁っこさ行きてえ。おらも糠子みた籠さ乗さりてえ」って泣き叫ぶもんだから、母っちゃんも、「わがった、わがった。ともかく籠さ乗せてやすけ」。

裏の小屋さ行って、大八車、おっきい山車で、イワシ籠持ってきて、「ほら、仕方ね。これさ乗され」「仕方ねえ」って米子はその籠さ乗さって、大八車を母っちゃん、引っ張った。

何しろ田んぼのぬかびた道だ。大八車の車がぬたびたさグサッと刺さった途端にガァ〜ンと引っくり返って、母っちゃんも米子は田さ突っ伏してしまった。そのまんま、母っちゃんも米子はタツブになってしまいんあんしたずもえ〜。

なす、意地くさりせば、最後はこういうことになるよす、「米子と糠子」の話っこは、これでどっとはらい。

7.坊様とこぼっこ

語り：柗谷伸夫氏

「坊様とこぼっこ」、これ、さっき覚えてお話です。

むがし、むがし、山の奥のほうさ山寺コあって、和尚様と小坊コがいであつた。あるとき、和尚様、里の檀家様から、いや、うまそうだあんころ餅を五つ六つもらったんだ。ところが、その日は和尚様、里さ法事に行がねやねがった。したどこで、和尚様、「おっ、こぼっこ、いいが、このあんころ餅は、わ、法事から戻ってきたら食うすけ、絶対に、なんたかた、さわればわがんねいえ。わがっだが」「はい」。

さ、和尚様、里の法事さ行って、戻ってきた。

あ、戻ってきた前に、こぼっこは何したが。我慢できなくていえ、和尚様もいねし、やい、一つ食ってしまれ。これ、うまかったんだあ。もう一つ、いやあ、もう一つ。気がついだっきやはア、六つあったあんころ餅は、一つしか残ってね。いやあ、後で叱られる。よし、イエスキリストでねえよ。阿弥陀様の口さあんころ餅、のぼって、最後の。よし、これで何とかごまがすべ。

そこさ和尚さんも戻ってきたわけだ。「あらっ、あんころ餅、どやしたっきや」「さあ、わがりやせんなし。あっ、和尚様、ほれ。阿弥陀様の口ア、小豆だらけだ。あっ、阿弥陀様、食ったごった」。

そこで和尚さんが、「そうが、よし。したら、阿弥陀様に聞くことにするべ」。木魚ば叩く棒コ持ってきて、阿弥陀様ばバーンと叩いた。したっきや、阿弥陀様、コーン、クワーン、クワーン。「こぼっこ、阿弥陀様は、食わん、食わんってへってら（言ってら）」「おが

しいな。したら、和尚様、ちょこっと待っててください」。

囲炉裏さ鍋かけで、湯コ沸いてらな。そこさ阿弥陀様ば持ってきて、ポチャンと入れた。したっきや、クタクタクタ、クタクタクタ。「和尚様、ほれ。阿弥陀様、食った食った食ったってへってら」。「よし、わがった」、鍋、熱いの我慢して阿弥陀様ば取り出して、「よし、かくず……」、かくずってわかるかな、庭。かくずの池さ行って、「阿弥陀様、和尚様が阿弥陀様、池さ投げるの、なんだもんだす。よって行ったっきや、阿弥陀様、コボコボコボコボ、コボコボコボコボ、コボコボコボコボ。「こらっ、阿弥陀様、こぼうってしゃべったな。みんな食ったべ」「はい」。

イエスキリスト様を池さ入れたり、鍋さ入れたりすれば大変なことになるだなす。

この和尚様とこぼっこ、ある時、二人で里の法事さ出掛けて行った。和尚様、馬コさ乗ってな。「おっ、こぼっこ。いいが、地面に落ちてるものは小汚ねすけ、絶対に取るな。わがったが」「はい、和尚様」。パッカパッカ歩いた。

ようやく里さ下りた。強い風コ吹いてきたった。したっきや、和尚様かぶってたボッチ、ボッチずのは、なす、ボッチ、ビューッと飛んで地面さ落ちた。知らねふりしてこぼっこは、「おお、こぼっこ、こぼっこ、ちょっと待て、ちょっと待て。わのボッチ落ちた。拾ってけろ」「したって、和尚様、地面さ落ちたもの拾えばわがんねってへったっきやな」「ああ、わがった、わがった。よし、したら、これからは地面さ落ちたら拾れ」「はい」って、ボッチ取って和尚様さやった。

さあ、パッカパッカ。途中で馬コ足止めて、馬糞をポタポタポタ。「はああ、和尚様、和尚様、ほれほれ、落ちた」「小汚い、そったの要らない。うーん、もうはア、これからは地面さ落ちたものは拾るな。わがったが」「はい、わかりやした」。

パッカパッカパッカ。ネズミコでも通ったんだがなす、馬コ、急に「ヒィーン」、前足上げたもんで、和尚様、コロン、ドテドテンと落ちてしまった。こぼっこは知らねふりして、パッカパッカパッカパッカ。「こら、こぼっこ、待て。待て待て」「したって、和尚様、地面さ落ちたの拾ればわがんねってへったがなす。和尚様、したらどうも」って行ってしまったぞという話コ。

和尚様とこぼっこの話。どっとはらい。

8.穴掘り長兵衛

語り：川村 勝氏

「あなほり長兵衛」の話コ、へば、せすじゃ。

むが〜し、むがし、あるどころさ、爺様と婆様どいで、そして、裏の畑さ、でござ（大根）蒔いでらんだってな。今度ア、でござこ大きくなったところで、「お、婆様、さあさあ、でござこ掘んにやあまねな」って、二人して、うんぱらしよ、うんぱらしよって掘っていだのいいんだけど、だっきや、なんと、でえ〜ったらだでござ、あってあったんだ。

爺様、う〜んったって抜けねえど。「おお、婆様、婆様、さあさあ、手伝ってけろじゃ」って、今度ア二人してうんぱらっても、やっぱし、まいねんで、「あ、へば、あいだア。あなほり長兵衛の長兵衛様さ頼んでやってもらおうべし」って爺様、長兵衛って、昔だばほれ、今だばひねるとジャーの水道コだべけども、井戸コだのみんな掘ったもんだごで、それごと商売にしてる長兵衛のどころさ行って、「あのでっただでいごんにかって、なんぼしても抜けねはんで、何とかさいねべが」ったっきゃ、「なにィ？ はっ、でいごんの一本や二本、わアさ任へでおけ」って、今度、爺様と一緒に畑コさ来て、そして、今度ア、う〜んってやったばって、やっぱし抜けねどごで、「おわア、爺様ア、やっぱしまいねいたな。どれ、婆様と三人してやるが」って、「う〜んぱら」ったって、やっぱし抜けねどころで、「へばよ、わア、この周り、ずっと掘っていって、そして、尻っぽコのところさ行けば、爺様ア、婆様アって呼ばるはんで、したら、そのでござと引っ張ってけろじゃ」。

さあ、周りば掘っていった。一日、二日でなかなか抜けねずおんの。そして、今度ア、やってるうちに、「おっ、今度アいいじゃあ。爺様ア、婆様ア、引っ張ってけじゃ〜い」。今度ア、うんぱらしよ、うんぱらしよって上さ上がっていって、あともう少〜しでほれ、シャバさ出るったっきゃ、でござこの尻っぽコ、ポキラッと折れだど。

したっきゃ、ストーンって落ちて、でござの穴コもちろんほんだばっで、極楽も通り越して、地獄まで落ちて行ったんだずえの。したっきゃ、地獄で、赤鬼だの青鬼だの相談コしてる真ん中さドーンって落ちできたところで、「あら、あららららら、シャバから人、降ってきた。閻魔大王様さ知らへねばまね」って、閻魔大王様さ知らへだど。したっきゃ、閻魔大王、でっただ大福帳たけんたの持ってきて、「おっ、おめ、名前はなんてす」「あれ？ わのなめえコ何であつたつけ」「名前をきちんと言いなさい」「あ、長兵衛だ、長兵衛」「長兵衛、長兵衛……。おわ？ この帳面にはまだ書いてないな。おまえ、地獄に来るには早いからさっさと帰れ」「帰れってされだつたって、わ、どうしてシャバさ戻ればいいんですば」ったっきゃ、閻魔大王様、玉っこだけんたの3つで、「いいが。ここで飲めば極楽、極楽で飲めばでござの尻っぽコあつたどこ、そこで飲めばシャバさちゃんと行くはんでな。一遍に飲めばまいねよ」。

ところが、長兵衛、なんたって早く戻りてえもんだごで、閻魔大王様、うって脇見た拍子に、フッと三つ分、みんな飲んでまったつけな。したっきゃ、ヒューンって、はア、まるでロケットだけに、エンジンっこみたいにバーッって今度ア上がって、そうして、今度ア、極楽超えて、穴コ超えて、シャバ超えて、雲の上まで行ってまったど。

雲の上さストンって落ちだっきゃ、なんとそこさほれ、雷様だちいであつたつての。今度ア、雷様だち、「ていご（太鼓）叩き一人足りねじゃ、おめ、いいどころさ来た。さア、おめ、ていご叩くのさ手伝え」「ていご叩くって、どうして叩けばいいんですば」「どらア、へば、知らへら」。

トントコトントコトントコトン、トントコトントコトントコトン、ピカピカピカピカトントコトン。

さア、長兵衛、ていごなんて叩いだごどねェどこで、トッ、ピッ、トットコ、トコ、トン、トントン。

「にゃア、まんだす、ちゃんと覚えろ」。トントコトントコトントコトン、ピカピカピカピカトントコトンって教えだす。

何たって長兵衛、早く戻りてえもんだどで、それよりもはア、ドンドコドンドコって大きく、バンバンバンどやったっきや、ていご、バチッと裂けだど。

したっきや、そのていごの中さ雨水ごと溜めでらんだっての。だどこで、雨水、ジョージョとハア、下さ落ちでまって、今度ア、ハア、雷様だち怒って、こりゃア、いぐでねもんだ。ていごは裂けてしまうし、せっかぐ溜めだ雨水まで、おめえ」って、今度ア、ぼってきたどこで、あア、フンワラフンワラ、フンワラフワラず雲の上、はっけで逃げたずけんども、ちょんど、ウッって襟首捕まれそうになったっきや、雲コと雲コの間コさ足コ行ったがさ、ストンって下さ落ちでまっただっての。

ぼんのごのここの襟首のどころ、バーッと木の枝さ引っかかって、ブラッとぶら下げて、あらあ、ここ、どごだっけ？ したっきや、岩木山のふもとであっただっての。あらあ、お岩木山のふもと、「おお～、だが（誰か）助けてけろじゃ～い」 たってのオ、お岩木山のふもとだば、だも助けにくるわけねし、だっきやまんだ、長兵衛も長兵衛だ。ブランとぶら下がったまま、グォ～、グォ～って、鼻音立てて寝ったっつけな。

さア、どのくれ寝ったんだがわがねばって、お山のとっぺんから風、ゴォォって吹いてきたっきや、ほれえ、長兵衛、ブーンと飛ばさいで、落ちだどこ、今の富田であっただっての。したはんで、富田のごと、昔っから「とびた」ってしたず話コだ。

はい、とっちばれこ。

南部弁と津軽弁でかたる昔コ 参加者アンケート

1. 本日の催し物に関する感想は？

満足	まあ満足	普通	少し不満	不満
17	2	0	0	0

- ・参加人数が少なかったのが残念です。数多くの人に聞いて欲しいと思いました。
(50代女性)
- ・2つをいっしょに聞けて面白かったです。参加者が少なくて残念です。(50代女性)
- ・非常に面白く拝聴させていただきました。若い人が方言を理解できなくなっているのが残念。なんとか復活させたいです。(70代男性)
- ・子供のころ、嫁とりなどで、？に泊った家でおばさんから昔話を聞きました（南部）。なつかしかったです。(70代女性)
- ・とても良かったです。南部弁も津軽弁も味がとても出ていました。(60代女性)
- ・楽しかった。南部弁は少しわかりにくかった。でも話の内容はわかったつもり。同じ青森県でもこんなに違うんですね、おもしろいです。(60代女性)
- ・弘前に二十年住んで、津軽弁に日々触れていても分からない言葉もたくさんあるなあと思いました。とても楽しかったです。(20代女性)
- ・昔コ、とてもおもしろくて楽しめました。(20代男性)
- ・昔コは心を豊かにしてくれます。今日はありがとうございました。(60代男性)
- ・とても楽しい。もっと広めて欲しい。(40代男性)
- ・大変おもしろかったです。(60代男性)
- ・南部弁にとっても興味がありました。特有のものがありますが、殆どわかりました。声もよく元気をもらいますね。(70代女性)
- ・昔話と地理、歴史に必ずつながってゆくことの大切さを改めて納得します。両先生、本当に素晴らしいお話をありがとうございました。(女性)
- ・とても面白かったですが、参加者が少なくて大変にもったいないと思いました。次回はしっかりコマーシャルしてください。(50代女性)
- ・自分の言葉（会話）ゴミを投げてきてけろ etc. (60代男性)
- ・開催していただいたという事だけでも満足 (60代女性)
- ・自分は津軽弁話者だが、南部弁も温かく、スッと入ってくるのだなあと感じることができた。(20代男性)

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある	ある程度ある	わからない	あまりない	全くない
14	4	0	0	0

その理由は？

<大いにあると答えた方>

- ・とても暖かいことばで、やわらかい気持ちになりました。年齢のちがい、地域のちがいによって、語る力がちがうことがわかり楽しかったです。(50代女性)
- ・子供達が津軽弁を良く解からないのが淋しいです。(50代女性)
- ・方言は大切な文化ですから。(70代男性)
- ・方言はその土地の文化であり、歴史そのものであるもので、是非、継承していくべきだと思います。(60代女性)
- ・地域の言葉・習慣等は残してほしい。歴史は大事だと思う。(60代女性)
- ・方言には地方の味がある。(70代女性)
- ・大事な文化だから。共通語にはない味があるから。(20代男性)
- ・それぞれの土地の自然、慣習、地理的環境等、文化に根差したことばとして受け継がれてきたものだから、今後に伝えていくべき(60代男性)
- ・現代のしゃべり言葉としての発展。(40代男性)
- ・日本の伝統文化である「方言」を同化させないために(60代男性)
- ・親から子、子から孫へとつながる家族の家系のつながりの尊さと人間愛、家族愛の大切さを代々へと。(女性)
- ・歴史が語り継がれるのと同じく、方言でしか語れないものがあると思う。(20代男性)

<ある程度あると答えた方>

- ・言葉は日常生活の中で使われてきたもの、地域はずっと歴史的につながっているのもので、方言をふつうに使い、伝えていってほしい。(70代女性)
- ・ある程度ある：方言は地元の人が伝えていかなければ、どんどん衰退してしまうし、若い人にも方言の良さと伝える必要があると思うから。(20代女性)
- ・ある程度ある：若い人達は殆どわからない言葉もあるので、教えるという事ではなく、色々な人達と交流する機会をふやしたいです。(70代女性)
- ・ある程度ある：コミュニティの存続、地域文化をなくしてしまうから。(60代男性)

3. 被災地域の分化・方言を保存継承しようとする文化庁取り組みをご存知でしたか？

知っていた	聞いたことがある程度	知らなかった
6	5	8

4.文化庁のこうした取り組みについて、どうお考えですか？

大いに必要	ある程度必要	わからない	あまり必要でない	全く必要でない
12	7	0	0	0

5. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

- ・もっと子供達に聞かせたかったです。(50代女性)
- ・集まった人が方言でおはなし、討論すること(70代女性)
- ・東北弁の共通語化(東北自体)(40代男性)
- ・学生さん方の演劇、昔話を題材としたテーマを。方言詩などの朗読会。(女性)
- ・ルーツはどこなのか、解説しながらのお話し会(60代男性)

6. 今後も今日のような催しがあれば、参加したいですか？

是非参加したい	まあ参加したい	わからない	あまり参加したくない	参加しない
14	5	0	0	0

以上のように、本事業に関して、参加者は非常に高い評価をしていることがわかる。また、方言を次世代・次代に継承していくことの大切だと認識されていることが、このアンケートによっても明らかになった。

5. 国語教育に活用できる基礎資料と教材開発のための調査・研究

5. 国語教育に活用できる基礎資料と教材開発のための調査・研究

0. はじめに

今村かほる

青森県の二大方言である津軽弁と南部弁は、旧藩境がことばの境界として残存している日本で唯一の方言として名高い。しかし、以外にもどこがその境界なのかを知らないままにいる学生も少なくないのが事実である。例えば、社会科の副教材「わたしたちのあおもりけん」・「私たちの青森県」では、藩境と津軽・南部の地方の関係について説明されておらず、当然ながら、津軽弁と南部弁という方言などに関する記述もみられない。

これまで、津軽方言に関しては豊富な調査研究が蓄積されてきたが、それに比べると、南部方言に関する研究、特に記述的研究は手薄である。中でも南部方言内における地域差については、詳しい研究が待たれる。今年度、本事業では、今村の演習参加学生と坂本幸博・渋谷洋両氏ともに南部方言の基礎調査に着手した。

来年度以降、こうした成果を基にして、国語教育の授業で使える方言に関する基礎資料や、教材を開発するための基礎研究である。

以下、六カ所村・三沢市・おいらせ町・八戸市における臨地調査の結果を中間報告する。

文法項目

1. 推量「だろう」

分析：一戸美祐

「だろう」という推量の形がある。この「だろう」の語形を4地点で比べ、表にして比較していく。

1.1 形容詞に下接する「だろう」

「この時期の夕焼けは赤いだろう」「今年の冬は寒いだろう」「私の方が身長が大きいだろう」「ポチが死んだら悲しいだろう」という例文を聞いた。そして「赤いだろう」「寒いだろう」「大きいだろう」「悲しいだろう」の部分と比較した。

形容詞に下接する「だろう」

	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸
赤いだろう	アケ <u>エ</u> ベ	N.R.	アケ <u>ンベ</u> エ	アカ <u>カンベ</u>
寒いだろう	サムイ <u>ゴッタ</u>	サムイ <u>ベ</u>	サムイ <u>ベ</u> サム <u>ガンビョン</u>	サム <u>カンベ</u>
大きいだろう	オッキ <u>ベ</u>	オッキ <u>カベ</u> エ オッキ <u>ガベ</u>	オッキ <u>ベ</u> オッキ <u>ガンベ</u> エ	オオキ <u>ガンビョン</u>
悲しいだろう	カナシ <u>カンベ</u>	カナシ <u>イ</u> ベ <u>カワイソダッタナ</u>	カナス <u>ベ</u>	カナシ <u>ガンベ</u>

八戸では「～カンベ、～ガンベ」が主流とみられる。「～ガンビョン」という言い回しは珍しいと思われる。「～ガンビョン」は津軽弁においては「～ビョン」となり、「ベ」＋丁寧さを表す「オン」のように解釈されている。

1.2 動詞に下接する「だろう」

「たぶん手紙を書くだろう」「あいつは明日たぶん来るだろう」「あいつはたぶんその仕事をするだろう」「あそこは車が通らないので静かだろう」という例文を聞いた。そして「書くだろう」「来るだろう」「するだろう」「静かだろう」の部分と比較した。

動詞に下接する「だろう」

	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸
書くだろう	カグ <u>ベ</u>	カグ <u>ベ</u> ガナ	カク <u>ダ</u> ロウ	カグ <u>ゴッタ</u>
来るだろう	クル <u>ゴッタ</u>	クル <u>ゴッタ</u> (クルベも使う)	クン <u>ベ</u> セ	クル <u>ビョン</u> クル <u>ゴッタ</u>
するだろう	スル <u>ゴッタ</u> ヤル <u>ゴッタ</u>	ヤル <u>ゴッタ</u>	スン <u>ベ</u> セ	ス <u>ベ</u>
静かだろう	スンズガダ <u>ゴッタ</u>	ズズガダ <u>ゴッタ</u>	スンズガダ <u>ベ</u>	シズガダ <u>ゴッタ</u>

形容詞と違い「ゴッタ」が使われており、逆に「ベ」の使用が少ない。「ゴッタ」は南部弁特有の語形で、岩手県でも使用されている^{註1}。

おいらせ町では他では使われていない「ベセ」が使われている。そして「ゴッタ」を使用していない。八戸は「ビョン」や「ベ」など津軽弁と同じ語形を使用している。

1.3 考察

形容詞では「ベ」が多く使用されている。しかし八戸では「カンベ、ガンベ」といった、古形の「赤かるべし」が「アカカンベー」になるカリ活用を保持している。「ベ」は津軽弁

でも使用されているが、岩手県の推量表現でも全域で使用されている。この場合は津軽弁からの影響だとも考えられるが、東北特有のものではないかと考えられる。

動詞では「ゴッタ」が多く使用されている。「ゴッタ」を見てみると岩手県の中北部地域では動詞に「ゴッタ」を使用している。

【註1】本堂寛（1982）に次のような記述がある。

「形は、単に終止する形や、意志推量の助動詞「べえ」・仮定推量の助動詞「ごった」「ごった」「なら」・体言などに続く形とする。」

【註2】本堂寛（1982）に次のような記述がある。

「中部地域では、助動詞「ごった」を用いることも多い。」

2. アスペクト

分析：佐々木翠

「ている」

「今何してる？」と聞かれ、「今新聞を読んでいる」や「もうお店が閉まっている」など、「～している」という語尾は状態相のアスペクト^{注1}と言われる。方言だと多くは用言に「～テラ」「～デラ」が下接する。

1.1 「ヨンデラ」

今村(2000)によると、「ヨンデラ」という単語は広く分布されていることがわかる。これは津軽も南部も対立していないということを指す。「カイデラ」も同様に、広く使われており大きな差は感じられない。津軽弁・南部弁で対立しておらず、青森県に広く分布しているというのが適しているのではないか。以下は調査票を元に作った表である。

「～テラ」「～デラ」における類似

		六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸
進行体	読んでいる	ヨン <u>デラ</u>	ヨン <u>デラ</u>	ヨン <u>デラ</u>	ヨン <u>デラ</u>
	書いている	カイ <u>デラ</u>	カイ <u>デラ</u> 、 ケ <u>デラ</u> 、 <u>ケデラ</u>	カイ <u>デラ</u> 、 ケ <u>デラ</u> ー	ケ <u>デラ</u>
	降っている	フッテラ <u>デア</u> ー	フッテ <u>ラ</u>	フッテ <u>ラ</u> 、 フッテラ <u>ジャー</u>	フッテ <u>ラ</u>
結果継続	たまっている	タマッテ <u>ラ</u>	タマッテ <u>ラ</u> 、 タマッテラナ <u>ア</u>	タマッテ <u>ラ</u>	タマッテ <u>ラ</u>
	閉まっている	シマッテ <u>ラ</u>	シマッテ <u>ラ</u> 、 シマッテカナ <u>ア</u>	シマッテ <u>ラ</u> 、 スマッテ <u>ラ</u>	シマッテ <u>ラ</u>
	死んでいる	シン <u>デラ</u>	シン <u>デラ</u>	シン <u>デラ</u> 、スン <u>デラ</u>	シン <u>デラ</u>

三沢の語彙に見られる「エ」「ア」の使用は岩手県南部地域の方言と酷似しているように感じられる。^{註2}

1.2 「ナガッタ」と「ネガッタ」の対立

これは「～テラ」「～デラ」から外れるが、類似していながら地域差がハッキリしている部類になる。津軽と南部で「ネスタ」「ナガッタ」と対立がみられるが、それだけではない。同じ南部の中でも「ナガッタ」「ネガッタ」で対立が起きているのである。

質問項目では、「昨日は運動会があったか？」と聞かれて「いや、なかった」と言うときの「なかった」の部分は何と言いますか？という質問に対し、六ヶ所と八戸が「ナガッタ」、三沢とおいらせが「ネガッタ」と答えたのである。これは今村(2000)からも読み取れる。「ネガッタ」は「無い+ガッタ」の形で、従来からある古い形の言葉で、「ナガッタ」の方が新しい形、つまり共通語形である。内陸に近いほど古い言葉が残っているものだが、なぜ一番内陸側の六ヶ所が共通語形の「ナガッタ」を使用しているのかが気になる場所である。また、この単語が特別ハッキリ分かれていただけであり、地域ごとに異なる表現をしているものは他にもあるのだが、ここまで綺麗に分かれているものはこれ以外無いように思える。

1.3 考察

先行研究の中で、このような記述があった。

昔の生活は深い雪に閉ざされると隣村との往来もできなくなったし、雪のないときでもテクテクと歩いての往来だから、特別の用件でもない限り村落外に出ることもなかったと思われる。すると、その村落特有の話し方になっていく。(中略)どこへ行っても「方言は一里離れると違う」と言っている。

(東通村史編集委員会(1997)『東通村史 民族・民族芸能編』東通村 p377)

このように、「地域によって発音が違っていたり、用語が違っていたり、またイントネーションにも違いがあったりする。^{註3}」ということ、此島(1966)の

厳しい環境の中で移住が小集団毎に少しずつ行われ、(三戸・八戸等の「へ」はたぶんこのような小集団を意味する語であった)従ってその生活も分散して孤立的に営まれたであろう。南部弁が津軽弁のような統一に欠け、その中がいくつかの地域に区画されるのは、このような開拓の歴史の反映ではないかと思われる。すなわち、三戸・上北・下北の各部にそれぞれ多少の差があり、特に下北郡にはかなりの異色があつて、南部弁を狭義に解すればそれからはみでる面もかなりあるのである。^{註4}

という記述により地域ごとの差は津軽と南部という大きなくくりだけではなく、南部のなかの地域ごとにも昔から差が生じていることが分かる。今もなお地域ごとに違いのある方言の使用が継続されているのが見られることから、方言の消失は起きていないのではないだろうか。また、先行研究では古語の残存が見られるといった話もあり、このことにつ

いては川本(1994)に以下のような記述がある。

(中略)これに該当する例の一つとして、境界地帯の津軽に分布する南部のことばと同じことばが、遠く離れた津軽の西海岸にもまとまって分布し、周圈的分布を示していると思われるものがあげられる。境界地帯から西海岸にかけての津軽地方一帯に連続的に分布していたことばが、あとで津軽の内陸部に発生した津軽の新しいことばによって分断され、境界地帯と西海岸に残存しているのではなかろうかということが推測されるからである。もし、そうであるとすると、境界地帯と西海岸に分布する南部のことばは、古いことばの一つとして取り上げられることになる。^{註5}

この内容は前期の先行研究と同じような内容であることから、共通の認識になっていたのではないかと考えられる。

南部地域内の方言が徐々に統合され、地域差がなくなっているような感想を調査の際に私は抱いた。おそらく、消失はしていないが統合化は進んでいるのだろうということが考えられる。

【註】

【註1】佐治(1989)に次のような記述がある。

話し手が設定した話題の時点において、話題の事柄が始まる段階にあるのか、始まって継続している段階にあるのか、終わった段階にあるのかといった、事柄の動きの段階を表す文法的範疇をアスペクトという(動作態)。(中略)動きの始まりや終わりの段階にあることを表すもの(動作相)と、動きの継続的な姿を表すもの(状態相)とがある。(中略)

状態相のアスペクトを表す形式には「ている」「である」「つつある」「ておく」「ていく」「てくる」「続ける」などがある。(中略)

「**ている**」は〈主体がその動詞の意味する動作・作用を実現して、その主体の状態が能動的に継続している〉という意義素を持つと思われる。

【註2】森下(1992)に次のような記述がある。

謙譲の助動詞に、「モース」がある。(中略)

モースが訛って、ムッシェアとなったり、モッシェアとなったりすることもある。いずれも南部地域の方言として老人層に現在でも使われている。

【註3】東通村史編集委員会(1997)『東通村史 民族・民族芸能編』東通村 p377 より引用

【註4】此島(1966)p80 より引用

【註5】川本(1994)p165～p166 より引用

《参考文献》

- 此島正年(1966)『新版 青森県の方言』(津軽書房)
佐治圭三(1989)『日本語概説』(桜楓社)
森下喜一(1992)『現代日本語方言大辞典 各地方言の解説』(明治書院)
川本栄一郎(1994)「津軽と南部のことば」『国語論究第4集 現代語・方言の研究』(明治書院)
東通村史編集委員会(1997)『東通村史 民族・民族芸能編』(東通村)
今村かほる(2002)『津軽・南部境界地域方言地図』(科学研究費報告書)

3. 能力可能と条件可能

分析：一戸尚子

3.1 はじめに

共通語と異なり、方言に基づく「能力可能」・条件に基づく「条件可能」素材に基づく「素材可能」の別があることは、すでに報告がある。津軽地方の可能表現についても、此島(1966)に以下のような記述がある。

ヨメル・オキレルのほうは読み・起きる能力があってできるという、いわば「能力可能」を表すのに対して、ヨマエル・オキラエルは、能力の実現しうる環境・条件の成立によって可能であること、いわば「条件可能」を表すという相違があるらしいのであって、否定のばあいにはこの差がはっきりと表れるのである。(中略)

ヨムニイという可能表現は本来は条件可能であったかと思われるが、現在は能力可能、条件可能どちらにも使われるようで、この点便利だと言えるが、ただこれの欠点は打消表現のできないことで(ヨムニイクナイとかヨムニワルイとかは言えない)、従って打消しのばあいはヨメネエ・ヨマエネエのどちらかを用いなければならない。

以上のように、能力可能と条件可能、さらに肯定否定という要素において使い分けのあることが指摘されている。

3.2 調査結果

今回の調査で可能表現の比較を改めて行った。質問項目の例として、「電燈が明るいの
で新聞を読むことができる」と言うときの「読むことができる」の部分は何と言いますか？
等がある。これを表にすると以下ようになる。

可能表現

	六ヶ所	三沢	おいらせ
読むことができる (能力可能)	<u>ヨメル</u>	<u>ヨメル</u>	<u>ヨメル</u>
読むことができる (条件可能)	ヨメル	ヨムニイイ	ヨマサル
読むことができない (能力可能・否定)	<u>ヨメネ</u>	<u>ヨメネ</u>	<u>ヨメネ</u>
読むことができない (条件可能・否定)	<u>ヨメネ</u>	<u>ヨメネ</u>	<u>ヨメネ</u>

調査の結果、「能力可能」は六ヶ所、三沢、おいらせどの地点でも、「ヨメル」でその否定形は「ヨメネ」である。否定形に関しては、どの地点においても、「ヨメネ」である。

また、三井（1988）によると、

津軽地方の可能表現については、従来能力可能と条件可能の区別があるということが指摘されている。しかし、それぞれにどのような形式が用いられるのか、という点になると、報告者により、様々である。それだけ当方言における可能表現は複雑な様相を呈しているということだろう。

（中略）

当方言における可能表現の形式についてまとめると次のようになる。「読める」の場合、優勢な可能表現の形式はヨメル（可能動詞）とヨムニイイ（連体形＋ニイイ）である。（中略）ただし、両者が使い分けられる地点・個人では、ヨメルが能力可能にヨムニイイが条件可能に用いられており、逆はない。

3.3 考察

先行研究によれば、可能動詞の形式はヨメル（可能動詞）とヨムニイイ（連体形＋ニイイ）があり、使い分けが存在していたが、近年、能力可能を表す可能動詞形の用法が、広がり、状況可能の連体形＋ニイイ形式が統合されるという、いわば方言内部の変化を重視した考え方である事がわかる。調査の結果からも、「能力可能・否定」と「条件可能・否定」の統合化が見られる。また、今村（2002）によれば、

否定の場合は、「能力可能の否定」は「可能動詞＋ネ」により、「条件可能の否定」は「未然形＋レネ・エネ」という使い分けがあるといわれてきたが、今回の調査は異なり、両地域で特に否定のほうが統合化進みつつあることが指摘できる。

このことから、今回の調査で「能力可能・否定」は統合化が進みつつある事が裏付けられる。

《参考文献》

今村かほる(2002)『津軽・南部境界地域方言地図』(科研費報告書)

此島正年(1966)『青森県の方言』

語彙項目

分析：佐藤友行・田澤真澄

0. はじめに

南部方言と津軽方言を語彙項目に着目して、共通語と比較する。

そこで、語彙項目を品詞ごとに分けて、みていく。

1. 1 動詞

質問：料理に塩味が足りない時、塩を加える事を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
イレル	イレル	イレル	イレル	エレル	ヘル	エレル

「料理に塩味が足りない時、塩を加える事を何と言いますか？」という質問に対して、共通語と同語形

「イレル」が六ヶ所、三沢、おいらせで見られており、方言の共通語化が見られた。

質問：散らかったものを整理する事を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
カタズケル	カタズケル	トロケル	トロケル	カタズケル	トリケル カタズケル	トロケル

「散らかったものを整理する事を何と言いますか？」という質問に対しては、南部の予想語形の「トリケル、カダンズケル」が4地点のどこにも見られず、六ヶ所、八戸では共通語の「カタズケル」、三沢、おいらせは津軽の予想語形「トロケル」だった。

質問：湯など、煮え立ったものが吹き上がってこぼれることを何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
フキコボレル	マガル	マガル コボレル	マガル	マガル フギダシ	マガル	フギダシ

南部の4地点全てで南部の予想語形の「マガル」が見られた。また、八戸のみで津軽の予想語形「フギダシ」が見られた。

1. 2 形容詞

質問：強い光などを見て、なかなか目を開けられない状態の事を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
マブシー	マブシー	マブシー マツポイ	マツポイ	マブシー	マツポエ マンブス	マンチコエ

「強い光などを見て、なかなか目を開けられない状態の事を何といいますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、八戸で共通語化していた。三沢とおいらせの「マツポイ」は南部方言の予想語形「マツポエ」と類似しており、活用語尾に微妙な変化が生じたと考えられる。

質問：料理がおいしくないことを何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
マズイ	マグネア	ウマグネア マグネア	オマグネア	ンマグネ ア	マグネア	マグネア

「料理がおいしくないことを何といいますか？」という質問に対して、南部方言と津軽方言の予想語形は一致しており、六ヶ所、三沢で共通語化していた。三沢、おいらせ、八戸ではそれぞれやや異なるものの、予想語形と類似している。

質問：しなやかで、ふっくらとしている様子を何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
ヤワラ カイ	ヤッコ イ	ヤワラケナア ー ヤワラケア	ヤッコイ ヤワラケア	ヤッコイ	ヤッコエ	ヤッコイ

しなやかで、ふっくらとしている様子を何といいますか？という質問に対して六ヶ所、おいらせ、八戸では津軽の予想語形が見られた。南部方言の予想語形「ヤッコエ」も三地点の「ヤッコイ」と類似しており、活用語尾の発音に変化が生じたと考えられる。

質問：光が十分に差している状態の事を何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
アカルイ	アガル イ	アガリ	アガリ	アガルイ	アガルエ	アガリ

光が十分に差している状態の事を何といいますか？という質問に対して、三沢、おいらせで津軽方言の予想語形と一致していた。また、六ヶ所、八戸では南部方言の予想語形と類似しており、これも活用語尾に変化が生じたと考えられる。

1.3 感覚、感情語彙

質問：冬の吹雪いている外の冷え込んだ状態を何といいますか？

標準語形	南部（男）	南部（女）	南部（予想）	津軽
サムサハゲシイ	シバレル	シバレル シンバレル	シバレル	シバレル

冬の吹雪いている外の冷え込んだ状態を何と言いますか？という質問に対して、南部では共通して南部の予想語形である「シバレル」の語形が見られた。津軽も「シバレル」という事からもこの方言は広い地域で残っていると考えられる。

質問：公衆の前で大恥をかいてしまいました。その時のあなたの気持ちを何と言いますか？

標準語形	南部（男）	南部（女）	南部（予想）	津軽
ハズカシイ	コッパズカシイ	メグセ ハズカシイ	メグサイ	メグセ

公衆の前で大恥をかいてしまいました。その時のあなたの気持ちを何と言いますか？という質問に対して、標準語形の「ハズカシイ」と津軽の「メグセ」は見られたが南部の予想語形は見られなかった。南部方言があまり見られない言葉である。

質問：家の居間のソファで横になりテレビを観ています。この快適な状態を何と言いますか？

標準語形	南部（男）	南部（女）	南部（予想）	津軽
イゴチガイ	ハッピーイ	アンバイ アズマシ	アズマシ	アジマシ

家の居間のソファで横になりテレビを観ています。この快適な状態を何と言いますか？という質問に対して、南部の予想語形「アズマシ」が見られたが、「ハッピーイ」「アンバイ」の予想語形ではない独特の方言も見られた。津軽の方言は見られず、南部の言葉として多く残っていると考えられる。

名詞

分析：松江夏穂

質問：畑に出てする耕作の仕事を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部 (野辺地)	津軽
ノラシゴト	ハダゲス ゴド	シャクシ ヨスゴト	ハダゲス ゴド	ハダゲス ゴド	シャクシ ヨスゴト	ハンダゲ シゴド
		ハダゲス ゴド				

4地点で「ハダゲスゴド」の回答が見られた。また、津軽の「ハンダゲシゴド」と類似しており津軽から流入していったとみられる。また三沢の「シャクシヨスゴト」は南部の共通語形と類似していた。

質問：米のもみがら、からをとったものは玄米ですが、その玄米にしたときに残るからの

ことを何といいますか？卵やりんごを箱詰めするときに使います。

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部（野辺 津軽地）
モミガラ	ヌガ	ヌガ	モニカラ	ヌガ	ヌガ モキ° カ° ラ

おいらせ以外の3地点で南部の共通語形が見られた。また、おいらせでは南部とも津軽とも違う独立した語形が見られた。

質問：外出するとき、寒さを防ぐために着るものを何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部（野辺 津軽地）
ボーカン ギ	ボーカン ギ	カグマギ ボット	ゲット	カグマギ ガエド	ボーカン オーンバ キ°

質問：頭にかぶって暑さや寒さを防いだり、ちりやほこりを防いだりするものを何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部（野辺 津軽地）
ボーシ	ボーシ	シャッポ フルシキ	シャッポ	シャッポ ポッツ	シャップ チャッポ

南部方言の共通語形の「シャップ」を見ると、三沢、おいらせ、八戸で類似した「シャッポ」が見られた。また、この三地点で見られた「シャッポ」は津軽の「チャッポ」と類似していた。

身体語彙

分析：太田真澄

質問：ツチフマズを何といいますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
ツチフマズ	ツチフマズ	ツヅフマンズ ツチフマズ	ツチフマズ ツヂフマズ	ツヅフマンズ	N. R	N. R

「ツチフマズを何といいますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、おいらせで共通語形が見られた。「ツヅフマンズ」や「ツヂフマズ」という語形も見られたが、共通語形が多く見られた。

質問：歩いた後に残る足の形を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
アシアト	アスアド	アサド	アスアド	アスアド	アサド アスアド	アシアド

「歩いた後に残る足の形を何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、おいらせ、八戸で「アスアド」、三沢で「アサド」という南部方言の予想語形が見られた。このことから、南部方言が残っていることがわかる。

質問：マツケ[°] を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
マツケ [°]	マツケ [°]	マズケ [°]	マズケ	マズケ	マツケ [°]	マジケ [°]

「マツケ[°] を何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所で南部方言の予想語形「マツケ[°]」が見られた。これは共通語形と同じ語形である。三沢、おいらせ、八戸で、共通語や南部・津軽の予想語形と異なった語形「マズケ[°]」や「マズケ」が見られた。

質問：目の上を覆う皮膚を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
マブタ	マブタ	マンブタ マブタ	マブタ	マンブタ	マンブツ	マンブチ

「目の上を覆う皮膚を何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、おいらせで共通語形が見られた。三沢、八戸で「マンブタ」という語形が見られたが、南部方言の予想語形や津軽の予想語形とは異なった語形であった。

質問：皮膚の表面にある、黒い小さい点を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
ホクロ	アンジャ	アンジャ アザ	アンジャ	アザ	アンジャ	アンジャ

「皮膚の表面にある、黒い小さい点を何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、おいらせで南部方言の予想語形の「アンジャ」が見られた。この語形は津軽の予想

語形でもある。三沢、八戸では「アザ」という語形も見られた。このことから、南部方言が残っていることがわかる。

生物語彙

質問：いろいろな種類がありますが、トンボをひっくるめて何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
トンボ	ダンブリ	ダンブリ ダンブリコ	ダンブリ ダンブリコ	ダンブリ ダンブリコ	ダンブリ	ダンブリ タブリ

「いろいろな種類がありますが、トンボをひっくるめて何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、おいらせ、八戸で、南部方言の予想語形「ダンブリ」が見られた。「ダンブリ」は津軽の予想語形でもある。三沢、おいらせ、八戸では「ダンブリコ」という語形も見られた。工藤祐(1979)によれば「総称はともにダンブリ。南部ではアゲンズ・アゲンツコと呼ぶこともあった。」(注1)とあるように南部では昔からダンブリと言われていたことがわかる。

質問：バッタを何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
バッタ	ハッタギ	ハッタキ	D. K	ハッタギ	ドロンボ ハッタギ	トランボ

「バッタを何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、八戸で南部方言の予想語形「ハッタギ」が見られ、三沢でも似た語形が見られた。工藤祐(1979)によれば「南部でトランボ、トランボハタキ[°]ともいい、津軽ではトビトランボ、トランバ、トランブとも、ハタコ[°]、ハタンボともいった。」(注2)とあるように、津軽の予想語形と南部の予想語形を合体させた様なトランボハタキ[°]という語形が昔はあったことがわかる。

質問：いろいろ種類がありますが、おたまじゃくしが大きくなったものを何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	南部(予)	津軽(予)
カエル	ゲロ	ゲロ	ゲロ	ゲロ	ケァロ	ゲェロ モケ

「いろいろな種類がありますが、おたまじゃくしが大きくなったものを何と言いますか？」という質問に対して、六ヶ所、三沢、おいらせ、八戸で「ゲロ」という語形が見られた。

先行研究を見てみると、今村(2002)によれば、『弘学調査地図 2.015「カエル」では、南部方言形のゲロ・ゲェロが広く分布している。これに対する津軽方言形はモッケだが、あまり見られない。』(注3)とされている。今回の調査でも南部地方で「ゲロ」が使用されているとわかる。

【注】

注1 工藤祐(1979)「生物の部」『青森県の文化シリーズ 15 津軽と南部の方言』112 頁

注2 工藤祐(1979)「生物の部」『青森県の文化シリーズ 15 津軽と南部の方言』117 頁

注3 今村かほる(2002)「津軽・南部境界地域方言地図」28 頁 蛙方言地図による

意識項目

担当：種市麻衣

	六カ所	三沢	おいらせ	八戸
昔と今とでは自分の使っていることばは違っていると思いますか？	N. R	思う	思わない	思う．方言→共通語、思わない
今後、津軽弁と南部弁はどうかと思いますか？	このまま	標準語化する、わからない	N. R.	なんとも思わない標準語化する
今後、津軽弁と南部弁を残していきたいと思いますか？	残したいと思う	残したいと思う	残したいと思う	残したいと思う、やや思う

共通語化の中で、方言は残したいけれど、特に押しとどめようのないものだと感じている様子が観察できる。

6. ポスター展

青森県の方言 津軽方言と南部方言

弘前学院大学 文学部
日本語・日本文学科

今村かほるゼミ

青森県の方言

青森県の方言

{ 津軽方言
南部方言

(下北方言を含む)

幕藩時代の国境が方言の区画と重なる日本では唯一の方言として有名。
地域差の少ない津軽方言に対し、南部方言の方が地域差があるとされている。



青森県HPより転載

津軽弁と南部弁の特徴 (日野資純氏による)

津軽方言

オドゲ (顎)
メグセ (恥ずかしい)
雨降るハンデ (から)
マツコイ (眩しい)
犬タデル (飼う)
雨降るビョン (だろう)
マネ (~しては駄目だ)

南部方言

アギタ
ショシ
雨降るスケ
マツポイ
アズカル
雨降るゴツタ
ワガネ

文化庁支援事業(2013)

発信！方言の魅力-体験する青森県の方言-

●目的：国語教育で活用できる方言教材・資料の作成

●被災地方言調査

2013年9月15日実施 八戸市市川地区

生え抜き話者 男性2名・女性2名

語彙・文法項目、意識調査 調査票による

面接調査

調査者 弘前学院大学 3年生・4年生

(今村ゼミ) 11名

親族名称

担当：戸尚子・戸美祐・佐々木翠・太田真澄

親族	津軽弁	南部弁
おじいさん	ジジ、ジツコ、ジツチャ	ジジ、ジツチャ
おばあさん	ババ、バサマ、アバババ、バサマ、オバサン、パツチャ	ババ、バサマ、オバサン、パツチャ
お父さん	ア、オド、トツチャ	アヤ、ダダ、チャ
お母さん	アツチャ、アツバ、カアサン、ガガ	アツチャ、アツバ、カアサン、ガガ
お兄さん	アニコ	アニ、アナンチャ、ニエチャン
お姉さん	ネツチャ	ネツチャ、アネ、アネチャ、ネエチャン
長男	アニコ	アニサ、アナンチャ、オオキアニ、オンジ、ゴデ
次男	オンジ、オンジカス	オンジ、オンチャ、ラジ
妹	特に名称は無い	ビツタ
お姉さん	アネチャ	アネチャ、アネ、ネエサン
若者 (20~40代の青年)	ワゲモノ	ゴデ、トツチャ、ワカイモノ、ワゲモノ
子ども	ワラシ	ワラシ、ガガ、ビツタ
赤ちゃん	オンボッコ、ピツキ	ピツキ、オボコ、ピキ
男の子	アニコ	アナンチャ、オドゴワラシ、ボンス
女の子	オナゴワラシ	オナゴワラシ、ビツタ、ビツタッコ
若者	ワゲモノ	ワゲモノ、ワカイモノ

感覚・感情語彙

担当：佐藤友行・田澤真澄・今諒司

共通語	津軽弁	南部弁
居心地が良い	アジマシ	ハツバイ、アンバイ、アズマシ
調子が悪い・具合が悪い	アベウリ	ヘズネ、グアイガワリ
しっくりこない・窮屈	エジ	エジ、ヤリニクイ、アクナイ、キョウクツ
目に異物が入ったような違和感	エジ	エジ、エンジ、ゴロゴロスル、ゴミハイ
恐ろしい・怖い	オコネ	オツカネ、コワイ
ぐったりと	グナット	ヘズネ、グダット、グツタリト
疲れた	コエ	ヘツチヨハグ、コエ、ツカレタ
まぶしい	マンチコエ	マブシイ
気持ちよい	アジマシ	イイアンベ、キモチイイ、キモチヨイ
不安・ハラハラする	オモヤミ	コツチャムシイ、ネツケナイ、フアン
気持ち悪い	エジ	ヘズネ、キモチワルイ
寒さ激しい	シバレル	シバレル、シンバレル
（にこにこ）する	ニヤラット	ニヤラット、バカツラ
恥ずかしい	メグセ	メグセ、コツバズカシイ
ぼんやり（する）	アッカド	ボホラ

動作語彙等

担当：中西知美・松江夏穂

共通語	津軽弁	南部弁
下さい	ケヘ	カル、ケセ、クダサイ
駄目だ	マエネ	ワガネ、ダメダ
けれども	バテ	シケ、ヘンデ、シケ、ヨント
旋毛	マギギリ	マギメ、ツムジマギメ
左利き	ヒダリハジ	ギツチヨ、ヒダリコギ、ヒダリキギ、ヒダリギツチヨ
行くだろう	イグベネ	イクンダベカ、イグゴツタ、イグンダベ
叫ぶ	サカブ	サゲク、サカブ、ジナル、サガンブ
目覚める	オドログ	オギル、メガサメル、メザメル
降りる	オリル	オデル、オリル
下りる	オリル	オデル、オリル
歩く	アサグ	アルグ
走る	ハケル	ハヘル、ハセル
寂しい	シゲネ	サンブス、サビシイ、ヘズナイ、サビシ
豪だ	エバダダ	オガシ

方言に関する意識

担当：種市麻衣、松山莉葉

質問：方言は地域住民のコミュニケーションを深めていくために重要であると思いますか？

答え

- ・思う (76歳男性)
- ・思うには思うが、今は方言でなくても通じる。しかし気持ちを表すのは方言である。72歳女性A)
- ・思わない (67歳女性)

⇒方言を使わずとも意志の疎通は図れるが、細かいニュアンスは伝わりにくいという回答が得られた。標準語では上手く言えない感覚を伝えるためには方言が必要なのではないかと考察できる。

質問：これからずっと残していきたい方言には、どんなものがありますか？

- ・吸う=サズル (76歳男性)
- ・ケなどの短縮語、わっぱ、わらし、(68歳男性)
- ・「ホンダナス」など、柔らかくて優しい言葉 (72歳女性A)
- ・全部 (72歳女性B)
- ・標準語では表せない言葉 (67歳女性)
- ・友人と道で会った時に使う言葉「ドゴサイツテキタエ」
- ・「アノサア／アノナス (あのねえ)」、「ジャジャジャ」 (72歳女性C)

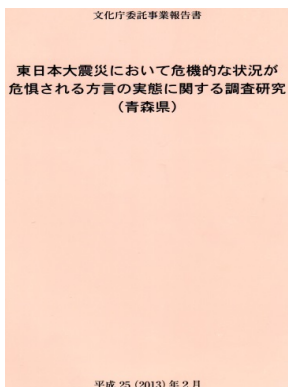
2. 方言調査

文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！ 方言の魅力 体験する青森県の方言

国語教育に活用できる基礎資料・教材作成のための 南部弁調査

これまで、弘前学院大学文学部・今村かほるゼミでは、2000年から津軽／南部境界の東津軽郡平内町・狩場沢地区と上北郡野辺地町・馬門地区において、津軽方言と南部方言の境界地域での方言の実態について調査しました。



昨年度(2012年度)は、今村の他、東奥義塾の坂本幸博先生と南部方言の例として、下北郡六ヶ所村、三沢市、上北郡おいらせ町、八戸市の方言調査に伺い、震災当時の体験の録音・文字化、言葉に対する意識調査などを行いました。調査結果は報告書にまとめ、文化庁のHPからもご覧になれます。



http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/index.html

今年度からは、文化庁の目指す「方言の保存・継承」という目的のひとつとして、国語教育に活用できる基礎資料・教材作成のための南部弁調査に着手しました。

実は、比較的內部差の少ない津軽方言に対して、南部方言は、集落の形成などの歴史的経緯などの事象から、内部による差があり、大きく下北／上北／三八のような三区分が行われます。しかしながら、その違いを記述的にとらえる基礎研究が不足しており、国語教育でも具体的に、津軽と南部の方言を比較できるような基礎資料や教材は管見に入っていません。



弘前学院大学文学部今村かほるゼミのメンバーと東奥義塾高校の坂本幸博・渋谷洋先生で方言調査に伺いました。八戸市市川町、おいらせ町上明堂、三沢市塩釜、六ヶ所村尾駈の各地で調査にご協力いただきました。感謝申し上げます。

現在、データの分析・考察を進めています。

|



3. 調査結果

語彙調査

質問：強い光などを見て、なかなか目を開けられない状態の事を何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	(野辺地)	津軽方言
マブシー	マブシー	マブシー マツポイ	マツポイ	マブシー	マツポエ マツコイ	マンチコエ マツコイ

津軽方言と南部方言の対立の指標として名高い「まぶしい」は、南部弁（上北・三八）の従来の語形は、「マチポエ」であった。しかし、2001年の平内／野辺地の津軽南部境界地域調査時には、既に津軽方言語形の「マツコイ」が南部側に分布を拡大していた。今回の調査では、さらに共通語化が進んでいることが確認できた。三沢とおいらせにみられる「マツポイ」は南部方言の「マツポエ」と津軽方言の「マツコイ」から生じたいわゆる混淆形コンタミネーションで、変化が生じていると考えられる。

質問：バッタを何と言いますか？

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸	(野辺地)	津軽方言
バッタ	ハッタギ	ハッタキ	D. K	ハッタギ	ドロンボ ハッタギ	トランボ

バッタは、トランボ、ハッタギという対照的な語形が使用されているが、その二つが会すると、「トランボハッタギ」や「ドロンボハッタギ」のように、両方を重ねて用いる形へと変化する地域がある。今回の調査では、六ヶ所、八戸で南部方言の「ハッタギ」が見られ、三沢でも似た語形が見られた。

文法調査

形容詞の推量

共通語	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸
赤いだろう	アケェベ	N.R.	アケンベェ	アカカンベ
寒いだろう	サムイゴッタ	サムイベ	サムイベ サムガンビョン	サムカンベ
大きいだろう	オッキベ	オッキカベェ オッキガベ	オッキベ オッキガンベェ	オオキガンビョン
悲しいだろう	カナシカンベ	カナシイベ カワイソダッタナ	カナスベ	カナシガンベ

八戸では「～カンベ、～ガンベ」のような古形「赤かるべし」が「サムカンベ」になるカリ活用を保持している。これは、南東北方言にも広く続く活用である。しかし、津軽では、このカリ活用が発達しておらず、「アゲベ」「アゲビョン」のように「終止形+ベ・ビョン」の形が一般的であるという対立がある。

動詞の推量

	六ヶ所	三沢	おいらせ	八戸
書くだろう	カグベ	カグベガナ	カクダロウ	カグゴッタ
来るだろう	クルゴッタ	クルゴッタ クルベ	クンベセ	クルビョン クルゴッタ
するだろう	スルゴッタ ヤルゴッタ	ヤルゴッタ	スンベセ	スベ
静かだろう	スンズガダゴッタ	ズズガダゴッタ	スンズガダベ	シズガダゴッタ

形容詞と違い「ゴッタ」が使われており、逆に「ベ」の使用が少ない。「ゴッタ」は南部弁特有の語形で、岩手県でも使用されている

参考文献

- 日野資純（1958）「ことばの風土記」『言語生活』77
 此島正年（1966）『青森県の方言』青森県文化財保護協会
 川本栄一郎（1994）「津軽と南部のことば」『国語論究第4集 現代語・方言の研究』

4. 紙芝居

文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！ 方言の魅力 体験する青森県の方

岩手県田老町出身田畑ヨシさんによる

2013年11月14日

震災体験紙芝居「つなみ」と懇話会

昭和8年3月3日の三陸大津波を経験した田畑ヨシさん（当時歳のよっちゃん）は、お母さんを失いました。その時の辛く恐ろしい体験を、自分の孫に語り伝えるために、昭和54年に「つなみ」という紙芝居を作りました。



よっちゃんは、明治二十九年の津波に流されて助かったおじいさんから、津波の恐ろしさを聞かされていました。「いつかきつとまた津波がくるのだから大きな地震がゆったなら一人でも裏の赤沼山に、にげるんだよ。大きな山のような波が来て、さらわれるんだよ。」津波に備えて松明やわらざうりを用意していましたが、津波の恐ろしさは想像を超えていました。



よっちゃんのお母さんは怪我のため、戸板に乗せられて遠くの病院に運ばれますが、亡くなりました。よっちゃんはお寺のかいだんの、うえからお母さんのゆくのを、じっとみながら、なきたいのを、がまんしてみおくりましたが、なみだをこらえたらとてものが いたくなりました。心のなかで、よっちゃんは、「海のバカヤロー」となんかいいも、なんかいいもさげびました。



紙芝居を上演していただいた後、参加者と懇話会を開きました。

津波を経験したことのない津軽出身の学生、宮古出身の学生や、宮古の田老地区に旅したことのある方など、多くの方から、感動したという感想や、考えもつかない怖さを想像して、胸が詰まるといった感想が寄せられました。

また、津軽弁で日本海地震の折の小学生の文集の語り聞かせをしている方々から、是非、一緒に活動をという呼びかけもあり、交流の輪が広がりました。

5. 南部弁の日

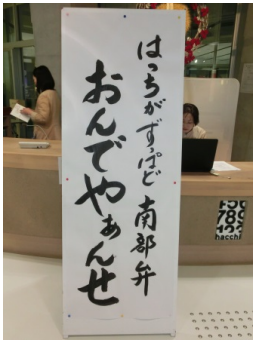
文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！ 方言の魅力 体験する青森県の方言

はっちがずっぱど南部弁

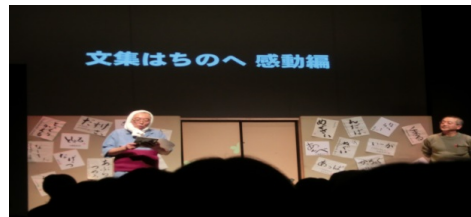
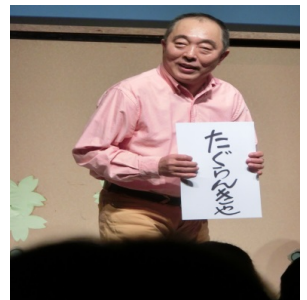
うん、これアよごあんすナ

2013.12.6



このイベントは、八戸ポータルミュージアムはっちにおいて、「南部弁の日」の旗揚げとして行われた。

これまで津軽には「津軽弁の日」という有名な民間方言イベントがあるが、南部弁にはそうしたものが無い。南部弁を残していくためにはどうしたらいいだろう、なんで南部弁は話されないんだろう？という十日市秀悦・柗谷伸夫両氏の企画に賛同して行われた。 本学学生も運営スタッフとして参加した。



大好きな南部弁の披露、南部弁によるラジオ体操や、南部弁で語られる文集はちのへなどもりだくさんの内容で、泣いたり笑ったりの大盛り上りのイベントとなった。来場者は予定していた 150 名を越える盛況ぶり、南部弁に寄せる地域の方々の愛情を感じさせた。

また、津軽弁と南部弁の比較も取り上げられ、同じ青森県の方言でも違うもんだなという声も聞かれた。

6. 南部弁と津軽弁でかたる昔コ

文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！方言の魅力 体験する青森県の方言



南部弁と津軽弁で かたる昔コ

津軽昔コ語り河村勝と南部昔コ語り
榎谷伸夫のコラボがついに実現っ!!

日時 2014 年2月1日(土) 10:00～11:30

会場 弘前学院大学 礼拝堂

出演 榎谷伸夫(八戸公民館館長)

川村 勝(津軽昔コ語り部)

東日本大震災の被災地方言でもある南部弁と津軽弁。青森県の二大方言の昔コ語りにより、方言の魅力を発信することを目的に開催しました。小学生から 70 代の方まで幅広い年代の参加者がありました。



小学生の参加者からは、わかるところもあったし、わからないところもあったけれど、とても楽しかったという感想が聞かれました。南部弁と津軽弁の両方を堪能し、会場は笑いであふれました。



また、弘前市の協力を得て、地元を離れて暮らしておられる被災者の方々を方言で元気づけるお手伝いをすることができました。



同時に開催した今年度の事業の成果に関するポスター展も好評でした。

* 本昔コのポスターは、当日、展示したものではなく、本報告書用に、後日、作成しました。

資料

資料 1 田畑ヨシさんによる紙芝居「つなみ」アンケート

文化庁では、被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与す支援事業をおこなっています。この企画に関するみなさまの声をお聞かせください。

1. 紙芝居「つなみ」に関するご感想は？

--

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある ある程度ある わからない あまりない 全くない

その理由は？

--

3. 被災地域の文化・方言を保存継承しようとする文化庁の取り組みをご存じでしたか？

知っていた 聞いたことがある程度 知らなかった

4. 文化庁のこうした取り組みについて、どうお考えになりますか？

大いに必要 ある程度必要 わからない あまり必要でない 全く必要でない

5. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

6. 今日の催しのことを、何で知りましたか？

新聞 ラジオ ポスター はがき 本学HP その他（ ）

7. 今後も今日のような催しがあれば、参加したいですか？

是非参加したい まあ参加したい わからない あまり参加したくない 参加しない

8. 今日の企画・運営に関するご意見・ご要望などは？

9. 最後にあなたご自身についておたずねします。

男性 女性 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代

ご協力ありがとうございました。

資料2 南部弁の日アンケート

文化庁支援事業 発信！方言の魅力ー体験する青森県の方言ー はっちがずっぱと南部弁 アンケート

文化庁では、被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与す支援事業をおこなっています。この企画に関するみなさまの声をお聞かせください。

1. 本日の催し物に関するご感想は？

満足 まあ満足 普通 少し不満 不満

その他（ご自由にお書き入れください）

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある ある程度ある わからない あまりない 全くない

その理由は？

3. 被災地域の文化・方言を保存継承しようとする文化庁の取組みをご存じでしたか？

知っていた 聞いたことがある程度 知らなかった

4. 文化庁のこうした取組みについて、どうお考えになりますか？

大いに必要 ある程度必要 わからない あまり必要でない 全く必要でない

5. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

6. 今後も今日のような催しがあれば、参加したいですか？

是非参加したい まあ参加したい わからない あまり参加したくない 参加しない

8. 最後にあなたご自身についておたずねします。

男性 女性 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代

ご協力ありがとうございました。

資料3 南部弁と津軽弁でかたる昔こアンケート

文化庁支援事業 発信！方言の魅力ー体験する青森県の方言ー

文化庁では、被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与す支援事業をおこなっています。この企画に関するみなさまの声をお聞かせください。

1. 本日の催し物に関するご感想は？

満足 まあ満足 普通 少し不満 不満

その他（ご自由にお書き入れください）

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある ある程度ある わからない あまりない 全くない

その理由は？

3. 被災地域の文化・方言を保存継承しようとする文化庁の取り組みをご存じでしたか？

知っていた 聞いたことがある程度 知らなかった

4. 文化庁のこうした取り組みについて、どうお考えになりますか？

大いに必要 ある程度必要 わからない あまり必要でない 全く必要でない

5. 今後、方言に関するどのような企画を希望しますか？

6. 今後も今日のような催しがあれば、参加したいですか？

是非参加したい まあ参加したい わからない あまり参加したくない 参加しない

8. 最後にあなたご自身についておたずねします。

男性 女性 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代

ご協力ありがとうございました。

資料4 方言調査票

調査票番号[]

【被災地域における地域の方々に対する方言と意識調査】

面 接 調 査 票 (被 災 さ れ た 方)

調査開始時刻：2013 年 月 日 () [:] (24 時間制で記録)

調査終了時刻：2013 年 月 日 () [:]

F01. インフォーマントのお名前：[]

F02. 居住地：

八戸市・おいらせ町・三沢市・六ヶ所村 []

F03. インフォーマントのご出身地：

01.居住地 02.県内の他地域[市・町・村]

03.県外[都・道・府・県 市・町・村]

F04. インフォーマントの生年月日と年齢：[年 月生まれ] [] 歳

F05. ご職業は：若い頃 [] 現在 []

F06.外住歴： 歳～ 歳 どこ

歳～ 歳 どこ

F07.電話番号：

※以上の情報は必ずしも調査開始直後に聞く必要はない。調査中の雑談等で確認してもよい。

調査者 [] 記入者 []

1.01 朝、なんと挨拶しますか？

1. オハヨゴザエマス
2. オハヨゴザエマシ
3. オハヨゴシ
4. オハヨ
5. オハヨー
6. オハヨーゴザイマス
7. その他 ()

1.02 よく晴れた天気のことを何と言いますか？

1. エー天気
2. イー天気
3. その他 ()

1.03 光が十分に差している状態を何と言いますか？

1. アガルエ
2. アガルイ
3. アガリ
4. アカルイ
5. その他 ()

1.04 強い光などを見て、なかなか目を開けられない状態を何と言いますか？

1. マツボイ
2. マツコイ
3. マッボイ
4. マッコイ
5. マブシイ
6. その他 ()

1.05 しなやかで、ふっくらとしている様子を何と言いますか？

1. ヤッコエ
2. ヤッコイ
3. ヤワラケッ
4. ヤワラカイ
5. ヤーラケー
6. その他 ()

1.06 右の丸は左の丸よりもどうだと言いますか？



- | | | |
|------------|---------------|-----|
| 1. デケエ | 1.06-2.1 の 逆問 | |
| 2. デコイ | 1. ケーケー | その丸 |
| 3. イカイ | 2. ケーケー | |
| 4. デカイ | 3. ケーケー | |
| 5. オオキイ | 4. コマケー | |
| 6. デケー | 5. ケーケー | |
| 7. その他 () | | |

1.07 料理がおいしくないことを何と言いますか？

1. マグネア
2. シマグネア
3. マズイ
4. その他 ()

1.08 朝、食べるご飯を何と言いますか？

1. アサメス
2. アサミシ
3. アサメシ
4. その他 ()

1.09 この果物を何と言いますか？



1. スイグワ
2. スイクワ
3. スイガ
4. スイカ
5. その他 ()

1.10 人に声をかけることを何と言いますか？

1. オンバル
2. ヨンバル
3. ヨンブ
4. ヨブ
5. その他 ()

1.11 口数が多く、ベラベラと話すことを何と言いますか？

1. グンジエル
2. クチャンベル
3. サンベル
4. シャンベル
5. シャベル
6. その他 ()

1.12 散らかったものを整理することを何と言いますか？

1. トリゲル
2. トロケル
3. カタズケル
4. その他 ()

1.13 料理に塩味が足りない時、塩を加えることを何と言いますか？

1. エレル
2. ヘル
3. カデル
4. イレル
5. その他 ()

1.14 あえてそうする必要がないのに、そうすることを何と言いますか？

1. ワジャワジャ
2. ワンザワンザ
3. ワンジャワンジャ
4. ワザワザ
5. その他 ()

1.15 定め時刻や期限に遅れないことを何と言いますか？

1. マニヤル
2. マニアウ
3. その他 ()

1.16 「早くしなさい」と言う時、「しなさい」の部分は何と言いますか？

1. シロデア
2. シロジャ
3. シロ
4. シナサイ
5. その他 ()

1.17 「寒いから上着を着なさい」と言う
時の「寒いから」の部分は何と言いま
すか？

1. サムイヘンデ 5. サンビハンテ
2. サムイスケア 6. インビツワ
3. サムイハンデ
4. サムイカラ
7. その他 ()

1.18 朝昇る太陽のことを何と言いま
すか？

1. アサス
2. アサシ
3. アサヒ
4. その他 ()

1.19 夕方の太陽のことを何と言いま
すか？

1. ユシ
2. ユーシ
3. ユース
4. ユーヒ
5. その他 ()

1.20 丸く見える月のことを何と言いま
すか？

1. マンケチ
2. マンケツ
3. マンケツ
4. その他 ()

1.21 今月の次の月を何と言いますか？

1. レアゲツ
2. ラエゲチ
3. ライゲツ
4. その他 ()

1.22 ここの部分を何と言いますか？



1. ツツフマンズ
2. チチフマンジ
3. ツチフマズ
4. その他 ()

1.23 歩いた後に残る足の形を何と言いま
すか？

1. アサド
2. アスアド
3. アシアド
4. アシアト
5. その他 ()

1.24 ここの部分を何と言いますか？



1. マジゲ
2. マチゲ
3. マズゲ
4. マツゲ
5. その他 ()

1.25 目の上を覆う皮膚を何と言いま
すか？

1. マンブツ
2. マンブチ
3. マンブタ
4. マブタ
5. その他 ()

1.26 穴が開いたり欠けたりした歯のことを何と言いますか？

1. ムスバ
2. ムスバ
3. ムシバ
4. ムシバ
5. その他 ()

1.27 皮膚の表面にある、黒い小さい点を何と言いますか？

1. アンジャ
2. アンザ
3. アザ
4. ホクロ
5. その他 ()

1.28 身長または背中のことを何と言いますか？

1. ヘ
2. フェ
3. シュ
4. セ
5. その他 ()

1.29 店がたくさんある所に買い物に行くことを、どこへ行くと言いますか？

1. マズ
2. マツ
3. マジ
4. マチ
5. その他 ()

1.30 雨の日などに走った時、ズボンのすそなどにはねる水玉を何と言いますか？

1. スッパネ
2. シパネ
3. その他 ()

1.31 これを何と言いますか？

1. ガダズンブリ
2. カダジムリ
3. デンデンムス
4. デンデンムシ
5. ナメグンジ
6. カタツムリ
7. その他 ()



1.32 消費税や所得税などのことをまとめて何と言いますか？

1. ジェキン
2. ジェーキン
3. ゼキン
4. ゼーキン
5. その他 ()

1.33 建物や船、山林などが焼けることを何と言いますか？

1. クッジ
2. クッズ
3. カズ
4. カジ
5. その他 ()

1.34 家の裏手にある出入口のことを何と言いますか？

1. ウラグズ
2. ウラグジ
3. ウラグチ
4. その他 ()

1.35 田舎者の人のことを何と言いますか？

1. ゼァゴタロ
2. ジェァゴタロ
3. ゼァグタロ
4. ジァグタロ
5. イナカモノ
6. その他 ()

1.36 亡くなった人の追善供養をすることを何と言いますか？

1. ホンズ
2. ホンジ
3. ホージ
4. その他 ()

1.37 婚約の印に、両家の間で品物を交換することを何と言いますか？

1. ユワエ
2. ユエノー
3. ユイノー
4. その他 ()

1.38 一年の始まりの祝いをする期間を何と言いますか？

1. ショーグワツ
2. ショーグワツ
3. ショーガツ
4. ショーガツ
5. その他 ()

2.01 いろいろな種類がありますが、こういう虫をひっくるめて何と言いますか？（絵1）

1. ダンプリ
2. ダンプリコ
3. テブラコ
4. トンボ
5. その他（ ）

2.02 この虫を何と言いますか？（絵2）

1. トランボ
2. ドロンゴハッタギ
3. バッタ
4. その他（ ）

2.03 昆虫類の幼虫が、成虫に移る途中で食物の摂取を止め、脱皮して、静止しているものを何と言いますか？（絵3）

1. スコロ
2. ニシシカシ
3. サナギ
4. その他（ ）

2.04 いろいろ種類がありますが、おたまじゃくしが大きくなったものを何と言いますか？（絵4）

1. モッケ
2. ギロ
3. ガエロ
4. ビッキ
5. カエル
6. その他（ ）

2.05 水田や池沼にいるこのような生き物を何と言いますか？（絵5）

1. タツノブ
2. カダゲア
3. カラスゲア
4. テンブ
5. タニシ
6. その他（ ）

2.06 土の中に住み、体が細長いこの生き物を何と言いますか？（絵6）

1. ミミンジ
2. シロコミミンジ
3. メメジ
4. ミミズ
5. その他（ ）

2.07 かたつむりに似ていますがからは背負っていません。暗いじめじめした所に住んでいます。塩をかけると体がとけるこの生き物を何と言いますか？（絵7）

1. ベコ
2. コメクジリ
3. ヒル
4. ツノダシムシ
5. ナメタジ
6. その他（ ）

2.08 長さは5センチくらいで、ひなたの土の上をちよろちよろ走り回ります。色は黒くつやつやと光り、鮮やかな青い線があります。水の中には入りません。この生き物を何と言いますか？（絵8）

1. カナヘビ
2. カナガラヘビ
3. ヨクアシ
4. トカゲ
5. その他（ ）

2.09 にわたりの頭の上にある赤いものを何と言いますか？おんどりのはめんどりに比べて大きいようです。(絵9)

1. キノコ
2. キモ
3. ニボシ
4. カン
5. トサカ
6. その他 ()

2.10 化けて人をだまし、はらっぱつみを打つと言われています。この動物を何と言いますか？(絵10)

1. ムンジナ
2. タヌギ
3. タヌキ
4. その他 ()

2.11 おすの牛のことを何と言いますか？

1. オトコベコ
2. テチベコ
3. オベコ
4. コテベコ
5. オウシ
6. その他 ()

2.12 めすの牛のことを何と言いますか？

1. オナゴベコ
2. メタベコ
3. メベコ
4. メッカ
5. メウシ
6. その他 ()

2.13 春先、川や土手など日当たりのよいところに出てくる植物ですが、何と言いますか？(絵11)

1. スギナ
2. ズク
3. マノサト
4. メコチコ
5. シナ
6. ソデコ
7. コメナ
8. ツクシ
9. その他 ()

2.14 花の色が黄色か白で、花が終わると白い毛のついた実ができて、風に吹かれて飛んでいきます。これを何と言いますか？(絵12)

1. クマクマ
2. カッコモッコ
3. テテッコ
4. クジラグサ
5. ビビガー
6. タンポポ
7. その他 ()

2.15 春に紫色の花をつけます。これを何と言いますか？(絵13)

1. ネコヅラコ
2. スズメバナ
3. マサビコ
4. シナタバナ
5. ヤマゲシ
6. スミレ
7. その他 ()

2.16 日陰に生える、葉がかかった濃い緑色の草で、夏の初めに白い花が咲きます。一種の悪い匂いがします。これを何と言いますか？

(絵14)

1. イヌノヘ
2. クセンコ
3. ジゴクソバ
4. ドクダミ
5. その他 ()

2.17 竹を削っているときや、よく削っていない板をこすったときなどに、何か手に刺さることがあります。何が刺さったと言いますか？ (絵15)

1. カックリ
2. カチョゲ
3. ソソギ
4. トゲ
5. その他 ()

2.18 雑草や雑木などが密生しているところを何と言いますか？

1. シンバツラ
2. ヤンプ
3. ヤブ
4. その他 ()

2.19 畑に出でする耕作の仕事は何と言いますか？

1. シャクショゴト
2. ハダダスゴト
3. クシゴト
4. ノラシゴト
5. その他 ()

2.20 外出するとき、寒さを防ぐために着るものを何と言いますか？

1. ガエド
2. フランケ
3. カグヌキ
4. カグマギ
5. ボーカンギ
6. その他 ()

2.21 頭にかぶって暑さや寒さを防いだり、ちりやほこりを防いだりするものを何と言いますか？

1. ナカオレ
2. シャップ
3. シャツブ
4. ボツツ
5. ボーシ
6. その他 ()

2.22 米のもみから、からをとったものは玄米ですが、その玄米にしたときに残るからのことを何と言いますか？ 卵やりんごを箱詰めするときに使います。

1. スガ
2. モギガラ
3. モギノガ
4. モミガラ
5. その他 ()

2.23 夏の初めと秋と一年に二度とれます。こういう芋を何と言いますか？ (絵16)

1. ニドイモ 2. ゴシヨイモ
3. ナリイモ 4. ジャガイモ
5. その他 ()

2.24 流水を利用して羽根車を回転させ
動力を得る装置で、

結米・製粉などに利用するものを何と
言いますか？

1. ヤガラ
2. ミンジグルマ
3. スイシャ
4. その他 ()

2.25 いろいろな装置によって鳥獣をおびき
よせて捕まえる器具を何と言いますか？

1. トランバサミ
2. シヤ
3. クグシ
4. オドシ
5. バナ
6. クナ
7. その他 ()
8. ワナ

2.26 竹や木などを切り取ることを何と言いま
すか？

1. キギリ
2. カエバチ
3. カンバチ
4. バッサイ
5. その他 ()

2.27 山などに苗木を植えて林木を育てること
を何と言いますか？

1. ソリン
2. カンチ
3. キウエ
4. ショクリン
5. その他 ()

2.28 夏から秋にかけて来る、とても強い風
のことを何と言いますか？一緒に雨もたくさ
んふります。

1. シカダ
2. タイフー
3. その他 ()

2.29 飯米をしまっておく入れ物のことを何
と言いますか？

1. シジ
2. ヒロ
3. セロ
4. タワラ
5. コメビツ
6. その他 ()

2.30 ごまや味噌をすりつぶすのに使う、棒
のほうは何と言いますか？

1. シリコギ
2. ミソシリボーじ
3. マシギ
4. スリコギ
5. その他 ()

2.31 野菜や魚を料理するときに使う板です
が、これを何と言いますか？(絵17)

1. サイバン
2. センバン
3. サバイタ
4. センバ
5. マナイタ
6. その他 ()

2.32 野菜などのあくを抜くために、熱湯にしばらく浸したりすることを何と言いますか？

1. エンデル
2. ニル
3. ニアゲル
4. ミンジダシ
5. ユガク
6. その他 ()

2.33 湯など、煮え立ったものが吹き上がってこぼれることを何と言いますか？

1. マガル
2. フギダシ
3. フキコボレル
4. その他 ()

2.34 あたたかいご飯に、味付けした肉・野菜・油揚げなどの具をかきまぜたものを何と言いますか？

1. カデメシ
2. オジャミシ
3. ゴモグミシ
4. エロマンマ
5. マゼゴハン
6. その他 ()

2.35 食べ物が焦げてなべなどにつくことを何と言いますか？

1. ヤゲジグ
2. コンビツグ
3. コグツク
4. その他 ()

2.36 干した大根を砂糖と食塩とで漬けて重石でおしたものを何と言いますか？

1. ガックランズダ
2. ヌガンジダ
3. ミンジジダ
4. ワリンジダ
5. タクアン
6. その他 ()

2.37 昼の食事のことを何と言いますか？

1. チュハン
2. シルマシシ
3. ヒルメシ
4. その他 ()

2.38 朝・昼・夜の一日の定まった食事以外に、夜おそくに入ってからとる食事を何と言いますか？

1. ハット
2. ヤシヨク
3. その他 ()

2.39 お腹がいっぱいになることを何と言いますか？

1. ハラチエア
2. ハラエツペア
3. マンプク
4. その他 ()

2.40 子供が玩具を使って放事のまねごとをする遊びを何と言いますか？

1. ワサコ
2. オフルメッコ
3. ママゴト
4. その他 ()

2.41 子供のおもりをすることを何と言いますか？

1. アダコ
2. モリコ
3. ネンネゴ
4. コモリ
5. その他 ()

2.42 入浴のためにもうけた場所を何と言いますか？

1. ナガスンバ
2. アラエンバ
3. シフロンバ
4. フロ
5. その他 ()

2.43 正月の神を迎えるために、屋内の燐ほこりを払い清めることを何と言いますか？

1. ススハキ
2. シシバラエ
3. ススハライ
4. その他 ()

- 3.01 「あれは何か」と聞かれて「あれは学校だ」と答えるときにはどのように言いますか。

あれは (学校だ)

1. ダバ
2. ダキヤ
3. (アリヤア)
4. ワ
5. その他 ()

- 3.02 「お父さんはビールは飲まないが、酒は飲む」と言うときの「ビールは飲まない」のところはどのように言いますか。
ビールは (飲まない)

1. ア
2. ダバ
3. 付けない
4. ワ
5. その他 ()

- 3.03 「お父さんはビールは飲まないが、酒は飲む」と言うときの「酒は飲む」のところはどのように言いますか。
酒は (飲まない)

1. ア
2. ダバ
3. バ
4. バリ
7. 付けない
8. ワ
9. その他 ()

- 3.04 「お父さんは酒が好きだ」と言うときにはどのように言いますか。
酒が (好きだ)

1. ア
2. ダバ
3. 付けない
4. ガ
5. その他 ()

- 3.05 「お父さんは毎日酒を飲む」と言うときの「酒を飲む」のところはどのように言いますか。
酒を (飲む)

1. バ
2. 付けない
3. オ
4. その他 ()

- 3.06 「花火を見に行くならおれを連れていってくれ」と言うときにはどのように言いますか。
おれを (連れていってくれ)

1. バ
2. モ
3. トバ
4. ゴト
5. オ
5. その他 ()

- 3.07 「それよりあの方がよい」と言うときにはどのように言いますか。
それより (あの方がよい)

1. ヨリダバ
2. ヨリガ
3. ヨカ
4. スカ
5. ホガ
6. ヨリ
7. その他 ()

- 3.08 友達から「どちらの方角に行ったらよい」と聞かれて「東の方へ行け」と教えるときにはどのように言いますか。
東の方へ (行け)

1. サ
2. エ
3. 付けない
4. ヘ
5. その他 ()

- 3.09 「花火は雨が降っているから中止だ」と言うときの「雨が降っているから」のところはどのように言いますか。
(雨が) 降っているから

1. ハダ
2. ハンダ
3. シダ
4. スケ
5. カラ
6. その他 ()

- 3.10 「きのう花火を見に行った」と言うときの「見に行った」のところはどのように言いますか。
見 (行った)

1. ネ
2. サ
3. ニ
4. その他 ()

- 3.11 「きのう、田中という人が来た」と言うときの「田中という人」のところはどのように言いますか。

田中という人

1. ドムウ
2. ッテヘル
3. ッテス
4. ッツ
5. ズ
6. トエウ
7. その他 ()

- 3.12 「子供なのでわからなかった」と言うときの「子供なので」のところはどのように言いますか。

子供なので (わからなかった)

1. ダガラ
2. ダステ
3. ダスケ
4. ダヘンデ
5. ダハンデ
6. ダドゴデ
7. ナノデ
8. その他 ()

- 3.13 「水を植えたのに枯れてしまった」と言うときにはどのように言いますか。

植えたのに (枯れてしまった)

1. ケンドモ
2. バッテ
3. キヤ
4. ズ
5. ノニ
6. その他 ()

- 3.14 店で「みかんを百円ぶん下さい」と言うときの「百円ぶん」のところはどのように言いますか。

百円ぶん (下さい)

1. アデ
2. デ
3. ナデ
4. アテ
5. ダダ
6. プン
7. その他 ()

- 3.15 「みかんを皮ごと食べた」と言うときの「皮ごと食べた」のところはどのように言いますか。

皮ごと (食べた)

1. ムンツケ
2. マンズラ
3. マデ
4. モナモ
5. グズラ
6. ママ
7. ゴト
8. その他 ()

- 3.16 「この時期の夕焼けは赤いだろう」と言うときの「赤いだろう」はなんと言いますか。

1. アケエベ
2. アカカンベ
3. アカッケ
4. アカイダロウ
5. その他 ()

- 3.17 「きのうの夕焼けは赤かった」と言うときの「赤かった」はなんと言いますか。

1. アケエケアック
2. アカカック
3. その他 ()

- 3.18 「今年の冬は寒いだろう」と言うときの「寒いだろう」はなんと言いますか。

1. サミイベ
2. サムカンベ
3. サムイベ
4. サムイダロウ
5. その他 ()

- 3.19 「去年の冬は寒かった」と言うときの「寒かった」はなんと言いますか。

1. サムクテアック
2. サミクテアック
3. サムカック
4. その他 ()

- 3.20 「彼女より私の方が身長が大きいだろう」と言うときの「大きいだろう」はなんと言いますか。

1. オオキイベ
2. オッキイベ
3. デッケエベ
4. オオキカンベ
5. デカカンベ
6. オオキイダロウ
7. その他 ()

3.21 「彼女より私の方が身長が大きかった」と言うときの「大きかった」はなんと言いますか。

1. オオキクテアツク
2. オッキクテアツク
3. オオキカッタ
4. その他 ()

3.22 「ボチが死んだら悲しいだろう」と言うときの「悲しいだろう」はなんと言いますか。

1. カナスベ
2. カナシイベ
3. カナシカンベ
4. カナシイダロウ
5. その他 ()

3.23 「ボチが死んで悲しかった」と言うときの「悲しかった」はなんと言いますか。

1. カナシクテアツク
2. カナシカッタ
3. その他 ()

3.24 「そこに書いてあるから見てみなさい」と言うときの「書いてあるから」のところをなんと言いますか。

1. カガサツチューハンデ
2. カイデラハンデ
3. カイテアルハンデ
4. カイテアルスケ
5. カイテアルカラ
6. その他 ()

3.25 「きのう見る約束をしたテレビを見たか？」と聞くときの「見たか？」の部分をはなんと言いますか。

1. ミタ
2. ミラサツタ
3. ミタカ
4. その他 ()

3.26 「手紙を書こう」と言うときの「書く」はなんと言いますか。

1. カグ
2. カグカ
3. カガネバマエネ
4. カグジャ
5. カグベガナ
6. カグベネナ
7. カグビヤ
8. カグド
9. カガネバナンネ
10. カガネバワガネ
11. カコウ
12. その他 ()

3.27 「たぶん手紙を書くだろう」と言うときの「書くだろう」のところはなんと言いますか。

1. カグベ
2. カグビヤ
3. カグビョン
4. カグナー
5. カグゴツタ
6. カグダロウ
7. その他 ()

3.28 「ぐずぐずしないで早く起きろ」と言うときの「起きろ」のところはなんと言いますか。

1. オギロ
2. オギネガ
3. オギナガ
4. オキロ
5. その他 ()

3.29 自分自身で「明日は早く起きよう」と言うときの「起きよう」のところはどのように言いますか。

1. オギルガ
2. オギル
3. オギッカ
4. オギネバマエネ
5. オギベセ
6. オギド
7. オギルンベ
8. オキヨウ
9. オキレ
10. その他 ()

3. 31 「足でボールを蹴れ」と言うときの「蹴れ」は何と言いますか？

1. ケロ 2. ケットバセ
3. フメ 4. フマネガ
5. フムグレ 6. ケトバサネガ
7. フ (ン) ズグロ 8. ケレ
9. その他 ()

3. 32 「足でボールを蹴らない」と言うときの「蹴らない」は何と言いますか？

1. ケラネ 2. ケトバサネ
3. フマネージャ 4. フムグネ
5. ケネ 6. フ (ン) ズグネ
7. ケラナイ
8. その他 ()

3. 33 「あしたもここに来よう」とつづやくときの「来よう」は何と言いますか？

1. タ 2. タベ
3. クル 4. コネバナネ
5. コネバマネ 6. クルゼヤ
7. コヨウ
8. その他 ()

3. 34 「ここに来い」と言うときの「来い」は何と言いますか？

1. コエ 2. コ
3. コネガ 4. コエジャ
5. キナガ 6. コイ
7. その他 ()

3. 35 「ぐずぐずしないで早くしろ」と言うときの「しろ」は何と言いますか？

1. スロ 2. セ 3. シロジャ
4. スネガ 5. シナガ
6. シロ 7. その他 ()

3. 36 「仕事を頼んだのにまだしない」と言うときの「しない」は何と言いますか？

1. シネ 2. スネ
3. サネ 4. シナイ
5. その他 ()

3. 37 「これだけあれば金は足りる」と言うときの「足りる」は何と言いますか？

1. タレル 2. タエル
3. マニアウ 4. タグヤンダ
5. マニアル 6. タリル
7. その他 ()

3. 38 「金が足りない」と言うときの「足りない」は何と言いますか？

1. タリネ 2. タレネ
3. タエネ 4. タワネ
5. タンネ 6. テネ
7. タリナイ
8. その他 ()

3. 39 「その仕事はおれに任せろ」と言うときの「任せろ」は何と言いますか？

1. マガセロ 2. ヤラセロ
3. マガヘナガ 4. マカセロ
5. その他 ()

3. 40 「あれを見ろ」と言うときの「見ろ」は何と言いますか？

1. ミレ 2. ミネガ
3. ミロジャ 4. ミロ
5. その他 ()

3. 41 「あの人は仕事を他人に任せない」と言うときの「任せない」は何と言いますか？

1. マガセネ 2. タノマネ
3. ア(ン)ズゲネ 4. マカセナイ
5. その他()
3. 42 「今夜は早く寝よう」とつぶやくときの「寝よう」は何と言いますか?
1. ネベ 2. ネルベシ
3. ネルジャ 4. ネルガ
5. ネネバマネ 6. ドンブス
7. ネビヤ 8. ネルエ
9. ネヨウ
10. その他()
3. 43 「窓を開けよう」とつぶやくときの「開けよう」は何と言いますか?
1. アゲジャ 2. アゲルベ
3. アゲルガ 4. アゲネバマネ
5. アゲベ 6. アゲルエ
7. アケロウ
8. その他()
3. 44 「あいつは、あした、たぶん来るだろう」と言うときの「来るだろう」は何と言いますか?
1. クルネ 2. クルベ
3. クルビヤ 4. クルビョン
5. クルンデネーナー
6. クルゴック 7. クルダロウ
8. その他()
3. 45 「早くしよう」とつぶやくときの「しよう」は何と言いますか?
1. ショー 2. ス
3. スペー 4. スルガ
5. サネバマエネ 6. ショウ
7. その他()

3. 46 「あいつはたぶんその仕事をするだろう」と言うときの「するだろう」は何と言いますか?
1. スルベ 2. スルビョン
3. スガサ 4. スベ
5. スルゴック 6. スルオン
7. スルダロウ
8. その他()
3. 47 「あそこは草が通らないのでたぶん静かだろう」と言うときの「静かだろう」は何と言いますか?
1. スンズガダベ
2. スンズガダビョン
3. シズガダロック
4. シズカダロウ
5. その他()
3. 48 「ここは草が通らない静かなところだ」と言うときの「静かなところだ」は何と言いますか?
1. スンズガダトコロ
2. スントスタトコロ
3. シズカナトコロ
4. その他()
3. 49 「そこがそんなに静かなら、おれも住んでみたい」と言うときの「静かなら」は何と言いますか?
1. スンズガダラ
2. シズカナラ
3. その他()
3. 50 「この山は岩本山より高いだろう」と言うときの「高いだろう」は何と言いますか?

1. タグベ 2. タグダベ
3. タグビョン 4. タグジャ
5. タグベシ 6. タグゴック
7. タグルベ 8. タカイダロリ
9. その他 ()

3. 51 「そんなに値段が高いなら買わない」と言うときの「高いなら」は何と言いますか？

1. タグダラ 2. タグンダバ
3. タグガタラ 4. タカイナラ
5. その他 ()

3. 52 「この着物は高かった」と言うときの「高かった」は何と言いますか？

1. タグファタ 2. タグフテアッタ
3. タグスハ 4. タグクタック
5. タグガック 6. タカカック
7. その他 ()

3. 53 「この品物は値段が高くて買も良い」と言うときの「高くて」は何と言いますか？

1. タグクテ 2. タダクテ
3. タグドネ 4. タカクテ
5. その他 ()

3. 54 「金魚が死んでいる」と言うときの「死んでいる」は何と言いますか？

1. シンデラ 2. シンジャー
3. シンジュー 4. シンデイル
5. その他 ()

3. 55 「今手紙を書いている」と言うときの「書いている」は何と言いますか？

1. カイデラ 2. カイジャー
3. カイジュー 4. カイテイル
5. その他 ()

3. 56 「雨が降ってバケツに水がたまっている」と言うときの「たまっている」は何と言いますか？

1. タマツテラ 2. タマツチュー
3. タマツチャー 4. タマツテイル
5. その他 ()

3. 57 「もうお店が閉まっている」と言うときの「閉まっている」は何と言いますか？

1. シマツテラ 2. シマツチュー
3. シマツチャー 4. シマツテイル
5. その他 ()

3. 58 「今朝が降っている」と言うときの「降っている」は何と言いますか？

1. フツテラ 2. フツチャー
3. フツチュー 4. フツテイル
5. その他 ()

3. 59 「今何してる？」と聞かれ、「今新聞を読んでいる」と言うときの「読んでいる」は何と言いますか？

1. ヨンダラ 2. ヨンジャー
3. ヨンジュー 4. ヨンデイル
5. その他 ()

3. 60 「これ以上重にりんごを積むことはできない」と言うときの「積むことはできない」の部分は何と言いますか？

1. ツマテンナイ 2. ツマラサンナイ
3. ツマテンネ 4. ツマラサンネ
5. ツムコトハデキナイ
6. その他 ()

3.61 「足がむくんで靴をはくことができない」と言うときの「はくことができない」の部分は何と言いますか？

1. ハカサンネ
2. ハケネ
3. ハケナイ
4. ハクコトガデキナイ
5. その他()

3.62 「選挙のポスターが貼ってある」と言うときの「貼ってある」の部分は何と言いますか？

1. ハラサッデラ
2. ハラサッテラ
3. ハラサッチュー
4. ハラサッデル
5. ハッテアル
6. その他()

3.63 「テレビは見ないようにしようと思っても自然と見てしまう」と言うときの「見てしまう」の部分は何と言いますか？

1. ミラサル
2. ミテマウ
3. ミテシマウ
4. その他()

3.64 自転車で「紐をひくつもりはなかったのにひいてしまった」と言うときの「ひいてしまった」の部分は何と言いますか？

1. ヒカサツタ
2. ヒイテマツタ
3. ヒイテシマツタ
4. その他()

3.65 聞くつもりはなかったのに「友達の内緒話を聞いてしまった」と言うときの「聞いてしまった」の部分は何と言いますか？

1. キカサツタ
2. キイテマツタ
3. キイテシマツタ
4. その他()

3.66 「魚がうまく焼くことができた」と言うときの「焼くことができた」の部分は何と言いますか？

1. ヤカサツタ
2. ヤケラサツタ
3. ヤケタ
4. ヤクコトガデキタ
5. その他()

3.67 「今日は暑かったので自然とジュース・ビールを飲んだ」と言うときの「飲んだ」の部分は何と言いますか？

1. ノマサツタ
2. ノンデマツタ
3. ノンダ
4. その他()

3.68 本を読むつもりはなかったのに「本を読んだ」と言うときの「読んだ」の部分は何かと言いますか？

1. ヨマサル
2. ヨマササル
3. ヨマサツタ
4. ヨマササツタ
5. ヨンダ
6. その他()

3.69 「昨日は運動会があったか？」と聞かれて「いや、なかった」と言うときの「なかった」の部分は何と言いますか？

1. ナクタツタ
2. ナガツタ
3. ネフデタ
4. ネスタ
5. ナカッタ
6. その他()

3.70 「あそこには行かなくてもよい」と言うときの「行かなくても」の部分は何と言いますか？

1. エガナクテモ
2. エガネンデモ
3. エガネフテモ
4. エガネステモ
5. エガヘモ
6. イカナクテモ
7. その他()

3.71 「電燈が明るいので新聞を読むことができます」と言うときの「読むことができる」の部分は何と言いますか？

1. ヨメル
2. ヨムニエエ
3. ヨムネ
4. ヨムコトガデキル
5. その他()

3.72 「うちの孫は一人で着物を着ることができます」と言うときの「着ることができる」の部分は何と言いますか？

1. キレル
2. キネエステ
3. キニエ

4. キエル
5. キルコトガデキル
6. その他()

3.73 「おまえが行ったってだめだ」と言うときの「だめだ」の部分は何と言いますか？

1. ワガネ
2. マネ
3. ダメダ
4. その他()

3.74 「うちの孫は字をおぼえたのでもう本を読むことができる」と言うときの「読むことができる」の部分は何と言いますか？

1. ヨメル
2. ヨメルジャ
3. ヨムニエ
4. ヨムコトガデキル
5. その他()

3.75 「車があるので早く来ることができる」と言うときの「来ることができる」の部分は何と言いますか？

1. クルニエ
2. キレル
3. コレル
4. クルニヤネ
5. クルコトガデキル
6. その他()

3.76 「この着物は古くなったけれどもまだ着ることができる」と言うときの「着ることができる」の部分は何と言いますか？

1. キレル
2. キルニエエ
3. キニエ
4. キネエーデバ
5. キルコトガデキル
6. その他 ()

3.77 「目覚し時計があるので早く起きることができる」と言うときの「起きることができる」の部分は何と言いますか？

1. オギニエエナ
2. オギネエ
3. オギニエ
4. オギレル
5. オギニジャネ
6. オキルコトガデキル
7. その他 ()

3.78 「うちの孫はまだ小さくて字を知らないので読むことができない」と言うときの「読むことができない」の部分は何と言いますか？

1. ヨメネ
2. ヨンメエジャ
3. ヨムコトガデキナイ
4. その他 ()

3.79 「電燈が暗いので新聞を読むことができない」と言うときの「読むことができない」の部分は何と言いますか？

1. ヨマエネ
2. ヨメネ
3. ヨマレネ
4. ヨンメネ
5. ヨムコトガデキナイ
6. その他 ()

3.80 「こんな簡単な仕事ならおれにだってできる」と言うときの「できる」の部分は何と言いますか？

1. デギル
2. デキル
3. その他 ()

3.81 「この万年筆はすらすらと書くことができる」と言うときの「書くことができる」の部分は何と言いますか？

1. カガサル
2. カグニエエ
3. カゲル
4. カグネジャ
5. カクコトガデキル
6. その他 ()

3.82 「あのときはおもしろかったなあ」と言うときの「おもしろかった」の部分は何と言いますか？

1. オモスロクタッタ
2. オモシロフテタ
3. オモスログタ
4. オモスロカテアッタ
5. キンベエフテアタ
6. オモスレー
7. オモシログタ
8. オモシロカッタ
9. その他 ()

3.83 「あのときはおもしろかったなあ」と言うときの「なあ」の部分は何と言いますか？

1. ノ
2. ジャア
3. ゴトアッタナ
4. ナア

5. その他 ()

3.84 「うちの孫はまだ一人では着物を着ることができない」と言うときの「着ることができない」の部分は何と言いますか？

1. キレネ
2. キレネスデ
3. キラエネ
4. キルコトガデキナイ
5. その他 ()

3.85 「この着物は古くなったのでもう着ることができない」と言うときの「着ることができない」の部分は何と言いますか？

1. キレネ
2. キラエネ
3. キルゴクデジネ
4. キルコトガデキナイ
5. その他 ()

3.86 「あの人は字を上手に書いたよ」と言うときの「書いたよ」の部分は何と言いますか？

1. カイタナア
2. カイタエ
3. カイタフトダジャ
4. カイタジャ
5. カイタノミデ
6. カイタモンダガ
7. カイタズ
8. カイタヨ
9. その他 ()

3.87 「あの人は字を上手に書いたよ」と言うときの「書いた」の部分は何と言いますか？

1. ケダ
2. カエデアッタ
3. カエデラ
4. ケエダッテ
5. カグ
6. カイタ
7. その他 ()

3.88 「昔、ここにももの知りの人がいたよ」と言うときの「いた」の部分は何と言いますか？

1. エタツタ
2. エデ
3. アツタツタ
4. エデアッテ
5. イタツタ
6. イタ
7. その他 ()

3.89 「昔、ここにももの知りの人がいたよ」と言うときの「いたよ」の部分は何と言いますか？

1. イタズ
2. イタジャ
3. イタンダド
4. イタセエ
5. イタオナア
6. イタヨ
7. その他 ()

3.90 「桜が散りそうだ」と言うときの「散りそうだ」の部分は何と言いますか？

1. ツルヨンタ
2. ツツテスマル
3. テリヨル
4. オズルドゴダ

5. オズデマル
6. ツルエンク
7. ツリガガッテラ
8. テルゴッタ
9. テリソーダ
10. その他 ()

3.91 「金魚が死にそうだ」と言うときの「死にそうだ」の部分は何と言いますか？

1. スヌヨンダ
2. シニヨル
3. スヌドゴダ
4. スヌエンタ
5. スニガガッテラ
6. スニタラダ
7. シヌゴッタ
8. シニソオダ
9. その他 ()

3.92 「あの人はずいぶん相模が強かったよ」と言うときの「強かった」の部分は何と言いますか？

1. ツエー
2. キカネ
3. ツヨフテ
4. ツヨガッタ
5. キツフテ
6. チュエステアタ
7. ツエータ
8. ツヨクテアッタ
9. ツヨカッタ
10. その他 ()

3.93 「あの人はずいぶん相模が強かったよ」と言うときの「強かったよ」の部分は何かと言いますか？

1. ツヨカッタヘトダッタズ
2. ツヨカッタフトダ
3. ツヨカッタジャナア
4. ツヨカッタナ
5. ツヨカッタヨ
6. その他 ()

3.94 「明日は外出するので早めに起きさせる」と言うときの「起きさせる」の部分は何と言いますか？

1. オキラセル
2. オキサセル
3. その他 ()

3.95 「この前撮った写真を見させる」と言うときの「見させる」の部分は何と言いますか？

1. ミラセル
2. ミサセル
3. その他 ()

3.96 「そこにあるボールを投げさせる」と言うときの「投げさせる」の部分は何と言いますか？

1. ナガラセル
2. ナガサセル
3. その他 ()

3.97 「この服を子供に着させる」と言うときの「着させる」の部分は何と言いますか？

1. キラセル
2. キサセル
3. その他 ()

3.98 「のぼせるので風呂から早めに出させる」と言うときの「出させる」の部分は何と言いますか？

1. デラセル
2. デサセル
3. ダサセル
4. その他 ()

3.99 「今日は寒いのでアイスは買わない」というときの「買わない」の部分は何と言いますか？

1. カネ
2. カワネ
3. カンネ
4. カワナイ
5. その他 ()

3.100 「私はその噂は知らない」というときの「知らない」の部分は何と言いますか？

1. シラネ
2. シラニ
3. シライン
4. シラン
5. シラナイ
6. その他 ()

3.101 「近くに行くので車は使わない」というときの「使わない」の部分は何と言いますか？

1. ツカネ
2. ツカンネ
3. ツカワネ
4. ツカワナイ
5. その他 ()

3.102 「頼まれた仕事はまだ終わらない」というときの「終わらない」の部分は何と言いますか？

1. オワネ
2. オワンネ
3. オワラネ
4. オワラナイ
5. その他 ()

3.103 「今になって御やんでも始まらない」というときの「始まらない」の部分は何と言いますか？

1. ハジマネ
2. ハジマンネ
3. ハジマラネ
4. ハジマラナイ
5. その他 ()

3.104 「彼の態度には我慢ならない」というときの「ならない」の部分は何と言いますか？

1. ナネ
2. ナンネ
3. ナラネ
4. ナラナイ
5. その他 ()

3.105 「最近雨が降らない」というときの「降らない」の部分は何と言いますか？

1. フネ
2. フンネ
3. フラネ
4. フラナイ
5. その他 ()

3.106 「寒いので暖房のスイッチは切らない」というときの「切らない」の部分
を何と言いますか？

1. キネ
2. キンネ
3. キラネ
4. キラナイ
5. その他 ()

3.107 「夏バテで食べ物がのどを通らない」というときの「通らない」の部分
を何と言いますか？

1. トネ
2. トオネ
3. トオンネ
4. トオラネ
5. トオラナイ
6. その他 ()

3.108 「今日は風邪をひいているので風呂に入らない」というときの「入らない」
の部分は何と言いますか？

1. ハネ
2. ハンネ
3. ハイネ
4. ハインネ
5. ハイラネ
6. ヘネ
7. ヘンネ
8. ハイラナイ
9. その他 ()

3.109 「お父さんがまだ帰らない」という
ときの「帰らない」の部分は何と言
いますか？

1. カネ
2. カエネ
3. カエンネ
4. カエラネ
5. カエラナイ
6. その他 ()

3.110 「彼の考えていることはよくわから
ない」というときの「わからない」の
部分を何と言いますか？

1. ワガネ
2. ワガエ
3. ワガンネ
4. ワガラネ
5. ワカラナイ
6. その他 ()

3.111 「暖冬でなかなか雪が積もらない」
というときの「積もらない」の部分
を何と言いますか？

1. ツモネ
2. ツモンネ
3. ツモラネ
4. ツモラナイ
5. その他 ()

3.112 「あの人は朝から何もしゃべらな
い」というときの「しゃべらない」
の部分は何と言いますか？

1. シャベネ
2. シャベンネ
3. シャベラネ
4. シャベンナイ
5. シャベンネン
6. イワネ
7. シャベラナイ
8. その他 ()

3.113 「試験が難しくてなかなか受から
ない」というときの「受からない」の部
分は何と言いますか？

1. ウガネ
2. ウガンネ
3. ウガラネ
4. ウガエン
5. ウガイン
6. アガイン
7. ウカラナイ
8. その他 ()

3.114 「その計算は簡単なので間違わない」というときの「間違わない」の部分は何と言いますか？

1. マチガネ
2. マチガンネ
3. マチガワネ
4. マチガワナイ
5. その他 ()

3.115 「オリから逃げたクマがまだつかまらない」というときの「つかまらない」の部分は何と言いますか？

1. ツカマネ
2. ツカマンネ
3. ツカマラネ
4. ツカマラナイ
5. その他 ()

3.116 「あの人は私に一度も謝らない」というときの「謝らない」の部分は何と言いますか？

1. アヤマネ
2. アヤマンネ
3. アヤマラネ
4. アヤマラナイ
5. その他 ()

3.117 「症れているので何もしない」というときの「しない」の部分は何と言いますか？

1. シネ
2. サネ
3. シナイ
4. その他 ()

3.118 「糊で貼ったけれどくっつかない」というときの「くっつかない」の部分は何と言いますか？

1. ネッパネ
2. ネッパンネ
3. ネッバラネ
4. ネッパエン
5. ネッバラナイ
6. クツツカネ
7. クツツカナイ
8. その他 ()

ご協力ありがとうございました。

4.01 津軽介についてどんな印象がありますか？

●悪い言葉

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●やばったい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●汚い

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●まのびしている

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●ねばっこい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●きつい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●聞き取りにくい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●荒っぽい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●早口

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●感情的

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●良い言葉

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●素朴

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●使いやすい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●味がある

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●親しみやすい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●表現が豊か

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●穏やか

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●丁寧

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

4.0#2 南部介についてどんな印象がありますか？

●悪い言葉

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●やばったい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●汚い

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●まのびしている

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●ねばっこい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●きつい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●聞き取りにくい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●荒っぽい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●早口

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●感情的

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●良い言葉

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●素朴

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●使いやすい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●味がある

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●親しみやすい

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●表現が豊か

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●穏やか

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

●丁寧

(そう思う・ややそう思う
そうは思わない・なんとも思わない)

4.03 新聞は何を読んでいますか？

(例：全国紙、津軽新聞、南部の方の新聞等)

1. _____
2. 読まない

● 「読む」と答えた方にお聞きます。

新聞に南部の方の記事、津軽の方の記事
があればどちらを見ますか？

1. どちらも見る
2. 南部の方
3. 津軽の方
4. どちらも見ない

その他()

4.04 テレビは平均して一日何時間くらい
見ますか？

1. _____
2. 見ない

● 「見る」と答えた方にお聞きます。

テレビは全国放送と地方版ではどちら
をよく見ると思いますか？

1. 全国放送
2. 地方版
3. その他()

4.05 買い物はどこによく行きますか？

1. _____
2. 行かない

● 品物の大小で行く所は違いますか？

1. だいたい同じ
2. 違う()

● 遠くまで行くとしたら

どこまで行きかすか？

1. _____
2. 特に行かない

● 津軽と南部のことばは違うと思います
か？

1. 思う
2. 思わない
3. その他()

4.06 ご両親の職場はどこですか？

- ・ 父 _____
- ・ 母 _____

4.07 学区・中等教育をどこで受けまし
たか？(受けていますか？)

1. _____
2. その他()

4.08 南部の人と津軽の人では、どちら
に知り合いが多いですか？

1. 南部
2. 津軽
3. その他 ()

4.09 自分が使っていることばは次のうちのどれに当てはまると思いますか？

1. (津軽弁・南部弁・混在)
2. 共通語
3. 方言と共通語の混在
4. その他()

4.10 昔と今とでは自分の使っていることばは違っていると思いますか？

1. 思わない
2. 思う どのように？
 - a. 津軽→南部
 - b. 南部→津軽
 - c. 方言→共通語
 - d. その他()

●前の質問に「思う」と答えた方は昔のことばが今も混ざっていると思いますか？

1. 思う
2. 思わない
3. その他()

4.11 今後、津軽弁と南部弁はどうかと思いますか？

1. なんとも思わない
2. このまま
3. 混ざる(混合化)する
4. 標準語化する
5. その他()

4.12 今後、津軽弁と南部弁を残していきたいと思いますか？

1. 残したいと思う
2. やや思う
3. そうは思わない
4. なんとも思わない
5. 残したくない
6. その他()

ご協力ありがとうございました。

あとがき

青森県の二大方言である津軽弁と南部弁の境界は、旧津軽藩と南部藩の境界と重なることで、つとに有名である。しかし、青森県の義務教育で使用されている社会科の副教材にも、津軽と南部の境界は記されておらず、以外にも津軽と南部の境界がどこにあるのか知らない学生や住民が多く見受けられる。

また、南部方言は、その内部地域差が、つまびらかにされていない方言である。そのため、今年度からそうした基本的事項を調査記録して、国語教育で活用できる基礎資料や教材の作成に着手した。来年度以降、今後の研究の進展が待たれる。

方言を活用し、地域の人々を勇気づけ・元気づける取り組みは、方言に対する価値が見出しにくい南部地域において、新たな取り組みとなった。

各事業については、新聞（web 動画を含む）・テレビ等でも取り上げられ、社会的に高い評価を受けた。

つなみ紙芝居：陸奥新報 11 月 15 日・朝日新聞 11 月 23 日・東奥日報 11 月 26 日

南部弁の日：NHK 青森アップルワイド等 12 月 6 日・デーリー東北 12 月 7 日

南部弁と津軽弁でかたる昔コ：デーリー東北 2 月 1 日・陸奥新報 2 月 5 日

本研究をなすにあたって、多くの方々にお世話になりました。六ヶ所村・三沢市・おいらせ町・八戸市の話者のみなさまには、多くのことを学ばせていただきました。また、川村勝氏、田畑ヨシ氏、十日市秀悦氏、桎谷伸夫氏には、本事業へのご理解とご協力を賜りました。その他、文化庁の鈴木仁也氏にも、貴重な助言やご助力をいただきました。心から感謝申し上げます。

なお、田畑ヨシさんのインタビューの文字化には、2012 年度に東北大学川越めぐみ氏の作成したマニュアルの提供を受けました。合わせて感謝申し上げます。

最後に、被災地のみなさんを、学生という立場から、自分にできること（学問）をとおして助けたいという、ひたむきな志から、熱心にこの研究に取り組んでくれた本学の学生諸君、献身的にお助けいただいた総務課・下山由香里さんにも心から感謝します。

弘前学院大学 文学部
准教授・今村かほる

文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！方言の魅力
-体験する青森県の方言-
報告書

平成 26（2014）年 2 月 14 日 印刷
2 月 20 日 発行

編集・発行：弘前学院大学 文学部 今村かほる

〒036-8577 弘前市稔町 13-1 弘前学院大学 TEL 0172-34-5211（代）